唐津市論点データ集

【第２部：個別課題編】

第２部　個別課題編　目次

カテゴリー①　快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点1：住まいは確保できていますか？ 1
論点2：市内の移動手段は確保されていますか？ 3
論点3：他のまちと気軽に行き来できますか？ 5
論点4：安全で快適な道路の整備は進んでいますか？ 7
論点5：安心して暮らせる消防・救急体制になっていますか？ 9
論点6：災害への備えは大丈夫ですか？ 11
論点7：犯罪のないまちになっていますか？ 13

カテゴリー②　身近な環境が守られているか考えてみよう！

論点8：よい景観やまちなみになっていますか？ 15
論点9：利用しやすい公園となっていますか？ 17
論点10：安心な水を届ける基盤は保たれていますか？ 19
論点11：ごみの減量はできていますか？ 21
論点12：地球にやさしいエネルギーの利用は進んでいますか？ 23

カテゴリー③　健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点13：子どもを育てやすい環境ですか？ 25
論点14：地域の医療は充実していますか？ 27
論点15：市民の健康は保たれていますか？ 29
論点16：日々の買い物に不自由していませんか？ 31
論点17：安心して老後を過ごしていますか？ 33
論点18：障害のある人の社会参加は進んでいますか？ 35
論点19：社会保障（セーフティネット）は充実していますか？ 37

カテゴリー④　魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点20：農業に魅力を感じていますか？ 39
論点21：林業に魅力を感じていますか？ 41
論点22：畜産業に魅力を感じていますか？ 42
論点23：水産業に魅力を感じていますか？ 43
論点24：地域に貢献する工業が育っていますか？ 45
論点25：地域に貢献する商業が育っていますか？ 47

カテゴリー⑤　魅力ある観光地となっているか考えてみよう！

論点26：観光客が来たいと思うまちになっていますか？ 49
論点27：唐津の魅力は十分に活かされていますか？ 51

カテゴリー⑥　健やかな心とからだが育まれているか考えてみよう！
論点28：未来を担う子供たちは育っていますか？ 53
論点29：学びの場は確保されていますか？ 55
論点30：人権意識は高まっていますか？ 57
論点31：スポーツ環境は充実していますか？ 59
論点32：文化や芸術を育むまちになっていますか？ 61

カテゴリー⑦　市民協働のまちづくりについて考えてみよう！
論点33：市民の力が発揮できるまちですか？ 63
論点34：市政に市民の声が活かされていますか？ 65

カテゴリー⑧　行政にムダがないか考えてみよう！
論点35：職員の能力は十分に活かされていますか？ 67
論点36：身近な公共施設は活用されていますか？ 69
論点37：公共施設をどう維持していきますか？ 71
論点38：効率的な自治体運営は行われていますか？ 73

（注）

- S は昭和、H は平成を示す。「年度」と表記がある場合は 4 月から翌年 3 月の 1 年間、表記がない場合は 1 月から 12 月の 1 年間又は表記のある時点（〇月末など）を示す。
- 図中に表示された数字は、表示桁数を調整したり四捨五入したりしている関係で、比率や合計がわずかに合わない場合がある。
- 出典で、課名のみ表記しているものは、唐津市の組織を示す。

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点1： 住まいは確保できていますか？

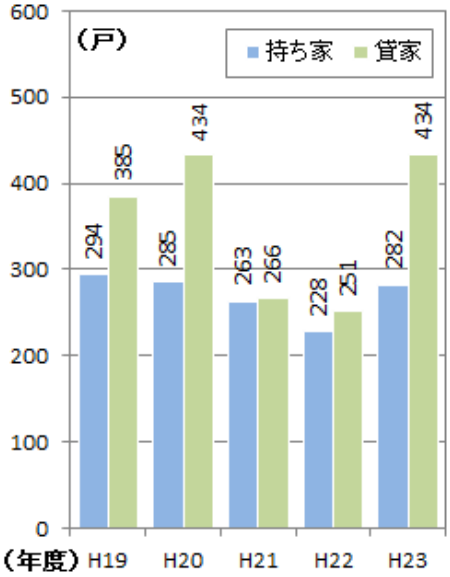
●論点を選んだ理由、背景

・ 過疎化や高齢化が進行していくなか、市民はどのような場所に住まいを求め、また確保できているのか。住み続けるためには何が必要なのか。

●唐津市のいま

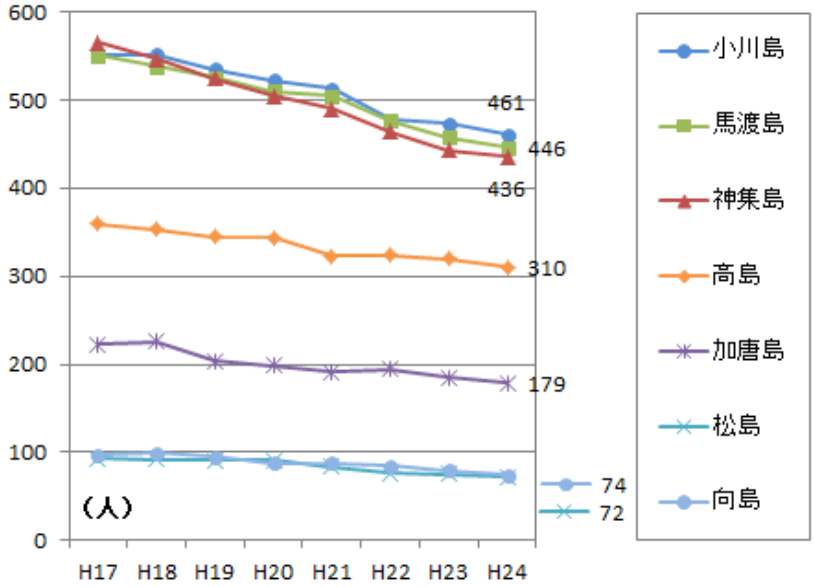
・ 周辺部地域の人口が減少している一方、中心市街地よりも新興住宅が多い鏡地区、浜玉地区に人口増加がみられる。**【基礎データ編 p.10】**
・ 持ち家より貸家が増加しており、民間賃貸住宅の整備が進んでいる。**（データ1）**
・ 唐津市は多くの離島があることからも、高齢化や人口減少による住環境の悪化が懸念されている。**（データ2）**
・ 全国では管理放棄された空き家の管理が問題となっているなか、佐賀県でも空き家が著しく増加している。また、唐津市でも使用予定のない空き家が半数を超えている。**（データ3）（データ4）**
・ 空き家が増加する要因の一つには、住宅の解体に費用がかかるうえ、解体後は、土地の固定資産税の軽減措置がなくなるため、解体前の約6倍の額を課税されることがある。
・ 防災性・安全性に優れ、お店や働く場が近くにある利便性の高い住環境が望まれている。**（データ5）**
・ 「現在の住まいに住み続けたい」又は「市内の別の住宅に転居したい」という唐津市への定住意向は全体の 83.3%にのぼる。**（データ6）**

（データ1） 新築住宅着工戸数の推移



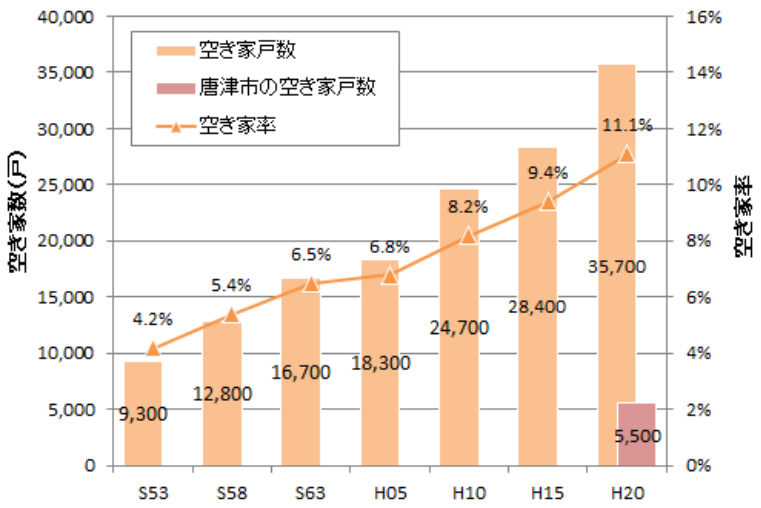
※出典：佐賀県住宅着工統計

（データ2） 離島人口の推移



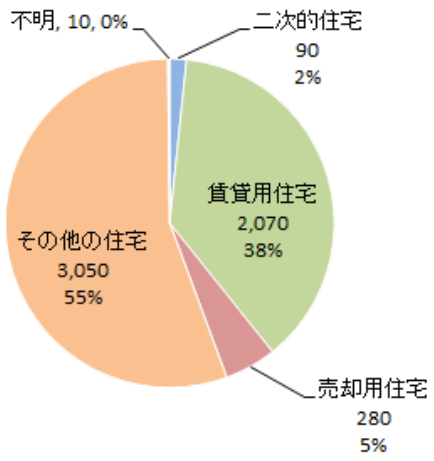
※各年 3 月末現在、出典：唐津市男女共同参画・地域づくり課

（データ3） 佐賀県の空き家数・空き家率の推移



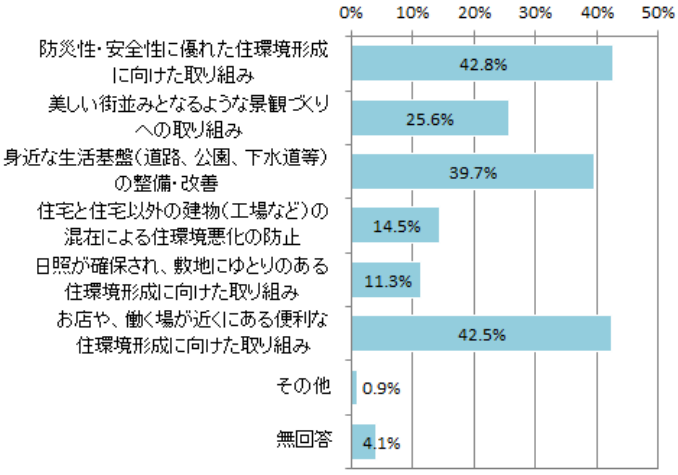
※各年 10 月 1 日現在、出典：平成 20 年住宅・土地統計調査

（データ4） 唐津市の空き家の内訳



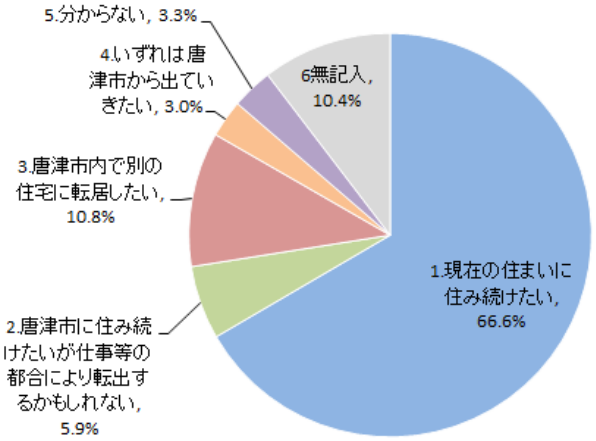
※出典：平成 20 年住宅・土地統計調査

（データ5） 市民アンケート結果
（住宅地の環境向上のために重要なこと）



※出典：都市計画マスタープラン市民アンケート、平成 19 年 7 月調査

（データ6） 唐津市への継続居住意向

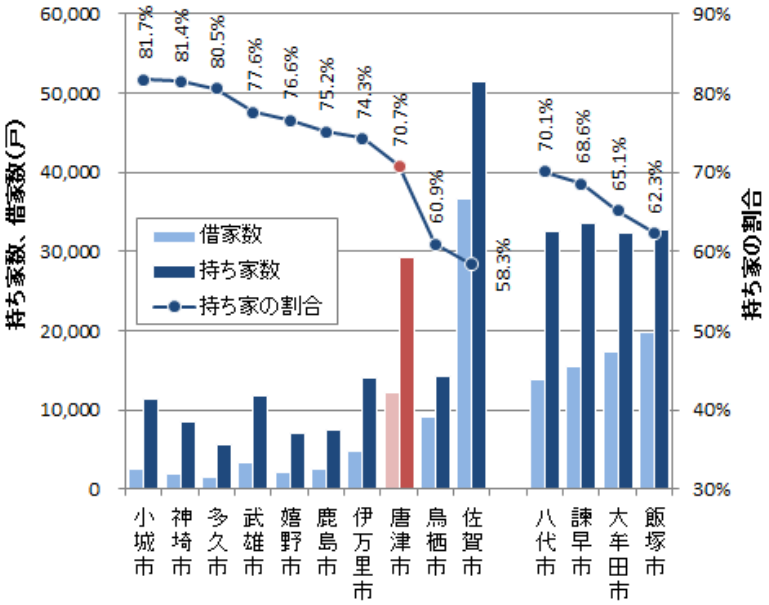


※出典：唐津市住宅事情調査（平成 18 年 11 月、建築課）

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 佐賀県は全体的に持ち家の割合が高く、唐津市も九州の人口類似市と比較して、持ち家の割合が高い。
  （データ7）
- 県内 10 市の転入者数及び転出者数を比較してみると、唐津市は転出者数の割合が高い。
  【基礎データ編 p.16】

（データ7） 県内 10 市・九州の人口類似市の持ち家数・借家数



※平成 20 年現在、出典：統計でみる市区町村のすがた 2012（総務省統計局）

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点2： 市内の移動手段は確保されていますか？

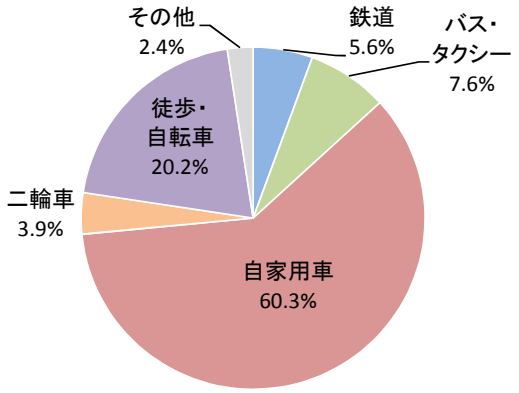
●論点を選んだ理由、背景

- 移動手段の確保は、通勤・通学、買い物等の目的のほか、健康、生きがい、生活の質向上の面でも重要である。
- 鉄道の利便性がよくないなか、路線バスが市内を網羅し市民の足となっているのか。
- 路線バスを維持するためにどのくらいの税金が使われているか。
- 高齢化が進み、今後団塊の世代が高齢者となった場合でも、移動手段が確保されるか。
- 障害者や高齢者など交通弱者と呼ばれる方たちが安心して利用できる交通機関か。

●唐津市のいま

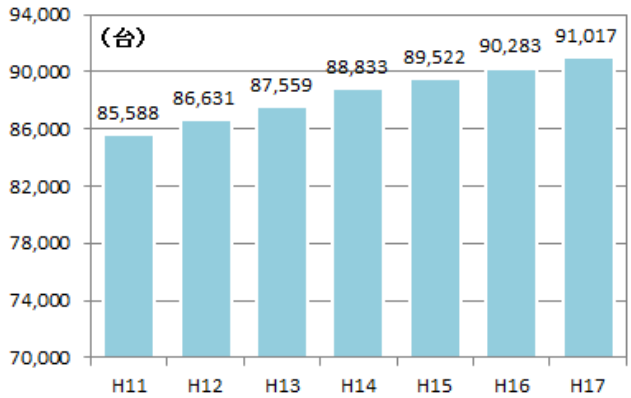
- 通勤通学時の利用交通手段は「自家用車」が6割を占めている。（データ1）
- 自動車保有台数は約9万台で、右肩上がりになっている。（データ2）
- 自家用車の普及、人口減少等により公共交通（路線バス、乗合タクシー、離島航路）の利用者が減少し、事業者による運営が厳しい状況となっている。（データ3）（データ4）
- 赤字路線の存続のために市から出す補助金も年々増加している。（データ5）

（データ1） 通勤通学時の利用交通手段



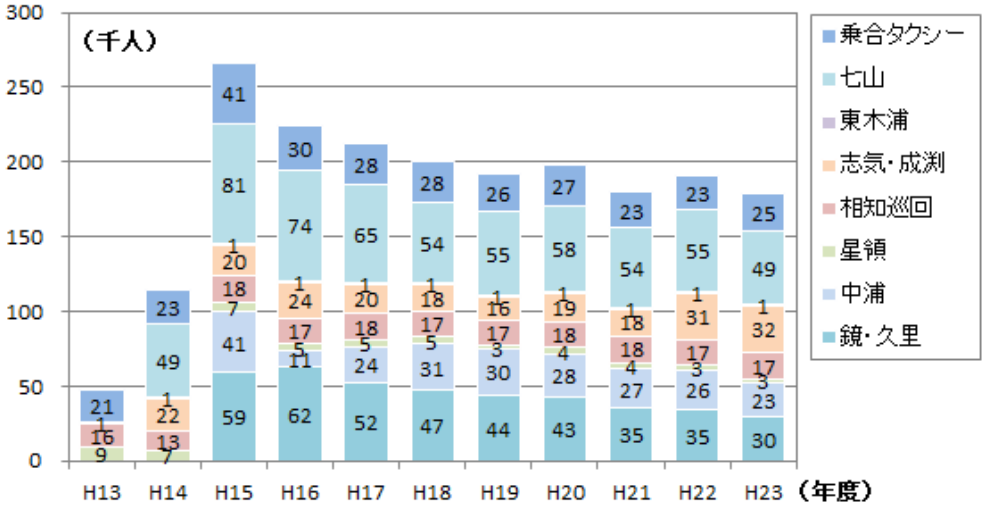
※出典：唐津市交通バリアフリー基本構想（平成 20 年 3 月）

（データ2） 自動車保有台数の推移



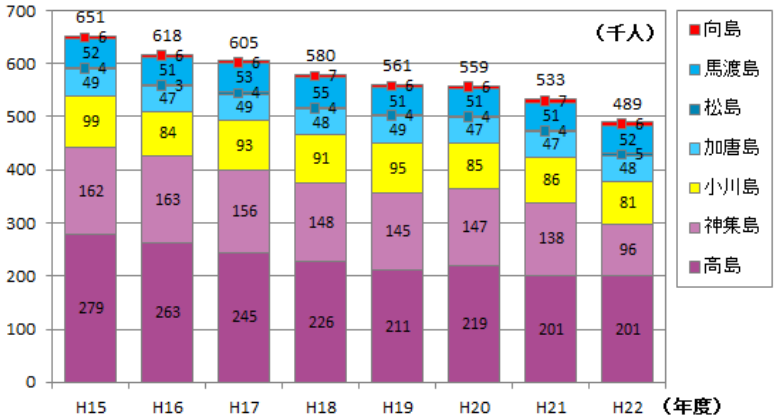
※出典：平成 17 年九州運輸局佐賀陸運支局業務概要、佐賀県市町村課

（データ3） 赤字路線バスの利用者数の推移



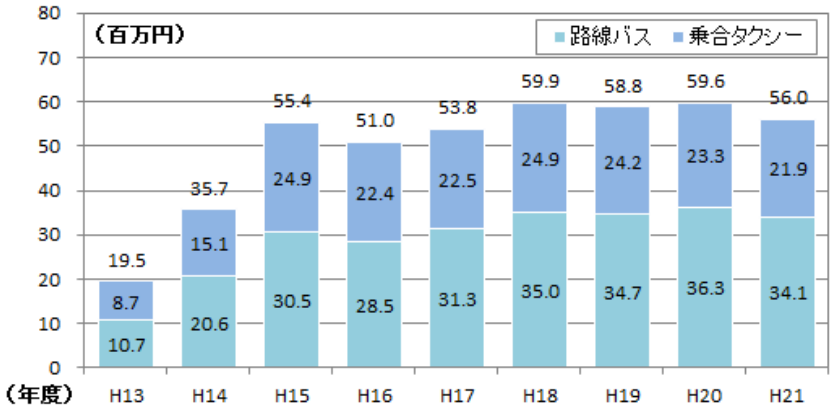
※出典：唐津市地域公共交通総合連携計画。平成 14 年 2 月から地方生活バス路線維持費補助金制度が設けられたため、対象路線が増えた。

（データ4） 離島航路の乗客数の推移



※出典：唐津市地域公共交通総合連携計画

（データ5） 路線バスに対する補助金額の推移

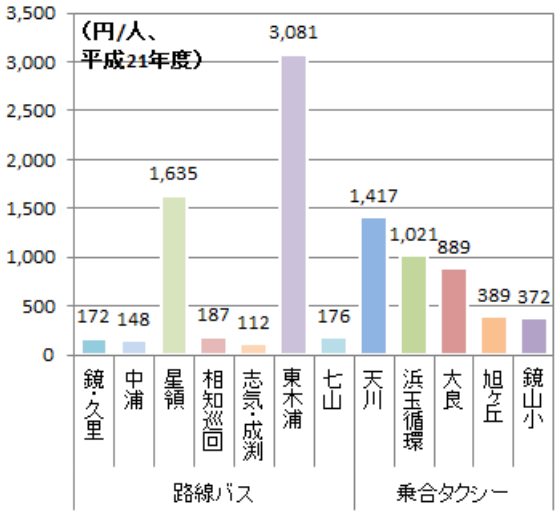


※出典：男女共同参画・地域づくり課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

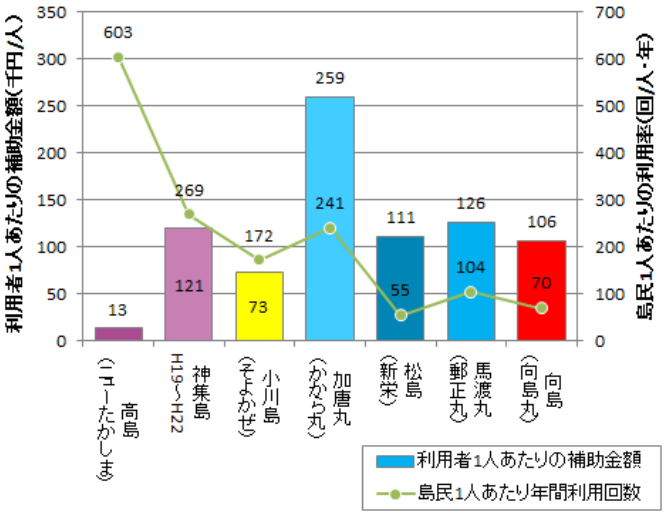
- 離島航路は、対岸（本土）地域の路線バス・乗合タクシーと比較すると、経済的支援が厚い。
  （データ6）（データ7）
- 路線バス・離島航路ともに利用者数は減ってきており、住民ニーズ（実際に利用するかどうか）の調査が必要である。（データ3）（データ4）

（データ6） 路線バス利用者１人あたりの補助金額



※平成 21 年度、出典：男女共同参画・地域づくり課

（データ7） 離島航路の利用者１人あたり補助金額と島民利用率



※平成 19～23 年度の 5 ヶ年の平均、出典：男女共同参画・地域づくり課

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点3： 他のまちと気軽に行き来できますか？

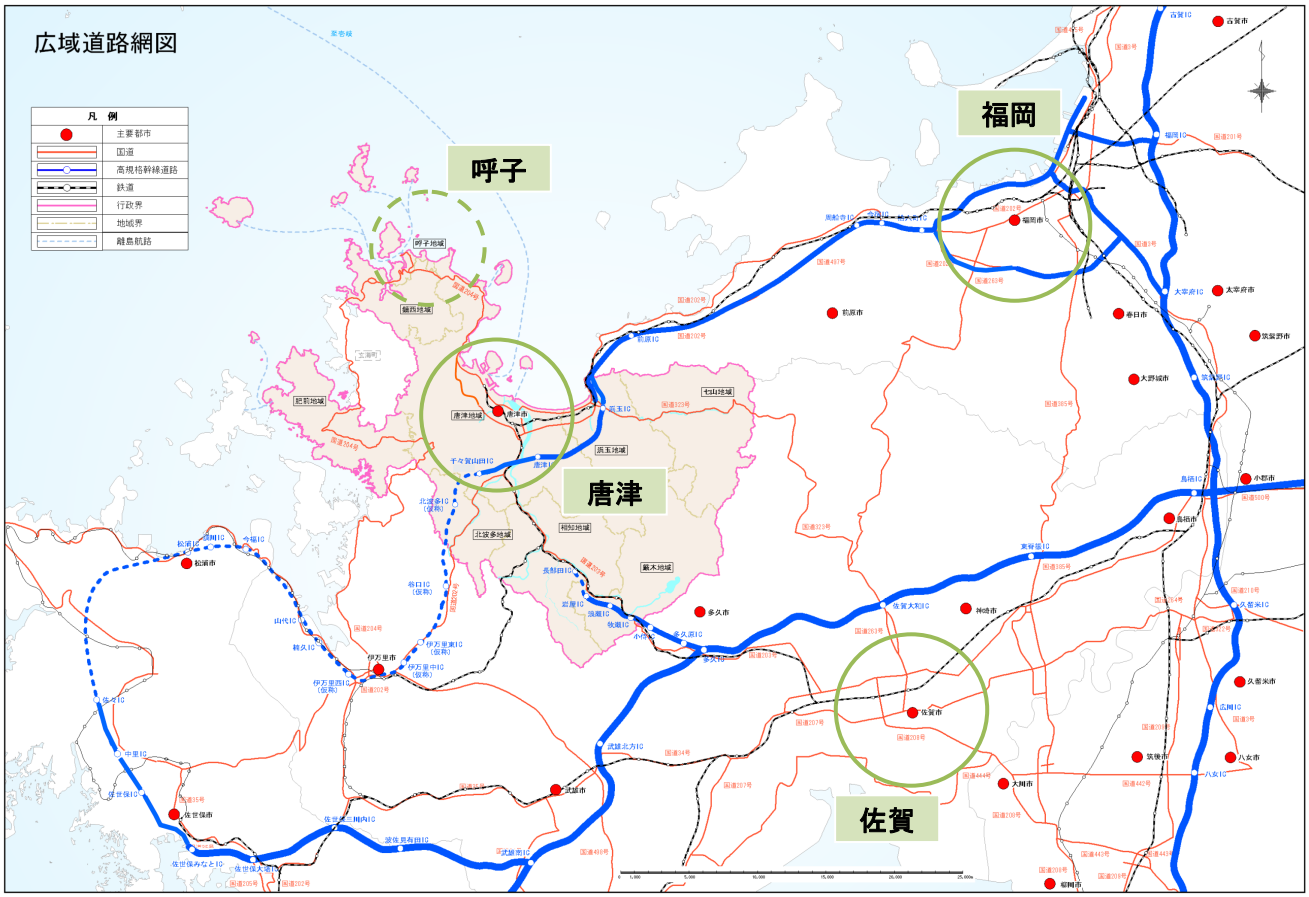
●論点を選んだ理由、背景

- 他の都市とのアクセス利便性は、市民の生活利便性や、観光振興、経済活性化の面で重要である。
- 福岡市や佐賀市等の都市圏から唐津市へ、又は唐津市から都市圏への移動は便利なのだろうか。

●唐津市のいま

- 福岡市から唐津市までのアクセス手段としては、公共交通機関の福岡市営地下鉄及びJR、高速バスと自家用車の利用が考えられる。 **（データ1）**
- 公共交通機関を利用して移動する場合、待ち時間も含むと自家用車よりも移動時間が長くなる。例えば、唐津・福岡間は、自家用車では約 70 分、鉄道・地下鉄では約 70～85 分かかる。さらに呼子へ移動する際には、自家用車では約 25 分、バスでは約 40 分かかる。 **（データ2）（データ3）**
- 駅やバス停留所から観光地等への移動手段が、タクシーの他に選択肢がない。
- 観光地、中心市街地及び駅周辺の駐車場が少ない。

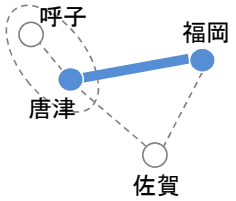
（データ1） 唐津市周辺の道路・鉄道



※出典：都市計画課

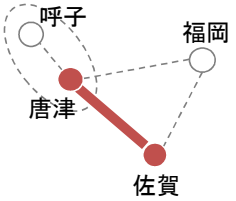
（データ2） 唐津市・福岡市間、唐津市・佐賀市間の交通手段と所要時間

福岡～唐津



	起点	経路	行き先	所要時間	運行頻度	料金（片道）
鉄道・地下鉄	天神駅	JR筑肥線・地下鉄	唐津駅	約70分	約2本/h	1,110円
	博多駅			約80分	約2本/h	1,110円
	福岡空港駅			約85分	約2本/h	1,140円
バス	福岡市	二丈浜玉有料道路・西九州自動車道・福岡都市高速道路	唐津市	約70分	約2本/h	1,000円
自家用車	福岡市	二丈浜玉有料道路・西九州自動車道・福岡都市高速道路	唐津市	約70分	―	1,310円

佐賀～唐津

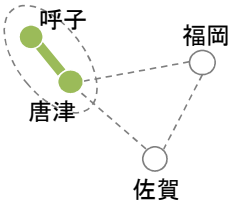


	起点	経路	行き先	所要時間	運行頻度	料金（片道）
鉄道	佐賀駅	JR唐津線	唐津駅	約70分	約1本/h	1,080円
バス	佐賀市	国道203号	唐津市	約100分	約0.5本/h	1,150円
	佐賀空港	佐賀駅ﾊﾞｽｾﾝﾀｰ乗換		約145分	約2本/日	1,750円
自家用車	佐賀市	長崎自動車道	唐津市	約70分	―	750円

※「福岡～唐津」の自家用車の料金（1,310 円）は、平成 25 年 4 月以降は、二丈浜玉有料道路（360 円）無料化のため 950 円となる。

（データ3） 呼子への交通手段と所要時間

唐津～呼子



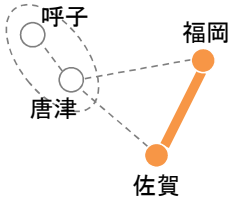
	起点	経路	行き先	所要時間	運行頻度	料金（片道）
バス	唐津駅	（バス）	呼子	約40分	1～2本/h	730円
自家用車	唐津市	県道23号線 県道340号線	呼子	約25分	―	0円

●他のまちと比べてみると

・ 福岡市・佐賀市間の所要時間は、唐津市と比較して大きく変わらない。 （データ4）

（データ4） 福岡市・佐賀市間の交通手段と所要時間

福岡～佐賀



	起点	経路	行き先	所要時間	運行頻度	料金（片道）
鉄道	博多駅	JR（特急）	佐賀駅	約40分	5～6本/h	2,180円
		JR（快速）		約60分	3本/日	1,080円
バス	天神	バス	佐賀	約76分	2～3本/h	1,000円
自家用車	福岡市	福岡都市高速道路・九州自動車道・長崎自動車道	佐賀市	約60分	―	1,850円

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点4： 安全で快適な道路の整備は進んでいますか？

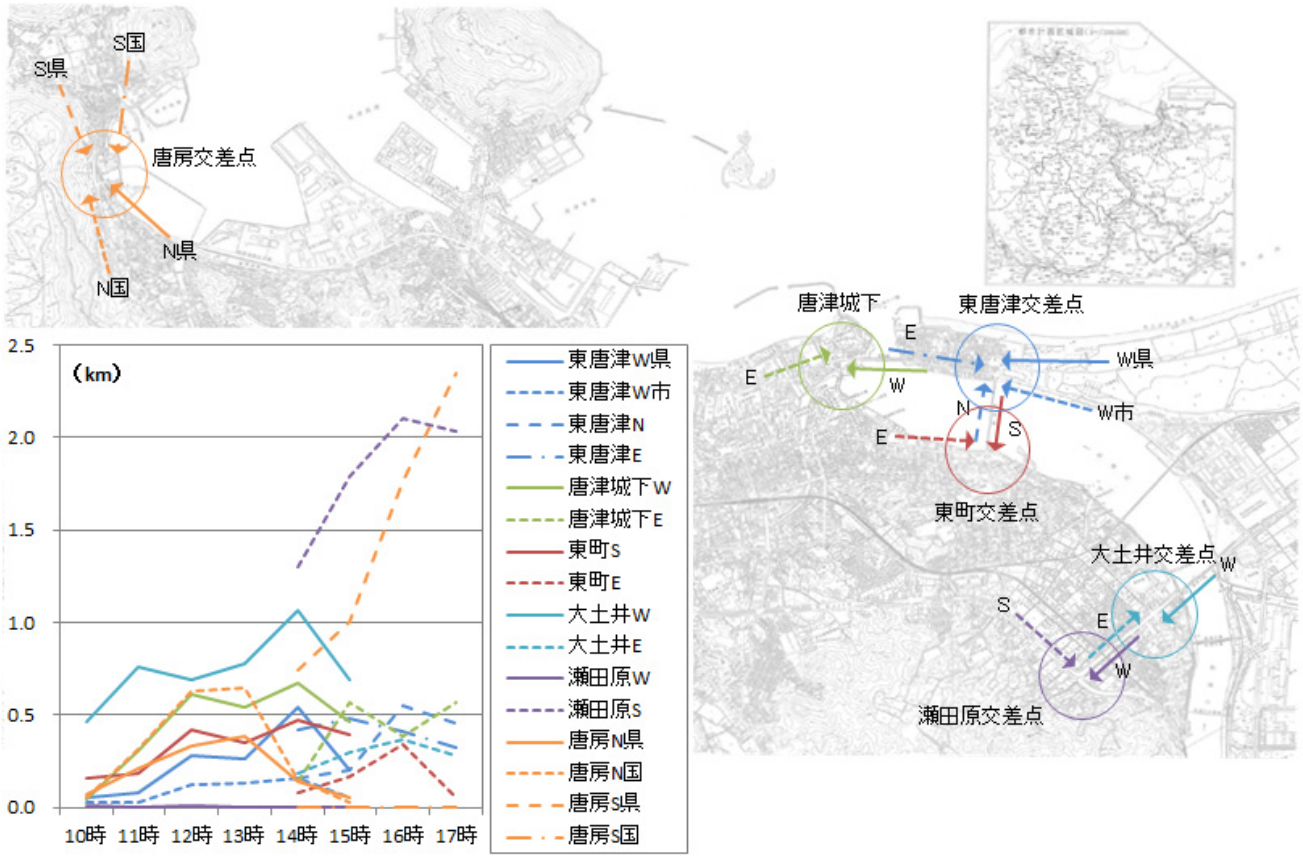
●論点を選んだ理由、背景

- 交通事故、渋滞はどのくらい発生しているのか。
- 交通手段として見直され、利用ニーズが高まっている自転車であるが、一方で自転車と歩行者の事故が急増しているのではないか。
- 都市交通ネットワークはどのくらい整備されているか。

●唐津市のいま

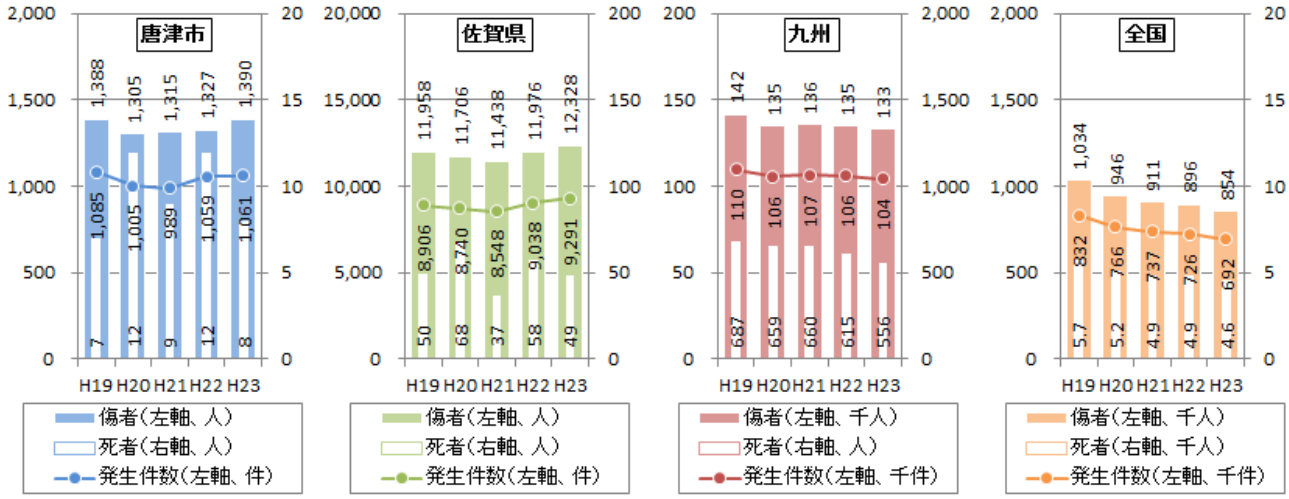
- 唐津市での渋滞はゴールデンウィーク中に発生しているが、その他の期間はおおむね良好である。（データ1）
- 交通事故は、全国的には減少傾向にあるが、佐賀県では増加しており、唐津市はほぼ横ばい状態となっている。事故原因については、前方不注意、安全不確認が大半を占めている。（データ2）（データ3）
- 既存の自転車歩道通行可能供用区間は、唐津警察署管内に 121 区間あり、そのうち 66 区間が幅員3メートル未満の歩道である。そのうち 10 区間において規制の見直しが検討されている。
- 唐津警察署管内においては、新たに自転車道や自転車通行帯整備の必要性について検討され、該当箇所はないとの結果が出されている。

（データ1） ゴールデンウィーク中の道路渋滞の状況



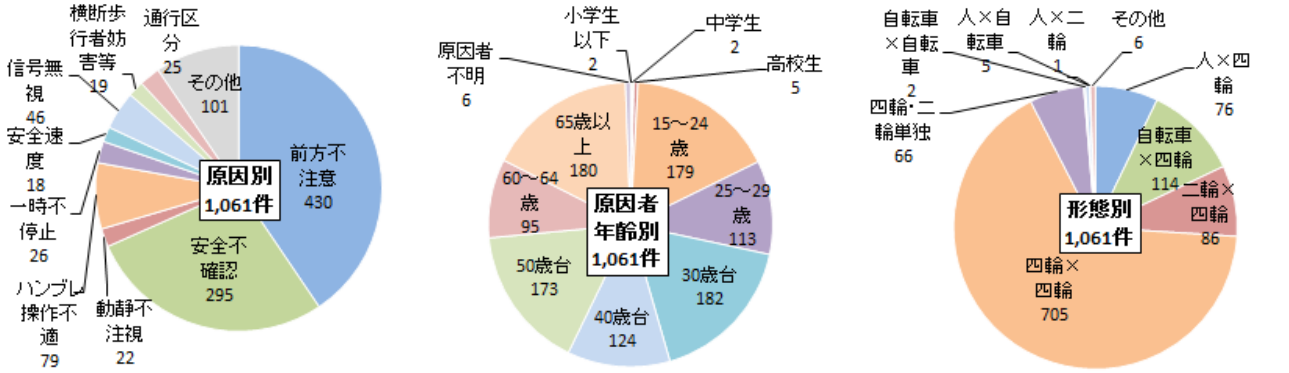
※出典：渋滞調査業務委託調査報告書（唐津市発注）。ゴールデンウィーク（平成 21 年 5 月 2 日（土）～5 日（火）と平成 22 年 5 月 1 日（土）～4 日（火）の 8 日間における渋滞距離の平均値。地図上の線はグラフの凡例を示す（渋滞距離を示すものではない）。

（データ2） 交通事故（人身事故）発生件数の推移



※出典：交通白書（平成 23 年、唐津警察署監修）

（データ3） 各種別交通事故発生状況（原因別、原因者年齢別、形態別）

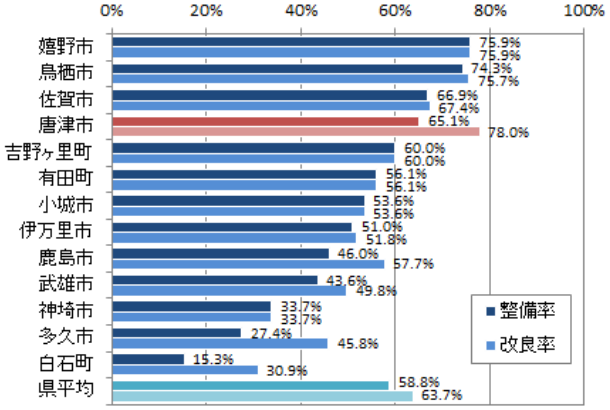


※出典：交通白書（平成 23 年、唐津警察署監修）

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 唐津市の都市計画道路の整備率は 65.1%、改良率は 78.0%、計画決定後、全く手つかずの道路が 53 路線のうち6路線（11.3%）存在する。（データ4）（データ5）
- 未整備で残され沿線の住民に対する一定の建築制限がかかった状態となっている。
- 唐津市と県内の都市計画道路整備状況を比較すると、整備率では県平均を上回っており、改良も県内で最も進んでいる。（データ4）

（データ4） 県内市町の都市計画道路整備状況



※平成 22 年3月末、出典：佐賀県都市計画道路整備状況調査

（データ5） 唐津市の都市計画道路の未整備状況

路線名	決定年	経過年数	延長(m)
原鬼塚線	1992	20	1380
大手口西の浜線	1938	74	630
丸宗線	1977	35	670
北城内東城内線	1996	16	880
呼子環状西線	1969	43	1850
中町中央線	1969	43	870

※出典：都市計画課

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点5: 安心して暮らせる消防・救急体制になっていますか？

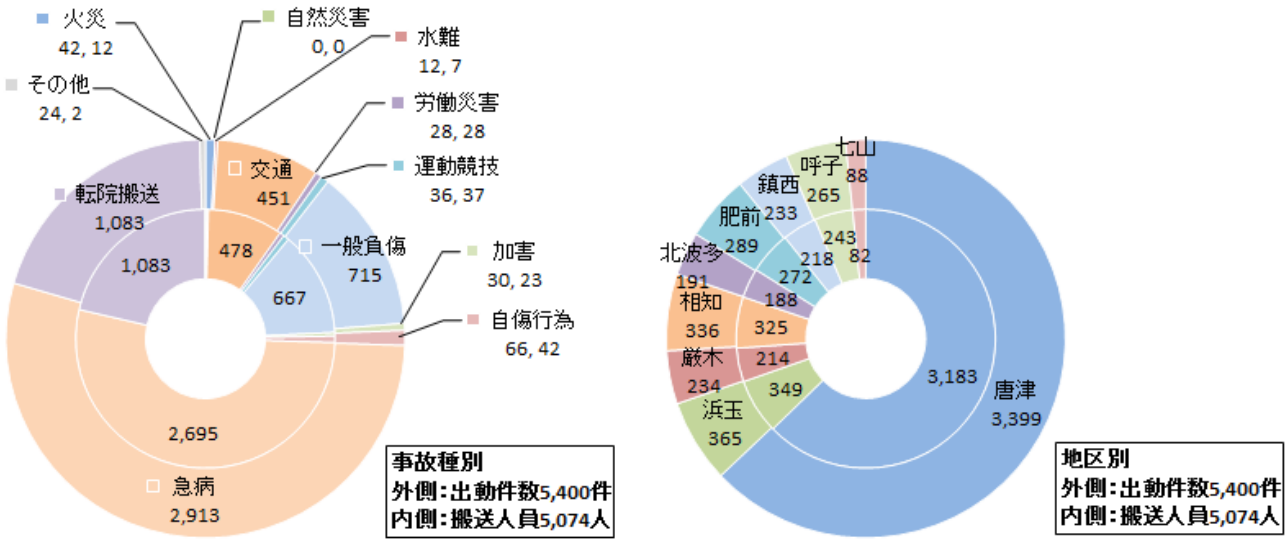
●論点を選んだ理由、背景

・ 市民が安心して暮らせるよう、万が一の際の消防・救急体制は整備されているのか。

●唐津市のいま

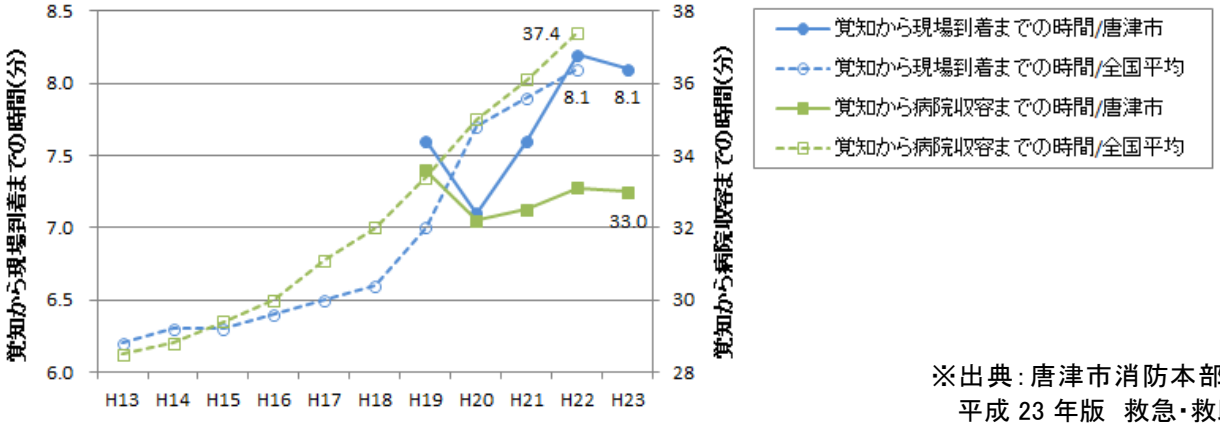
・ 年間の救急搬送件数は、5,000 件を超えている。 **（データ1）**
・ 搬送時間は、現場到着まで8分、病院収容まで 33 分かかっている。 **（データ2）**
・ ナビシステムの導入など救急出動までの時間短縮の取り組みを行っているが、現場到着時間の短縮につながっていない。
・ 入院施設を有する病院は旧唐津市内に集中している。 **【論点14（データ2）】**
・ 消防職員は 172 人、救命救急士は 37 人が在籍している。管轄人口十万人あたりの消防職員数は 135.5 人で、ほぼ全国平均である。 **（データ3）**
・ 約 4,000 人の消防団員が市内全域をカバーしている。 **（データ4）**

（データ1） 救急出動件数・搬送者数



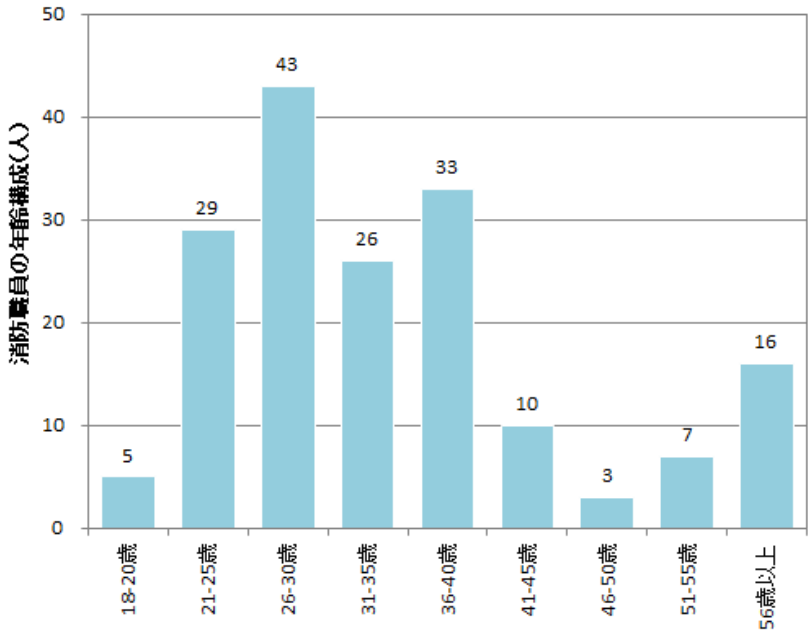
※事故種別の引き出しの項目は、左が出動件数、右が搬送人員を示す。
出典：平成 23 年版消防年報（唐津市消防本部）

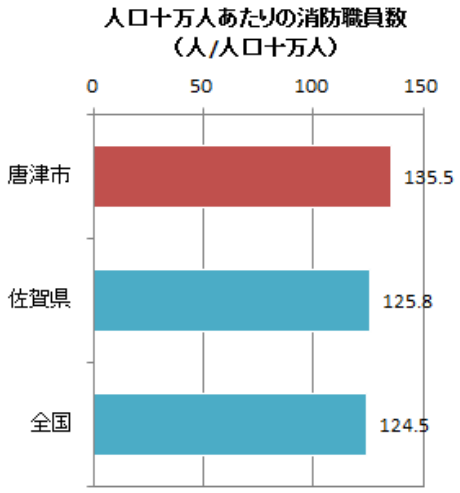
（データ2） 救急車の現場到着時間と病院収容時間の推移（国との比較）



※出典：唐津市消防本部、平成 23 年版 救急・救助の現況（消防庁）

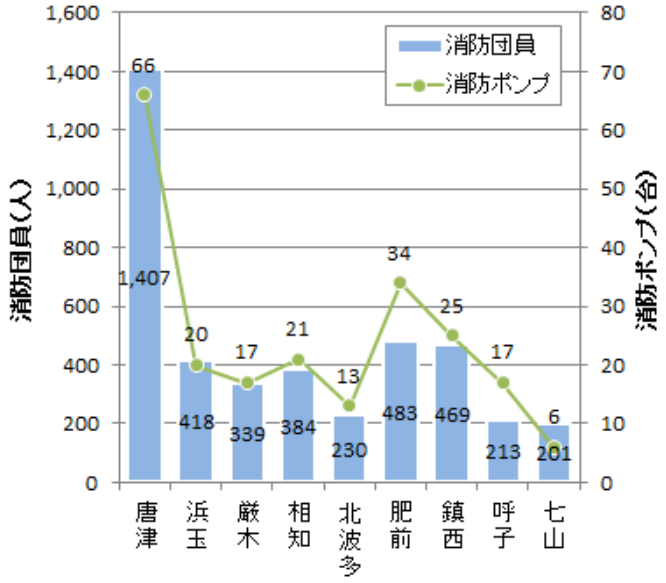
（データ3） 消防職員数（県・国との比較）

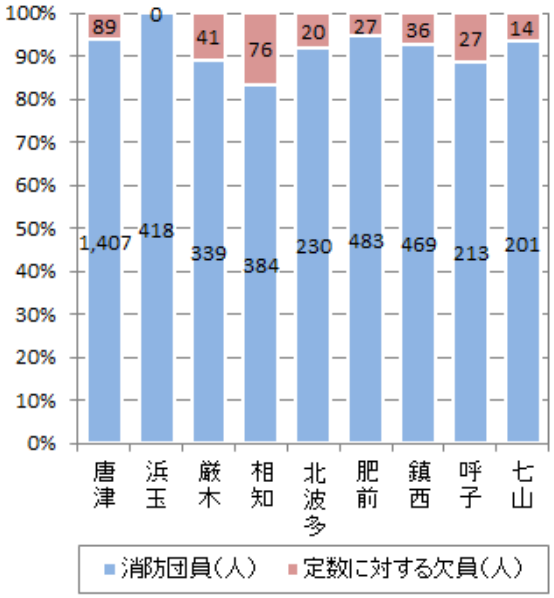




※出典：平成 23 年版消防年報（唐津市消防本部）、消防白書（消防庁）。右のグラフの唐津市は平成 24 年 4 月 1 日現在、県・全国は平成 22 年 4 月 1 日現在。

（データ4） 区域内消防団の消防団員数等





※出典：平成 23 年版消防年報（唐津市消防本部）

●他のまちと比べてみると

- 救急車の現場到着時間は全国平均と同じレベルであり、病院収容時間は全国平均より4分程度短い。**（データ2）**

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点6： 災害への備えは大丈夫ですか？

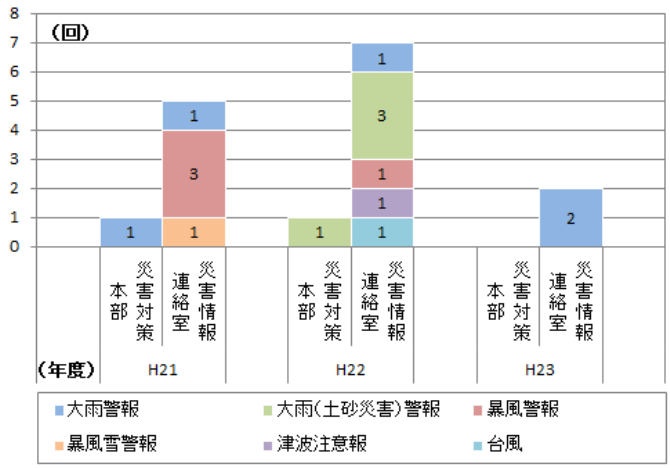
●論点を選んだ理由、背景

- 唐津市は比較的に大地震や津波が発生する確率は低いとされているが、原子力発電所が隣接している状況下において、東日本大震災にみられるような大規模災害が発生した場合の対策はとられているか。
- 最近の異常気象で豪雨による水害や土砂災害の危険性が高くなってきているが、その対策は十分か。

●唐津市のいま

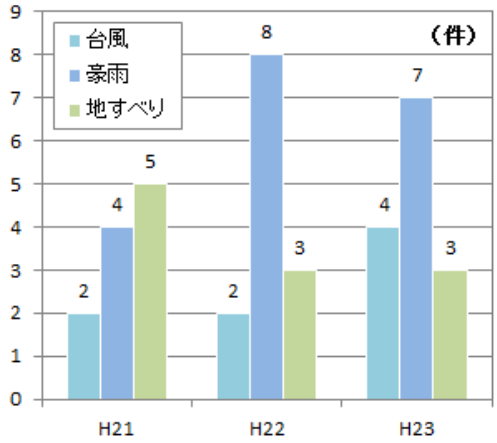
- 最近の傾向として、集中豪雨等による水害や土砂災害の発生する確率が高くなってきている。（データ1）
- 全国の災害の傾向（激甚災害）としては、豪雨によるものが多い。（データ2）
- 洪水ハザードマップ、津波避難計画、災害時要援護者避難計画などが策定され、ホームページ等により周知されているが、市民にどれだけ認識されているか不明である。（データ3）（データ4）
- 玄海原子力発電所で福島第一原子力発電所と同様の原子力災害が万が一に発生した場合に備え、一時的な避難経路、避難場所等を「唐津市原子力災害対応暫定避難（行動）計画」で定めている。（データ5）

（データ1） 唐津市災害情報連絡室[対策本部]の設置状況



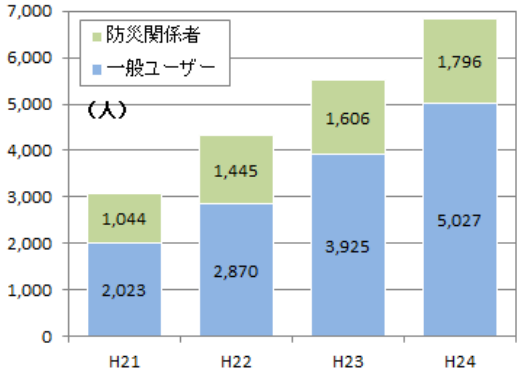
※出典：危機管理防災課

（データ2） 全国の激甚災害の指定状況



※出典：内閣府 HP（防災情報のページ）

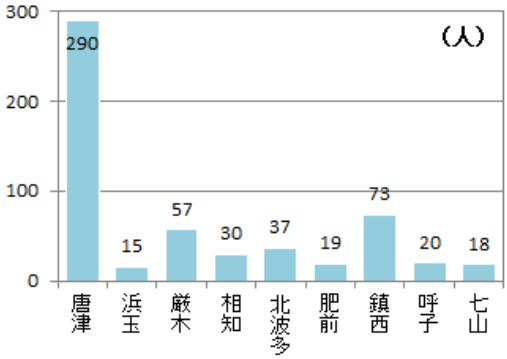
（データ3） 防災メールの受信者数の推移



※一般ユーザーにはパソコンメール受信数を含む。防災関係者は、消防署、消防団及び市職員の受信数。

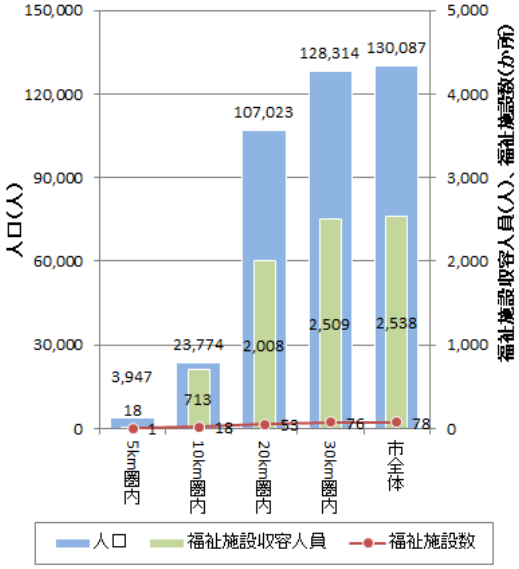
※各年 4 月 1 日時点、出典：広報公聴課

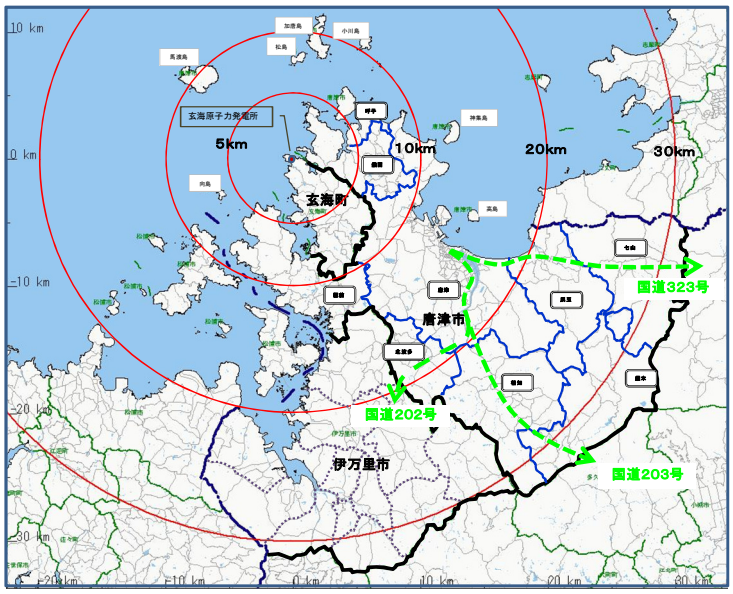
（データ4） 災害時要援護者避難支援計画登録者数



※平成 25 年 1 月 31 日現在、出典：福祉課

（データ5） 玄海原子力発電所からの距離と人口等



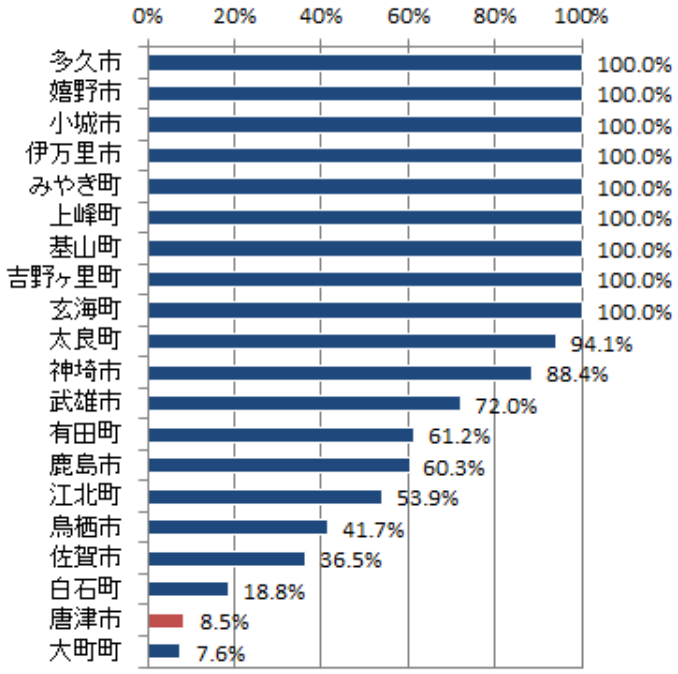


※平成 24 年 4 月 1 日現在、出典：危機管理防災課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 大規模災害時における地域での避難誘導・救出救護等を行う自主防災組織の設置が重要となってきているが、唐津市の組織率は低い。（データ6）
- また、自主防災組織としての防災訓練等についてはこれから実施される予定となっている。

（データ6） 県内市町の自主防災組織の組織率



※数値は、全世帯数に対して、自主防災組織がカバーする世帯数の割合を示す。
※唐津市の値は、現状を踏まえた値であり、佐賀県への報告（唐津市災害時要援護者避難支援プラン）とは異なる。
※唐津市の自主防災組織は全 10 組織（平成 24 年 3 月末現在）：中町区自主防災会、山本区自主防災会、本町自主防災会、原・柏崎地区みんなで守ろう会、上久里区自主防災会、横野区自主防災会、京町自主防災会、木綿町自主防災会ほ組、江川町自主防災会、呼子町婦人防火クラブ（呼子町地域婦人会）

※平成 24 年 1 月 1 日現在、出典：危機管理防災課

カテゴリー① 快適で安心・安全な暮らしを考えてみよう！

論点7： 犯罪のないまちになっていますか？

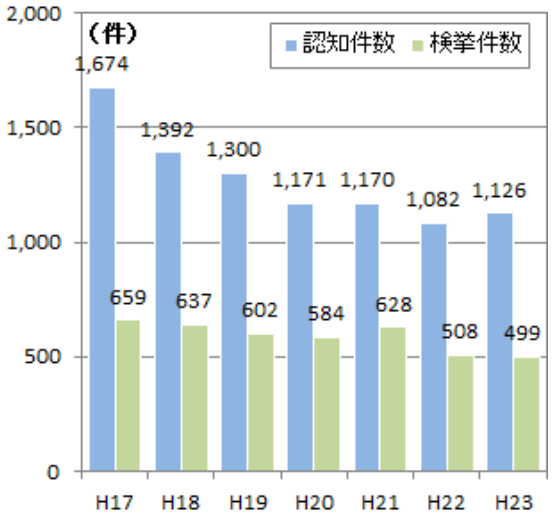
●論点を選んだ理由、背景

- 犯罪発生件数は減少傾向ではあるが、実態はどうか。
- 犯罪の種類別にみるとどのような傾向がみられるか。
- 犯罪のないまちにするために、住民は何ができるのか。

●唐津市のいま

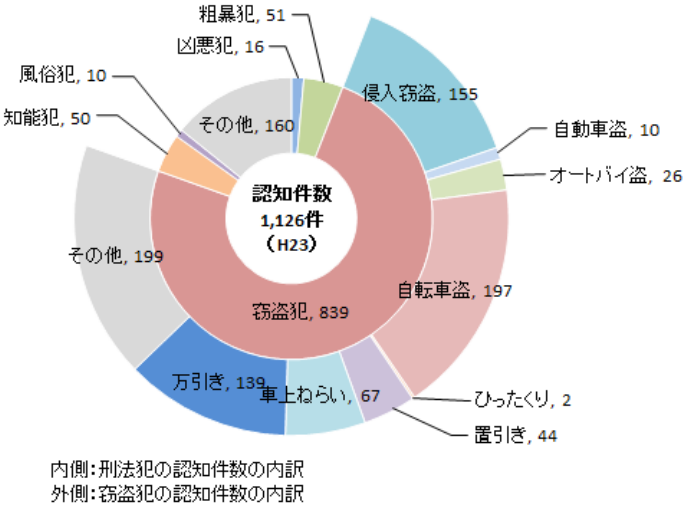
- 刑法犯認知件数、検挙件数ともに減少傾向にある。（データ1）
- 認知件数の約 75%が窃盗犯であり、うち自転車盗、万引き、侵入窃盗が約 60%を占めている。（データ2）
- 子ども 110 番の家、自主防犯ボランティア団体など各地区で市民による防犯活動の取り組みがなされているが、地区によって意識、活動状況にばらつきがある。（データ3）（データ4）

（データ1） 刑法犯認知件数と検挙件数の推移



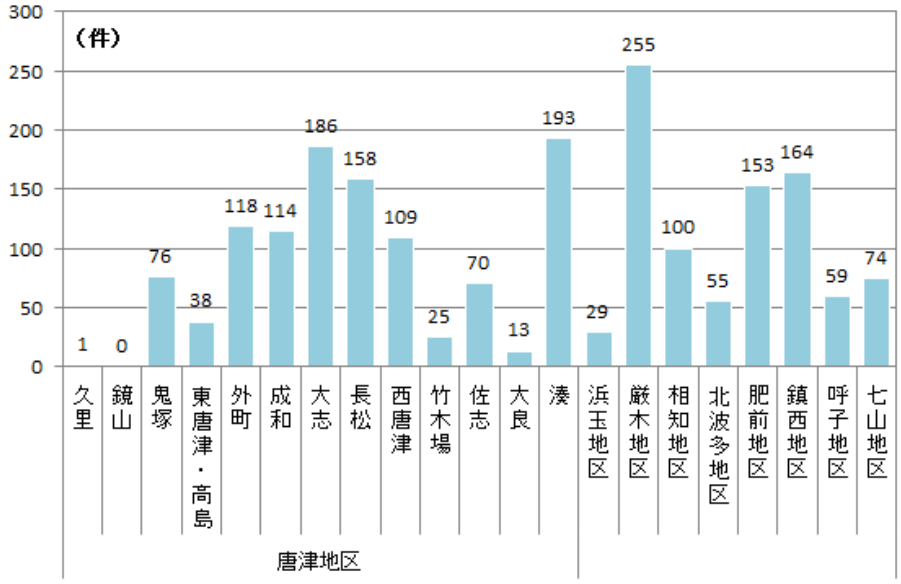
※出典：佐賀の犯罪（唐津市）

（データ2） 刑法犯認知件数の内訳



※出典：佐賀の犯罪（唐津市）

（データ3） 子ども 110 番の家協力件数



※唐津地区については小学校区ごとの数値、平成 24 年 4 月 1 日現在、出典：生涯学習課

（データ4） こども見守り活動団体、防犯サポートネットワーク

分類	団体名	規模	活動内容等
こども見守り活動団体	青少年支援センター地域指導員	34 人	
	各地区校区青少年育成協議会	23 団体	
	少年補導員（唐津署管内）	117 人	
	地域安全推進員（唐津署管内）	380 人	防犯広報紙等の配布
	地域安全防犯広報隊（佐賀県警委託事業）	―	小学校等で防犯寸劇等を用い広報活動
	サイバーパトロール（佐賀県警）	―	有害サイトのパトロール
	唐津市交通指導員	144 人	登校指導
	各小・中学校教職員による登下校指導、挨拶運動等		
	PTA、育友会、老人会、子ども見守り隊等による見守り活動	約 50 団体	
防犯サポートネットワーク	防犯意識高め隊	3 団体	
	防犯対策広め隊	2 団体	
	地域見守り隊	3 団体	

※平成 24 年 4 月 1 日現在

（上）危険な目にあった子ども達が駆け込むことができる目印となる「こども 110 番の家」ステッカー

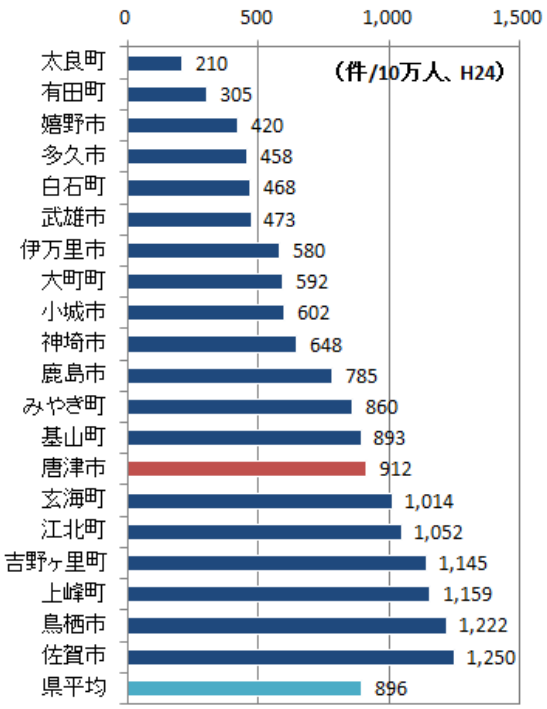
（右）子ども見守り隊による見守り活動

（右）外町校区独自で作成されている安全マップ

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

・ 犯罪率（人口十万人あたりの刑法犯認知件数）を県内市町と比較すると、唐津市の犯罪率は 912 件で、順位でみてみると県内 20 市町のなかで7番目に高い。**（データ5）**

（データ5） 県内市町の犯罪率
（人口十万人あたりの刑法犯認知件数）



※出典：佐賀県警察本部

カテゴリー② 身近な環境が守られているか考えてみよう！

論点8：よい景観やまちなみになっていますか？

●論点を選んだ理由、背景

- 国道 202 号沿線では、大規模な建築物や派手な色彩の屋外広告物が乱立している。
- 景観規制の仕組みはどうなっているか。

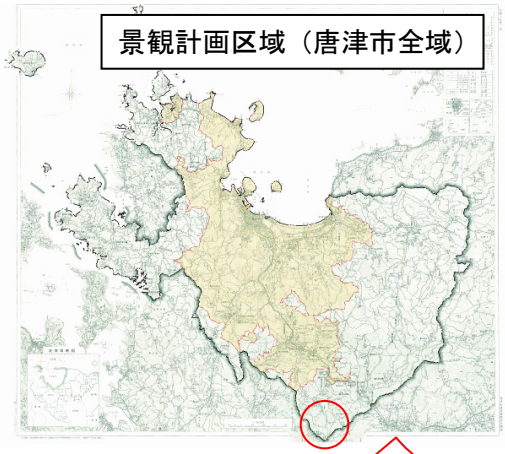
（右）屋外広告物が乱立する国道 202 号沿線

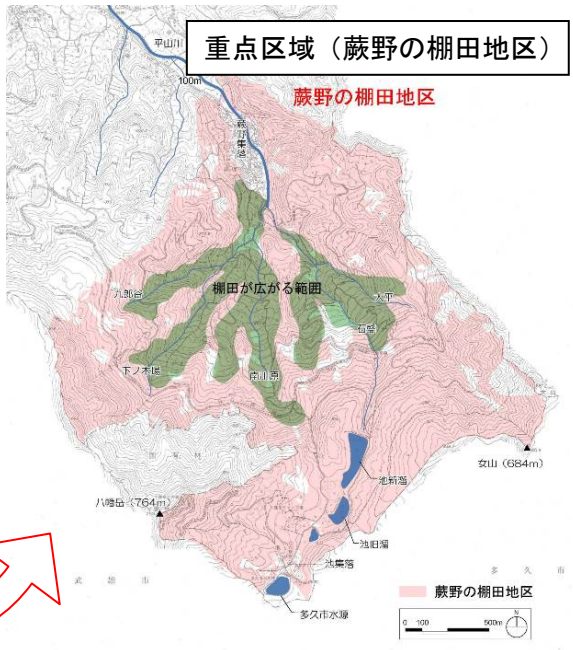
●唐津市のいま

- 市全域を景観計画区域としているが、大規模建築物の届出は義務付けられていない。蕨野の棚田地区を「重点区域」と指定し、軽微な行為を除き、建築物の新築・改築等すべての行為を届出の対象としているだけである。（届出が必要な区域は市面積の約 0.001%のみ） **（データ1）**
- 唐津市景観計画によると、「重点区域」とは、景観計画区域（唐津市全域）のうち、本市の有する貴重な特色が象徴的に現れ、景観まちづくりの推進に関する施策が特に必要と認められる区域で、重点的に景観形成施策を推進する区域をいう。また、重点区域については、地域の景観まちづくりの熟度に応じて、その指定を拡大・追加していくものとされている。
- 「建築協定」は、地域の住民が自発的に建築基準法の基準以上のルールを取り決めて、それらを守り合うことを制度化したもので、地域の特性に応じた良好な環境を維持増進するために、住民自ら自主的に一定の建築ルールを定めて、それを運営していく制度である。
- この「建築協定」を活用したまちづくりの事例として、市内では西唐津地区建築協定がある。 **（データ2）**

（データ1） 唐津市の「重点区域」等の面積

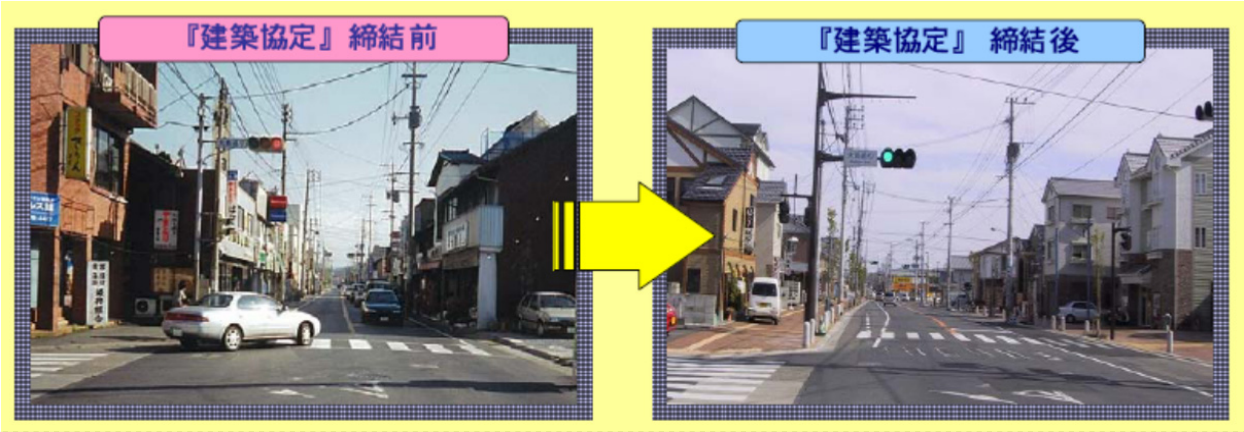
景観計画区域（唐津市全域）	48,748 ha	100%
うち重点区域（蕨野の棚田地区）	40 ha	0.001%
うち都市計画区域	19,353 ha	39.7%





※平成 24 年 3 月 31 日現在、都市計画課

（データ2） 西唐津地区建築協定～モダンレトロのまちづくり～



・【家のデザイン】 洋館風レトロ調（モダンレトロ）とする
・【屋根】 ①こう配の付いた屋根とする、②色は黒～グレーとする、③材料は瓦または平形スレートとする
・【外壁】 ①中間色及び無彩色とする、②外壁材はヨコ長とする
・【窓】 たて長で格子状の窓とする
・【その他】 ①建築設備（エアコン室外機など）は囲障する（柵などで覆う）、
②建物の側面・裏面のデザインは正面と同じデザインとする

※出典：佐賀県ホームページ

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

・ 佐賀市の大規模建築物の届出対象基準は、高さ 15m を超えるもの、4階建て以上のもの、延べ床面積が 500 ㎡を超えるもの、とされている。 （データ3）
・ 武雄市及び嬉野市も、市全域において大規模建築物の届出対象基準が設定されている。 （データ3）

（データ3） 県内各市の景観法に関する施行状況

佐賀県内の景観行政団体	景観計画・条例の施行	景観計画区域	重点区域	市全域において届出の対象となる大規模建築物の基準	その他、重点区域・景観形成地区等での規定	色彩の基準の有無
唐津市	景観計画景観条例	市全域	1 地区	届出の設定なし	【重点区域】 建築物の新築・改築・増築など、すべての行為が届出の対象	無
佐賀市	景観計画景観条例	市全域	2地区	・高さ 15m を超えるもの ・4階以上のもの ・延床面積が 500 ㎡を超えるもの	【景観形成地区】 建築物の新築・改築・増築など、すべての行為が届出の対象	有
武雄市	景観計画景観条例	市全域	2地区	・高さ 10m を超えるもの ・延床面積が 1,000 ㎡を超えるもの	【重点区域】 建物の高さに制限がある 黒髪地区：高さ 10m まで 武雄温泉保養村周辺：高さ 20m まで	無
嬉野市	景観計画景観条例（H25.4.1 施行）	市全域	無し	・高さ 12m を超えるもの ・延床面積が 500 ㎡を超えるもの	重点区域は無いが、市全域が自然環境・田園集落・市街地・沿道の4つにゾーン分けされ、それぞれ景観形成の方針が定められている。	有
多久市	策定無	－				
小城市	策定無	－				

※平成 25 年 1 月現在、聞き取り調査

カテゴリー② 身近な環境が守られているか考えてみよう！

論点9： 利用しやすい公園となっていますか？

●論点を選んだ理由、背景

- 今ある公園は、地域コミュニティの場、市民の憩いの場として利用されているか。
- また、子どもから高齢者まで安心して利用できているか。

（左、上）公園に設置された老朽化した遊具

●唐津市のいま

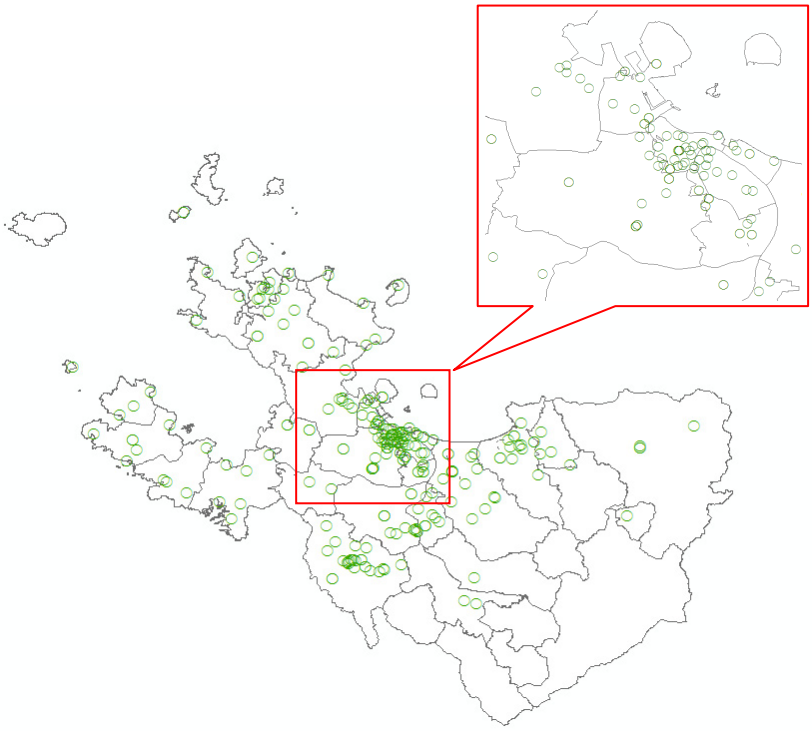
- 唐津市全体の公園数は 262 で、比較的小規模公園が多いのが特徴である。これらの公園は、市内の市街地を中心に分布している。**（データ1）（データ2）**
- 新たな公園整備の計画はなく、現状維持となっている。（ただし、団地公園については都市計画法により開発規模に応じ整備が義務付けてあるため、今後も増加していく傾向にある。）
- 公園に設置された遊具は老朽化や事故防止のため撤去され、広場のみとなった公園が約 35%である。また、約 42%の公園は年間管理委託をしている。**（データ3）**
  ※公園の維持管理費、遊具の経過年数については**【論点37（データ4）（データ5）】**参照。
- 寄せられる苦情のなかで特に多いのが、樹木剪定・草刈、施設の不備、利用者マナーによるものである。**（データ4）**
- 平成 19 年度にとられた市民アンケートの結果、「地域特性を活かした公園」や「身近な公園広場の整備」が求められている。**（データ5）**

（データ1） 公園の種別と数

種	別	箇所数
都市公園（都市公園法）	総合公園	1
	運動公園	1
	風致公園	3
	近隣公園	2
	街区公園（児童公園）	21
	都市緑地	5
その他の公園	市民の森	1
	ダム公園	1
	団地公園	36
	ポケットパーク	12
	その他	14
児童遊園（児童福祉法）		96
子供の遊び場		39
玄海国定公園		4
普通公園		4
観光公園		6
農村公園		16
合計		262

※平成 24 年 8 月 1 日現在、出典：都市計画課・観光課・農地整備課

（データ2） 市内の公園分布図

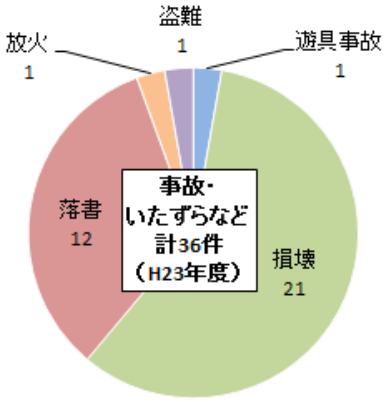


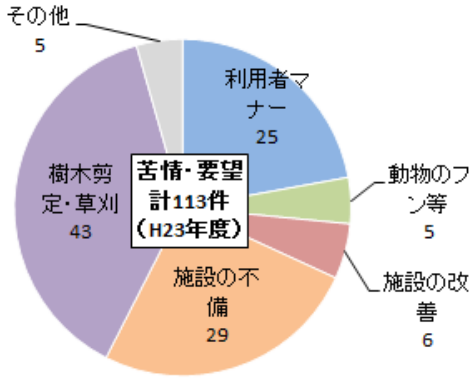
（データ3） 公園の管理状況

公園数	遊具設置公園	トイレ設置公園	年間管理委託 （地域自治会、シルバー人材センターなど）	直接管理 （草刈等は随時発注）
262	171	75	109	153
（割合）	65.3%	28.6%	41.6%	58.4%

※平成 24 年 8 月 1 日現在、出典：都市計画課

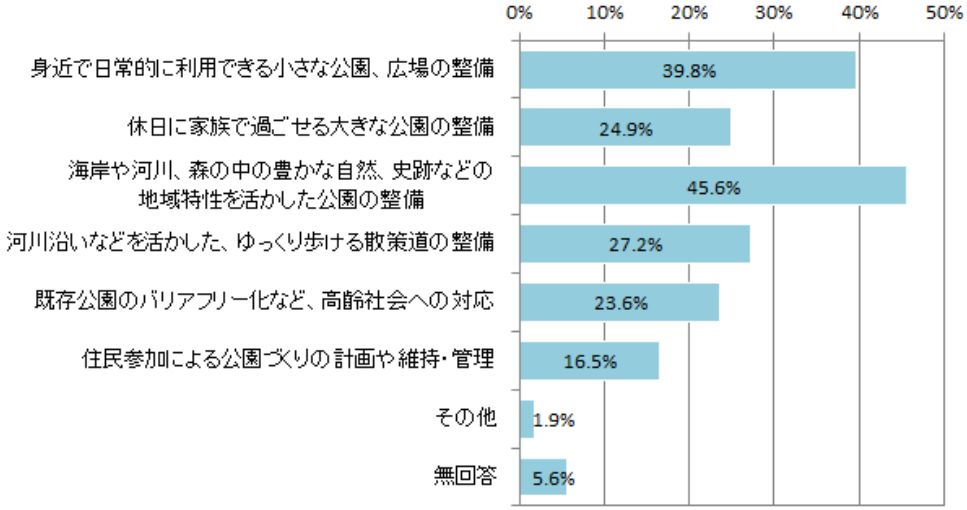
（データ4） 公園での事故、公園に関する苦情・要望





※出典：都市計画課

（データ5） 市民アンケート結果（公園に関して大切な取り組み）

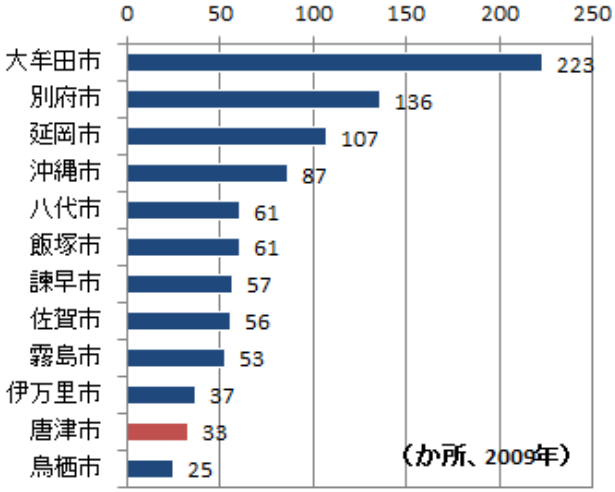


※設問：「唐津市の公園・緑地の整備」に関して、大切な取り組みは何だと思いますか（２つまで選択可）
※出典：都市計画マスタープラン、平成 19 年 7 月 17 日～31 日調査実施

●他のまちと比べてみると

・ 都市公園数を、九州の人口類似市と比較してみると、唐津市は少ない方である。**（データ6）**

（データ6） 九州の人口類似市の都市公園数



※出典：統計でみる市区町村のすがた 2012（総務省統計局）

カテゴリー② 身近な環境が守られているか考えてみよう！

論点10：安心な水を届ける基盤は保たれていますか？

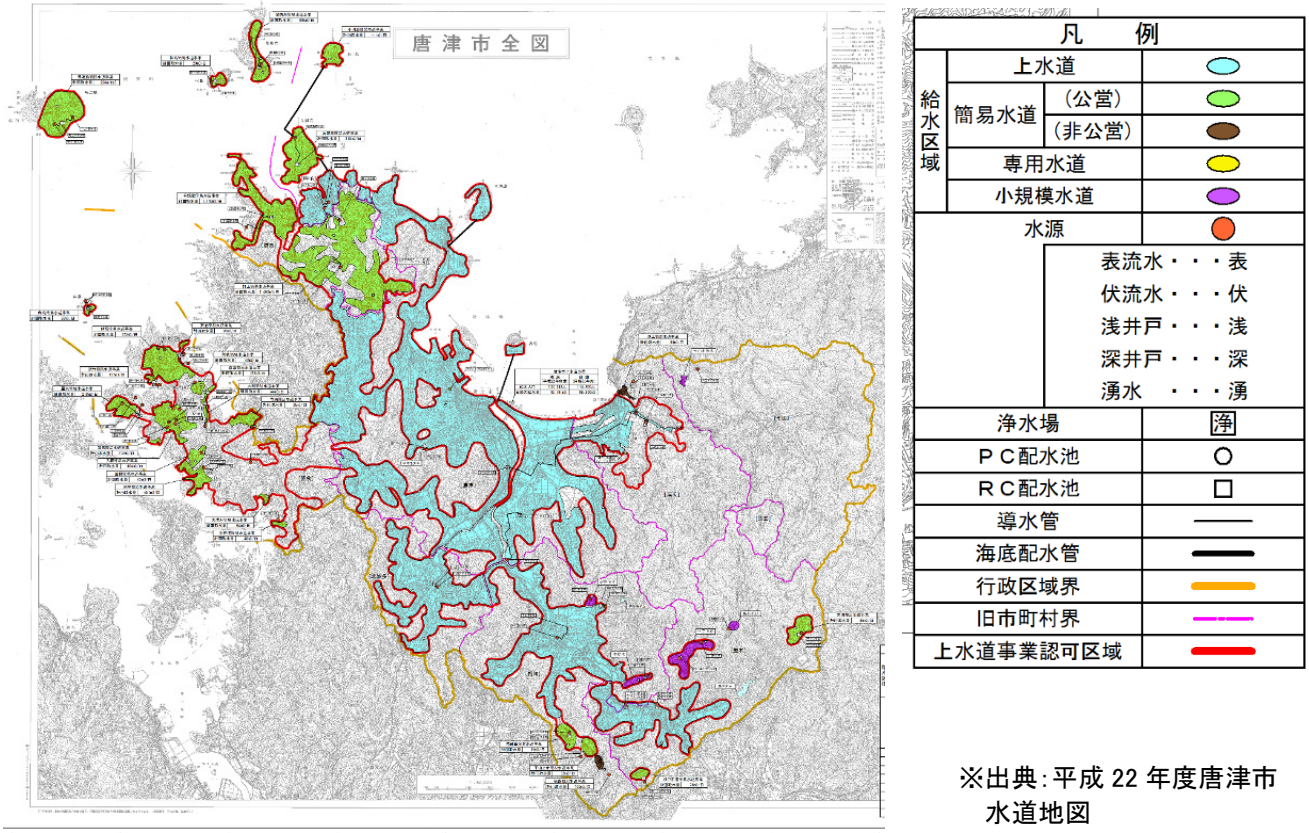
●論点を選んだ理由、背景

- 唐津市ではこれまで、大きな水不足や水質汚染が起きていないが、将来も安心して安定した水を使い続けることができるのか。
- 水道施設の老朽化は大丈夫か。

●唐津市のいま

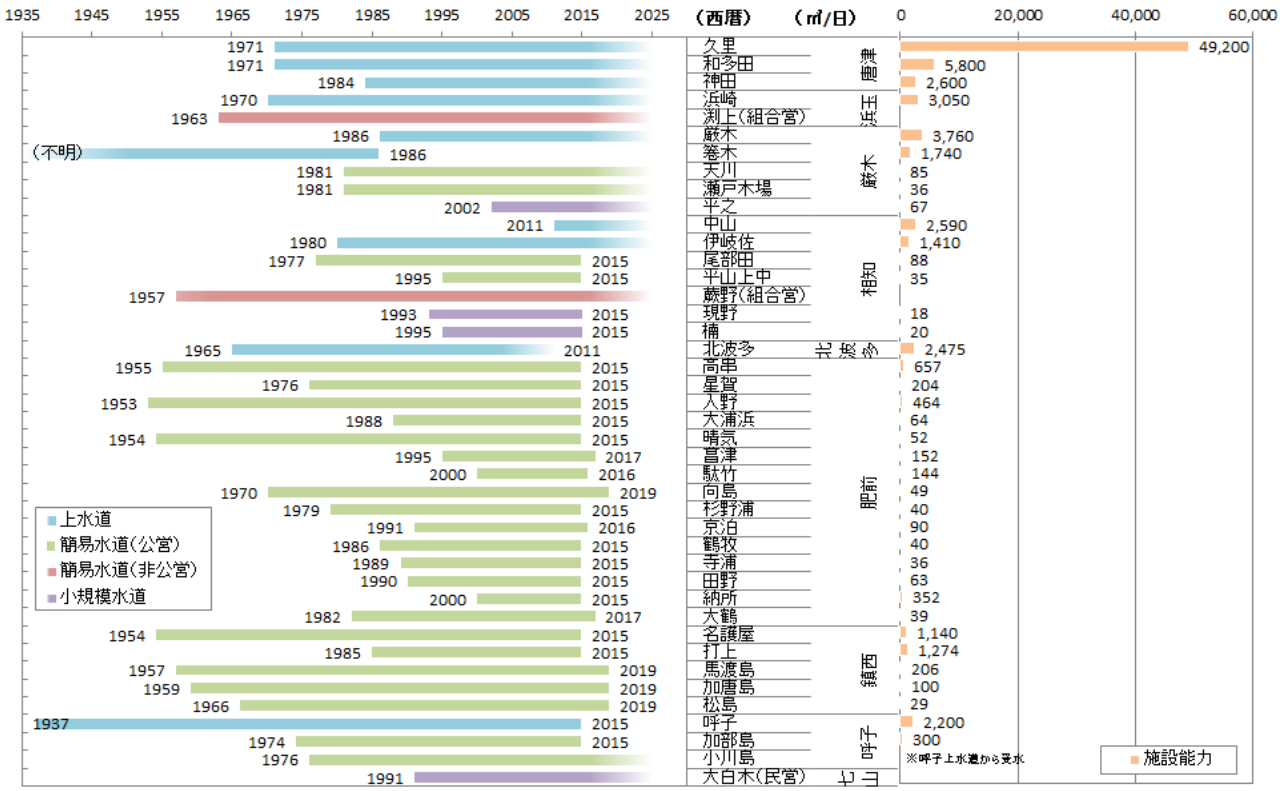
- 上場地区に大きな河川がなく、地下水や溜池が水資源となっている。**（データ1）**
- 唐津市水道事業においては、合併後に広域となった市内の全域にわたり、地域間の格差なく、良質の水道水を安定的に供給するため、平成 21 年度から国の補助事業で上水道と簡易水道を連絡管路で接続する簡易水道統合整備事業に着手している。
- 連絡管路は平成 26 年度までに概ねの整備を完了し、上水道との接続が完了した地区については順次、簡易水道事業を廃止し水道事業に事業統合する。
- 現在、稼働中の市営浄水場は、上水道8か所、簡易水道 25 か所、小規模水道4か所の計 37 か所あるが、簡易水道統合整備事業により平成 27（2015）年度に 19 か所、目標年の平成 36（2024）年度までに 12 か所に統廃合を行う予定である。**（データ2）**
- 浄水場は昭和 40 年代から 50 年代（1965～1984 年）にかけて建設されたものが多く、10 数年後には順次、更新時期を迎える。**（データ2）**
- 稼働中の上水道浄水場8か所の浄水能力は約 70,000 ㎥／日あるが、実際の配水量は約 36,000 ㎥／日（1日平均）である。**（データ2）**

（データ1） 河川、溜池など水資源の分布図



※出典：平成 22 年度唐津市水道地図

（データ2） 浄水場の浄水能力・経過年数・変遷

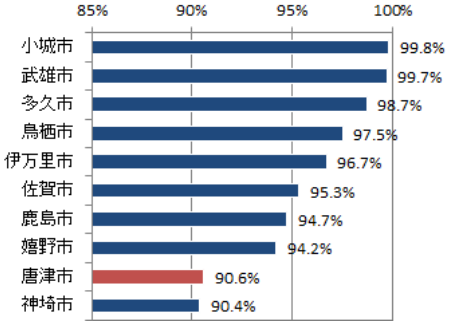


※左のグラフの数字は設置年及び休止・廃止年を示す、平成 24 年 3 月 31 日現在、出典：水道浄水課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

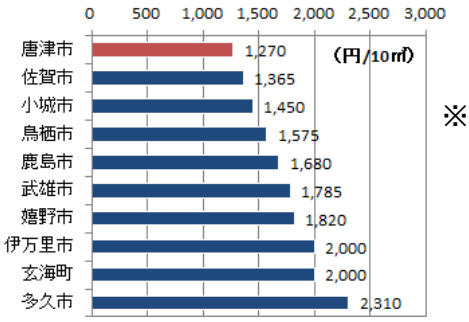
- 水道普及率は 90.6%であり、県内の市と比べると低い。（データ3）
- 水道料金は他市に比べて安いものの、起債償還に伴う公債費の増及び簡易水道事業統合後の減価償却費の増等により、赤字決算になっていくことが予測される。（データ4）（データ5）
- 施設の廃止・縮小のほか、余剰水源の活用を検討する必要があるのではないか。（例えば、福岡都市圏等への水の供給等）

（データ3） 県内 10 市の水道普及率



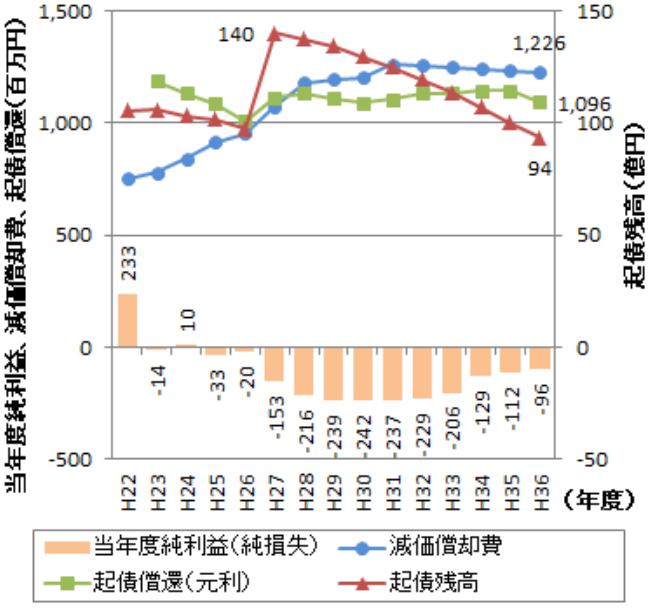
※平成 23 年 3 月 31 日現在、飲料水供給施設を含む、出典：佐賀県の水道（佐賀県健康福祉本部）

（データ4） 県内 10 市の水道料金



※平成 23 年 3 月 31 日現在、出典：佐賀県の水道（佐賀県健康福祉本部）

（データ5） 水道事業の財務状況（推移と予想）



※H27 より簡易水道分含む、出典：唐津市水道事業の長期見通し（水道管理課）

カテゴリー② 身近な環境が守られているか考えてみよう！

論点11： ごみの減量はできていますか？

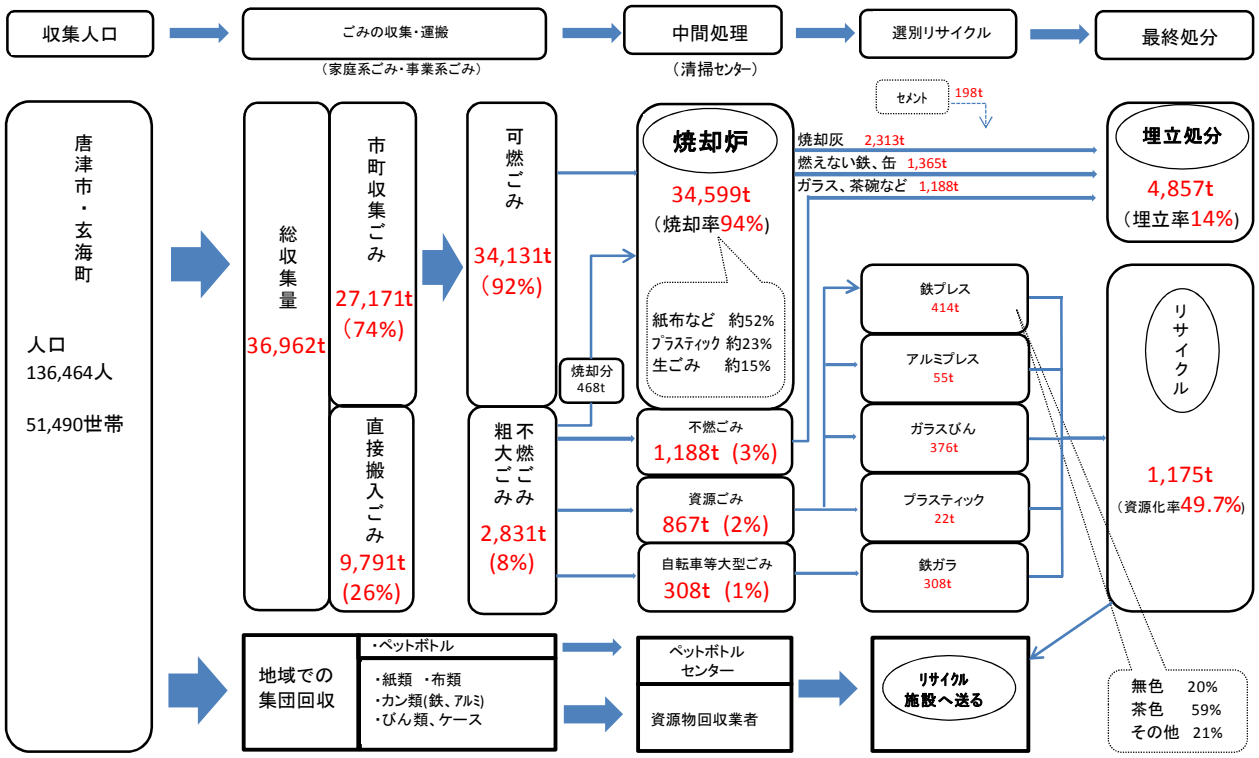
●論点を選んだ理由、背景

・ ごみの減量は、財政負担の軽減と環境保全の両面で効果がある。

●唐津市のいま

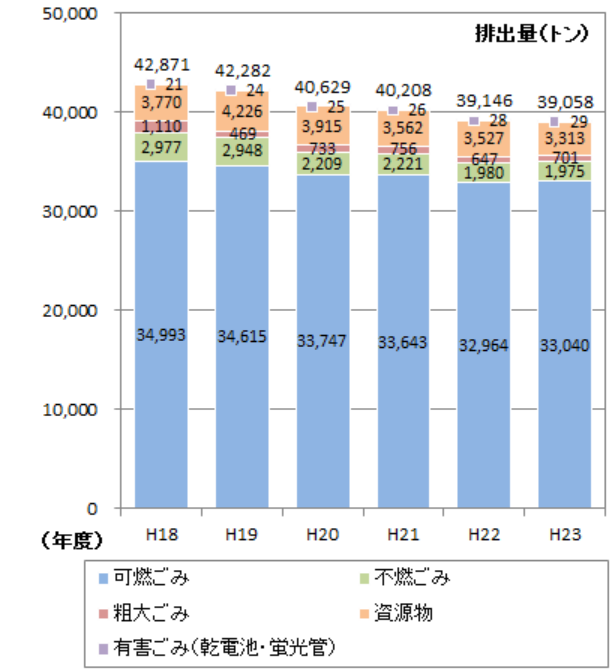
・ 資源物の回収・再生事業の取り組みを行っており、唐津市の資源化率は過去数年にわたり 11～12%となっている。（データ1）（データ3）
・ ごみの排出量は減少傾向にある。（データ2）（データ4）
・ ごみ処理に要する経費は平成 20 年度から増加傾向にある。（データ5）

（データ1） 唐津市清掃センターのごみの流れ



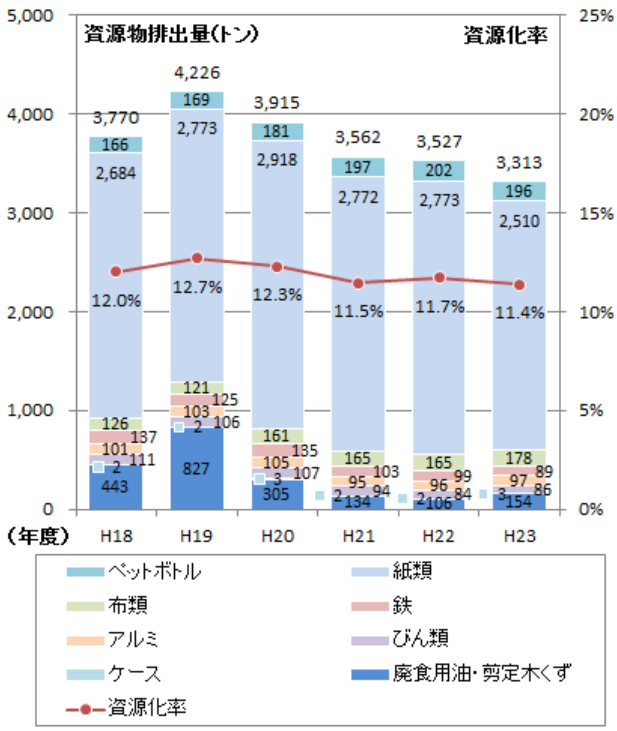
※平成 23 年度、玄海町を含む、出典：生活環境対策課（ごみ処理状況資料）

（データ2） ごみ排出量（種類別）の推移



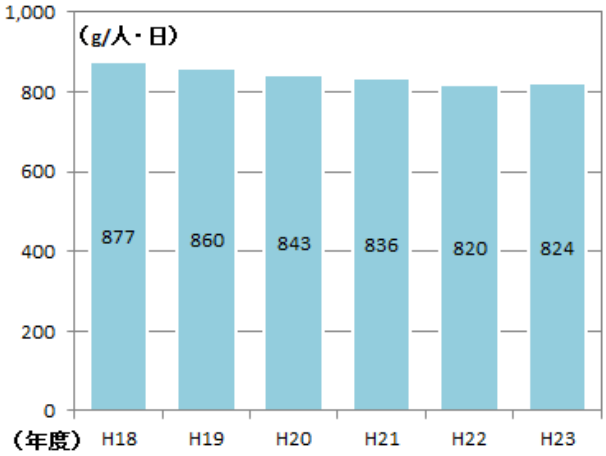
※出典：生活環境対策課（ごみ処理状況資料）

（データ3） リサイクル率及び資源物回収量の推移



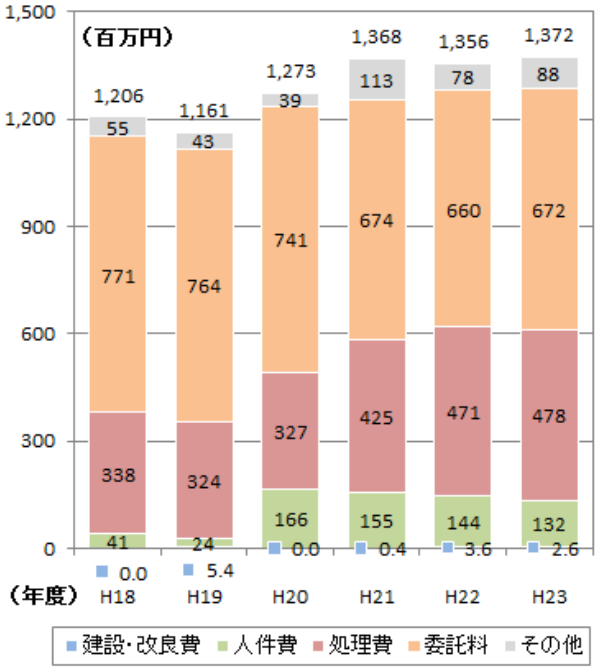
※出典：生活環境対策課（ごみ処理状況資料）

（データ4） 1人1日あたりの総排出量の推移



※出典：生活環境対策課（ごみ処理状況資料）

（データ5） ごみ処理経費の推移



※出典：生活環境対策課（ごみ処理状況資料）

カテゴリー② 身近な環境が守られているか考えてみよう！

論点12： 地球にやさしいエネルギーの利用は進んでいますか？

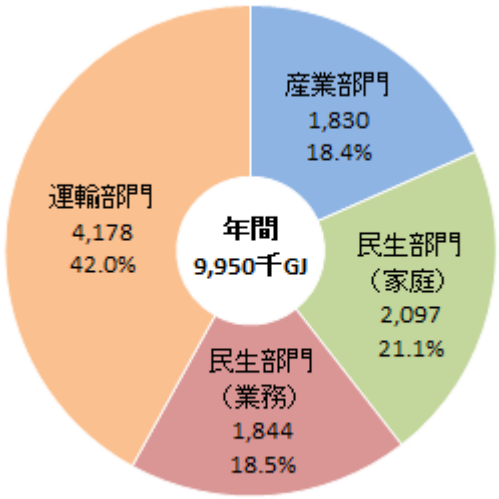
●論点を選んだ理由、背景

・ 世界的な化石燃料の枯渇、福島第一原発事故を契機とする持続可能な環境共生社会システムの構築要請、再生可能エネルギー関連技術の革新などを背景に、エネルギー供給地域として発展してきた唐津市は、どのような役割・取り組みが求められているのか。

●唐津市のいま

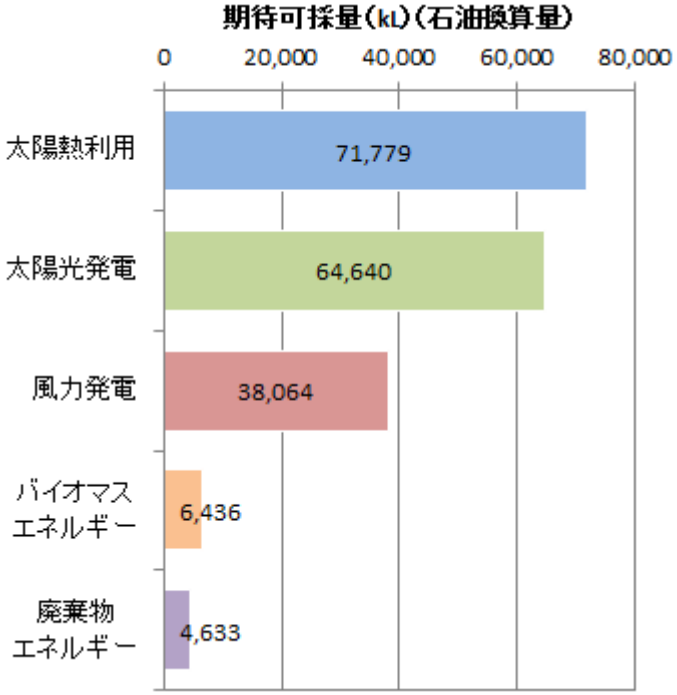
・ 唐津市の年間エネルギー消費量は、9,950 千GJ（ギガジュール、G＝10^9）で、石油ドラム缶の約 130 万本に相当する量と推定される。 **（データ1）**
・ 唐津市の新エネルギーの利用可能量は、現状のエネルギー消費量の約 71%程度に相当する量が存在する。なお、これは平成 20 年 2 月時点の試算であり、波力・潮力など当時算定に入れていなかったエネルギーを考えると、これを大きく上回る可能性がある。 **（データ2）**
・ 平成 24 年6月議会において再生可能エネルギー条例が制定された。今後、基本計画の策定が予定されている。
・ 唐津市では、産学官の連携により、新エネルギー産業の創出・育成に努め、活力のあるまちづくりの推進のため、第三セクターによる風力発電、メガソーラーなどに取り組んでいる。 **（データ3）**

（データ1） 部門別エネルギー消費量



※出典：唐津市地域新エネルギービジョン（平成 20 年 2 月）

（データ2） 新エネルギー期待可採量



※原油換算量は 1kL＝38.2GJ、出典：唐津市地域新エネルギービジョン（平成 20 年 2 月）

（データ3） 唐津市における新エネルギー産業の創出・育成の取り組み

取り組み	概要	経費・収入等	事業効果
風力発電事業への参加	国内の風力発電メーカーと共同で風力発電事業を行う会社を設立し、電力会社へ売電。	【年間予想発電量】2,740,000kWh 【売電単価】19.7 円（税込）／kWh（平成 24 年 11 月に固定価格買取制度に移行） 【経営状況】平成 16 年度から発電事業を開始し、平成 22 年度の決算では、税引き後の利益が黒字に転じた。以後も黒字の見通し。但し、当初の投資額の回収は、平成 29 年度以降の見込み。	市にとっての効果は、地域レベルでの地球温暖化防止の推進。固定資産税、法人税収入。土地所有者への土地賃貸借料。
官民EVシェアリングの導入（平成 23 年度～）	民間事業者が行う電気自動車のレンタルサービスで、平日は市が庁用車としてレンタルカーを利用し、業務日外の週末は市民に対し民間事業者レンタルサービスを行う。	【経費】単価 3,200 円／日で電気自動車を庁用車として利用。	市民にEV利用を普及することに貢献（2,500 円／日）。二酸化炭素削減、燃料費と合わせたリース料の比較では安価（２割から３割ほど）。
市有地へのメガソーラー設置運営事業者の募集（平成 23～24 年度）	市有地などで長く利用されていない土地で、メガソーラー施設の設置に適した土地について、発電事業を行う事業者を２か所の市有地で募集した。	ー	市としての新エネルギー導入推進支援のＰＲ。固定資産税、法人税収入。市への土地賃貸借料。
水素によるエネルギー貯蔵システム実現のための調査研究	水素によるエネルギー貯蔵システムの実現を目指すためHy Grid研究会が唐津市において実施。	唐津市に関係する調査に係る経費について補助金を交付（平成 24 年度予算 5,040 千円）	国等の実証実験の誘致による地元産業の新規事業への参入
創・省エネ型地域システム構築に関する共同研究	企業、団体、市民の総参加による節電の促進や地域発エネルギーによる雇用創出と地域経済の発展を実現する社会システムのモデルなどを研究。	平成 24 年度共同研究費 1,000 千円	

※出典：企画政策課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

・ 北九州市では、「北九州スマートコミュニティ創造事業」で低炭素社会等への取り組みをしている。
（データ4）

（データ4） 北九州スマートコミュニティ創造事業

実施主体	北九州スマートコミュニティ創造協議会 （北九州市、新日本製鐵（株）、日本アイ・ビー・エム（株）、富士電機（株）、（株）安川電機、（株）日鉄エレックスなどで構成）
実施地区	八幡東区東田地区（約 120ha）
実施期間	平成 22 年度～26 年度（5 年間）
CO2 削減目標	市内標準街区と比較して、2014 年までに 2005 年比 50%減
事業数	38 事業 （総事業費 163 億円（5 年間））
取組みの特徴	①電力の需給に応じて電力料金を変化させるダイナミックプライシングの実証。 ②通信機能や他の機器の管理機能を持つ高機能電力メーターであるスマートメーターの大量導入。 ③工場の生産プロセスから発生する副生水素や、工場の廃熱などをエネルギーとして地域で利用。 ④太陽電池や燃料電池などの直流で発電する電源を有効に活用できる直流電流住宅などの整備。 ⑤低炭素化社会の交通システムとして、EV（電気自動車）の大量導入、非接触 EV 充電器の整備、オンデマンドバスの導入など。 ⑥市民、学校、来訪者等に対する効果的な環境学習システムの整備。

※出典：北九州市ホームページ

カテゴリー③ 健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点13：子どもを育てやすい環境ですか？

●論点を選んだ理由、背景

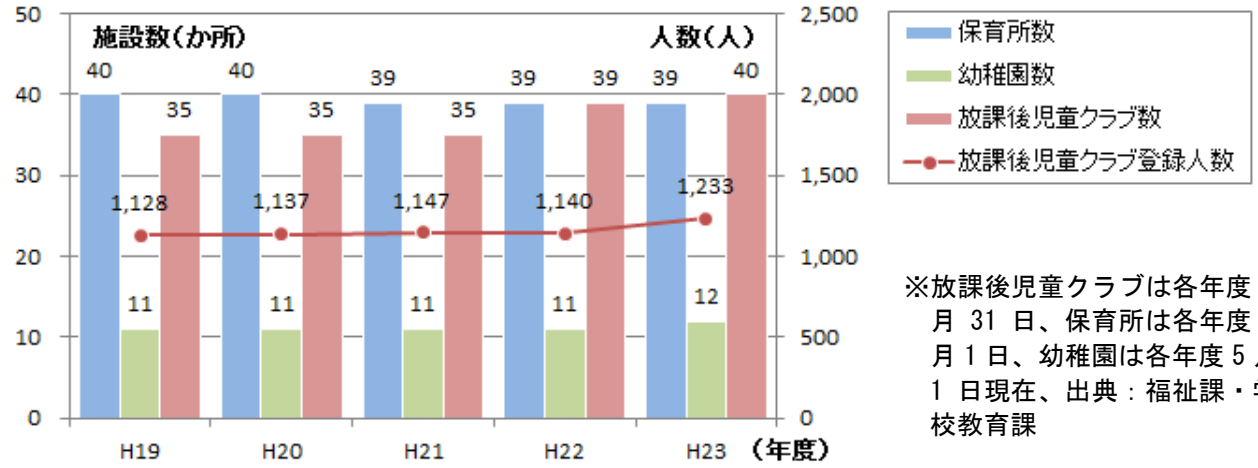
・少子化の抑制に向けて、安心して出産でき、子育てと仕事の両立ができる環境や育児支援の体制など、子育て環境は整備されているか。

（右）唐津市子育て支援情報センターの子育て緊急サポートサービス「ラビットくん」の様子

●唐津市のいま

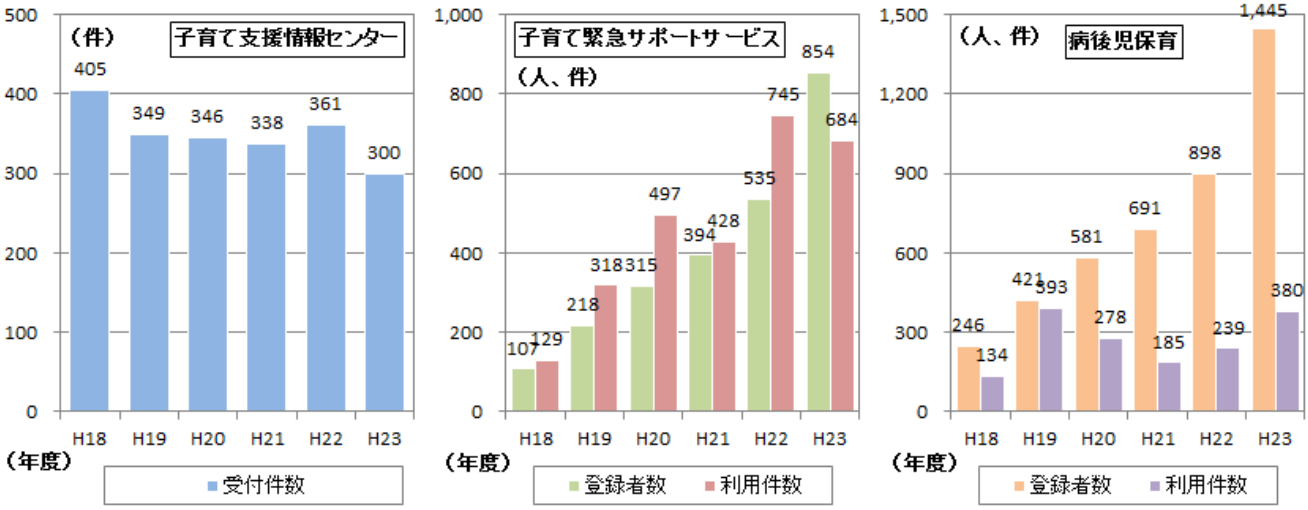
・保育体制が整備されており、待機児童はいない。放課後児童クラブは充実してきている。（データ1）
・子育て支援情報センターの利用は減少傾向にあるが、子育て緊急サポートサービスと病後児保育の利用は大きく伸びている。（データ2）
・また、唐津市内には 28 の子育てサークルがあり、育児不安解消に一役買っている。

（データ1） 保育所数、幼稚園数、放課後児童クラブ数と登録人数の推移



※放課後児童クラブは各年度 3 月 31 日、保育所は各年度 4 月 1 日、幼稚園は各年度 5 月 1 日現在、出典：福祉課・学校教育課

（データ2） 子育て支援関連サービス利用の推移

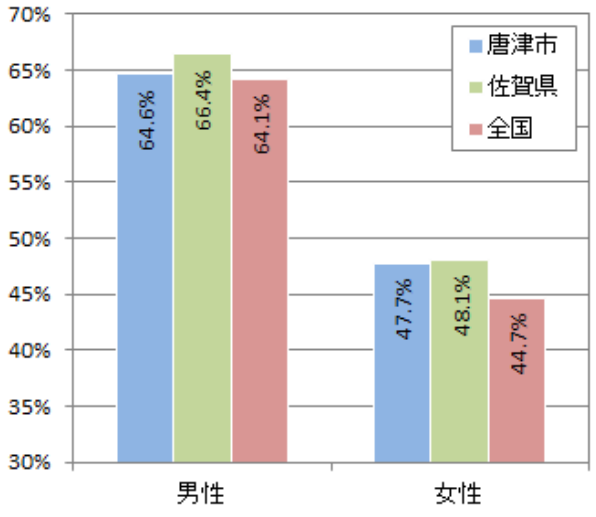


※出典：福祉課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

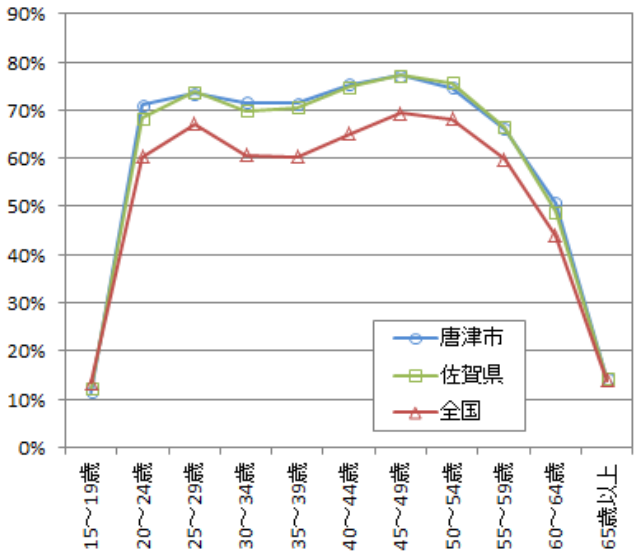
- 唐津市の就業率を全国、佐賀県と比較してみると、男性の就業率は全国と同水準だが、女性の就業率は高い水準にある。（データ3）（データ4）
- 全国と比較して、唐津市は、子育て世代（30 歳代）の女性の就業率も高く、いわゆるM字カーブも緩やかとなっている。（データ4）
- 市民アンケートの結果、子どもが病気の時、66%の保護者が仕事を休めると答えているが、休めない場合は、祖父母（家族）に頼んでいる人が 85%と、近くに親族がいない場合の対応が求められている。（データ5）

（データ3） 男女別就業率（県・国との比較）



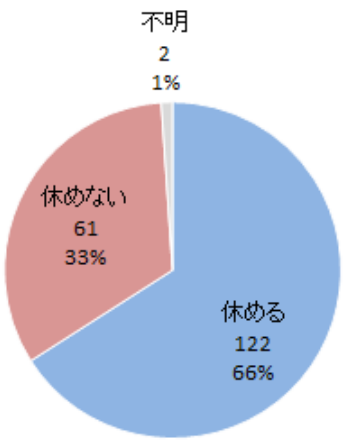
※出典：平成 22 年国勢調査

（データ4） 女性の年齢別就業率（県・国との比較）

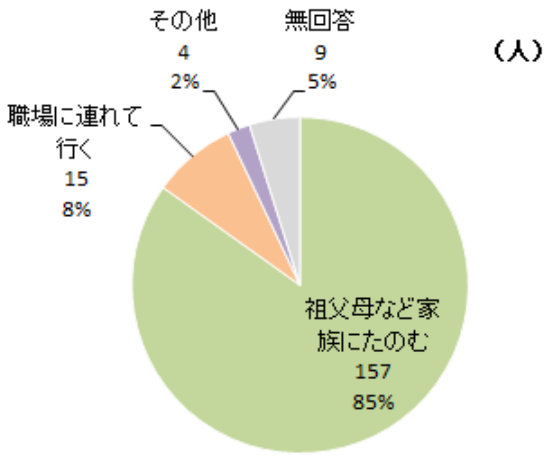


※出典：平成 22 年国勢調査

（データ5） 市民アンケート結果（病児の世話）



子どもが病気の際、仕事を休めますか



休めない場合、お子さんはどうしていますか

※出典：唐津市男女共同参画ネットワーク“レゾナ”（平成 23 年 6 月）

カテゴリー③ 健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点14： 地域の医療は充実していますか？

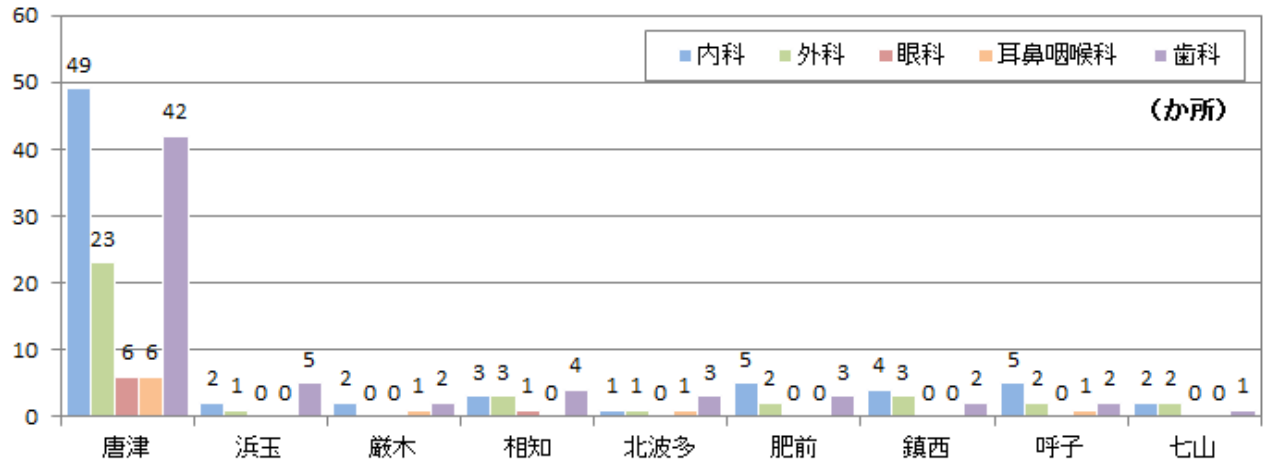
●論点を選んだ理由、背景

- 病気になったり、怪我をした時に治療を受けられる病院が近くにあり、心配なく暮らすことができるか。
- 安心して出産し、子供を育てられる医療は整っているだろうか。

●唐津市のいま

- 多くの診療科は唐津地区に集中している。なかでも眼科、耳鼻咽喉科、産科、婦人科、産婦人科、小児科、救急医療機関は、唐津地区以外では少なく、無い地区もある。
  （データ1）（データ2）（データ3）
- 分娩対応可能な産科（産婦人科）が減少している。**（データ3）**
- 周産期医療体制は整備されているが、重症の場合は佐賀市の国立病院へ搬送されている。
- 不妊治療支援事業を実施しており、妊娠率は約 18%から 34%となっている。**（データ4）**

（データ1） 内科・外科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科の数



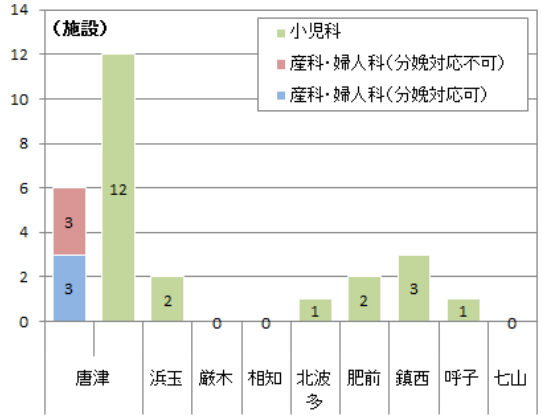
※平成 24 年 8 月末現在、出典：保健医療課

（データ2） 救急医療体制

北部医療圏域（唐津市、玄海町）					圏域外
初期（一次）救急医療	二次救急医療			三次救急医療	三次救急医療
	救急告示医療機関	病院群輪番制病院（内科）	病院群輪番制病院（外科）		
各所	5 か所	3 か所	5 か所	1 か所	6 か所
かかりつけ医・市内の身近な診療所、唐津救急医療センター	済生会唐津病院、河畔病院、唐津第一病院、唐津赤十字病院、市民病院きたはた	済生会唐津病院、河畔病院、唐津東松浦医師会医療センター	副島整形外科病院、済生会唐津病院、城内病院、平川病院、河畔病院	唐津赤十字病院	県立病院好生館、佐賀大学医学部附属病院、久留米大学病院、九州大学病院、福岡大学病院、済生会福岡総合病院

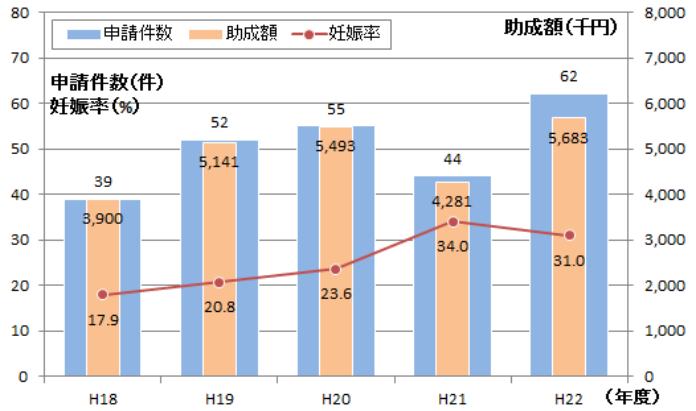
※平成 24 年 4 月 1 日現在、出典：保健医療課

（データ3） 周産期医療（産科・産婦人科）・婦人科・小児科の地区別数



※平成 24 年 8 月末現在、出典：保健医療課

（データ4） 不妊治療支援事業の推移

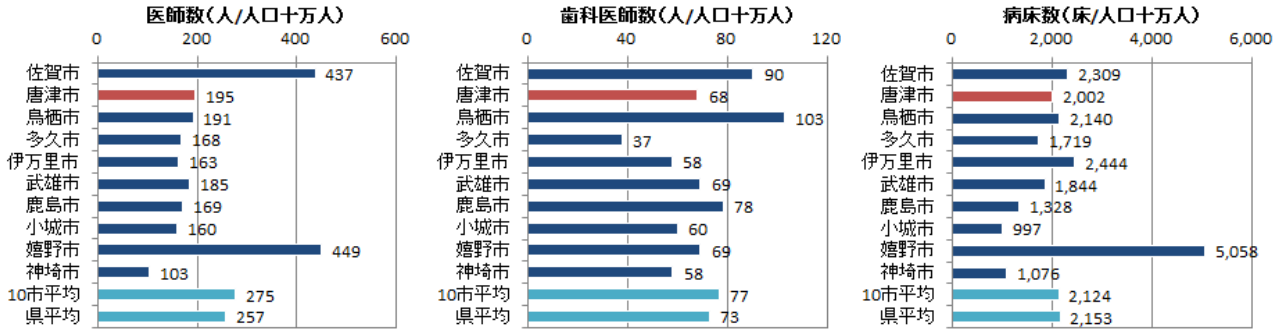


※出典：保健医療課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 医師・歯科医師・病床数を県内他市と比較してみると、すべてにおいて県平均及び市平均より少ない。**（データ5）**
- 分娩可能産科（産婦人科）数・小児科数を福岡市と比較した場合、いずれも1病院に対する人口は唐津市の方が低い。**（データ6）**
- 県内市町の不妊治療支援事業を比較した場合、実施していない自治体もあるが、手厚い内容の自治体が多い。**（データ7）**

（データ5） 県内 10 市の人口十万人あたりの病床数、医師、歯科医師



※出典：佐賀県医療施設調査

（データ6） 産科・産婦人科、小児科数（福岡市との比較）

		唐津市	福岡市
分娩可能産科（産婦人科）数	[a]	3	47
20-39歳人口	[b]	13,902	227,197
分娩可能産科（産婦人科）に対する人数	[b/a]	4,634	4,834

小児科数	[c]	21	219
0-12歳人口	[d]	15,866	174,730
小児科に対する人数	[d/c]	756	798

※平成 24 年 3 月 31 日現在、唐津市の小児科数不明確、出典：保健医療課・福岡市地域医療課

（データ7） 県内市町の不妊治療助成事業

市町名	助成限度額（1年度あたり）	助成回数	所得制限
佐賀市	10万円	通算5年	有
唐津市	10万円	通算5年	無
鳥栖市	（未実施）	―	―
多久市	初年度30万円、次年度以降20万円	通算5年、初年度3回、次年度以降2回	無
伊万里市	5万円	通算5年	無
武雄市	初年度30万円、次年度以降20万円	通算5年、初年度3回、次年度以降2回	無
鹿島市	（未実施）	―	―
小城市	20万円（10万×2回）	通算5年（6回まで）、1年度2回	無
嬉野市	10万円	通算5年、1年度1回	有
神埼市	初年度20万円、次年度以降10万円	通算5年	有
玄海町	20万円（10万×2回）	1年度2回を通算5年	無
有田町	10万円	1年度1回を通算2年	無
大町町	20万円（10万×2回）	1年度2回、年数制限なし	無
白石町	初年度30万円、次年度以降20万円	通算5年（10回まで）、初年度3回、次年度以降2回	有

※出典：保健医療課

カテゴリー③ 健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点15： 市民の健康は保たれていますか？

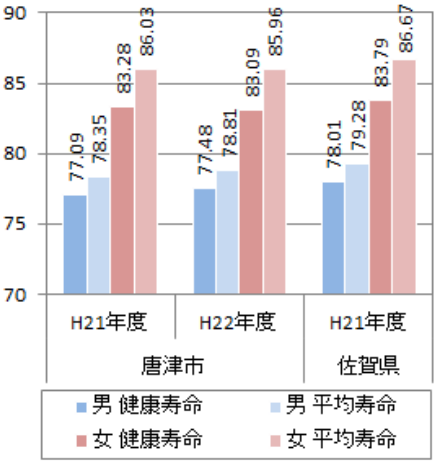
●論点を選んだ理由、背景

- 食生活を始めとする生活習慣の変化、居住環境や生活環境の変化に伴い健康リスクは増大している。
- 早期発見・早期治療の二次予防のみならず、生活習慣病の発病を予防することが大切である。

●唐津市のいま

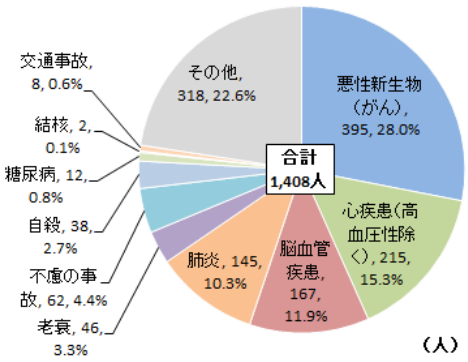
- 唐津市民の健康寿命・平均寿命は佐賀県平均を下回っている。**（データ1）**
- 唐津市内の死亡者の主な死因は、がんや心疾患などの生活習慣に起因する疾病が約半数を占めている。**（データ2）（データ3）**
- がん検診の受診率は低迷しているが、子宮がん、乳がん、大腸がんの受診率は増加傾向にあり、がん検診によるがん発見者数も増えている。**（データ4）（データ5）**
- 特定健康診査等の受診者のうち約 25%はメタボリック該当や予備軍との診断を受けている。**（データ6）**
- 健康づくり推進事業への参加者数も伸び悩んでいる。**（データ7）（データ8）**
- 国民健康保険制度は社会・経済情勢等により財政状況が悪化し、市の財政を圧迫している。**（データ9）**

（データ1） 健康寿命、平均寿命



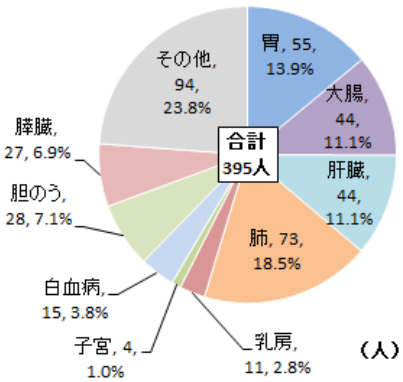
※健康寿命とは健康で自立して暮らすことができる期間（要介護2未満）、平均寿命とは0歳時の平均余命、出典：佐賀県健康増進課

（データ2） 市内の死因別死亡者数



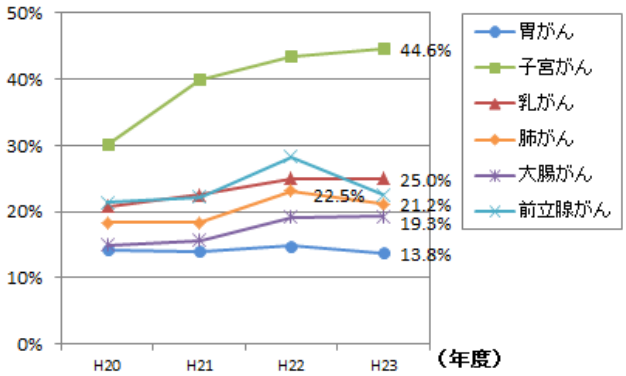
※出典：平成 21 年保健統計年報

（データ3） がん部位別死亡割合



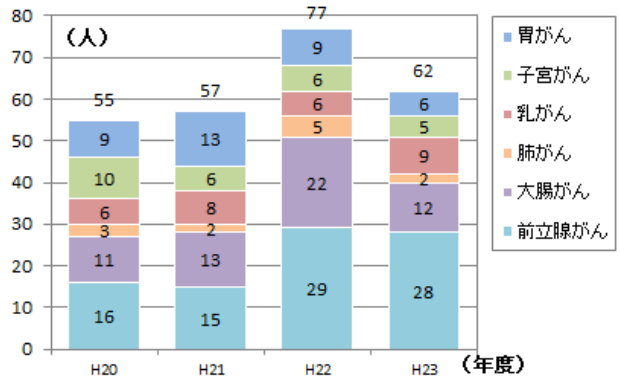
※出典：平成 21 年保健統計年報

（データ4） がん検診受診率の推移



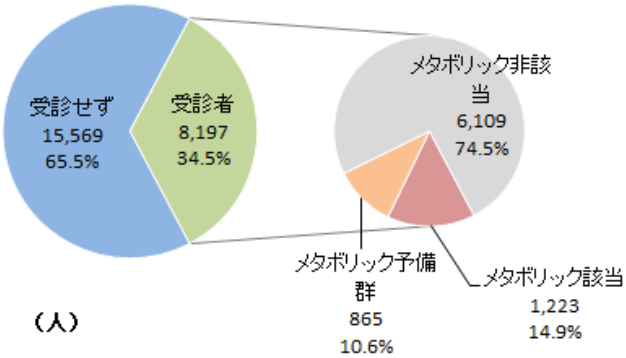
※出典：唐津市の保健事業

（データ5） がん検診によるがん発見者数の推移



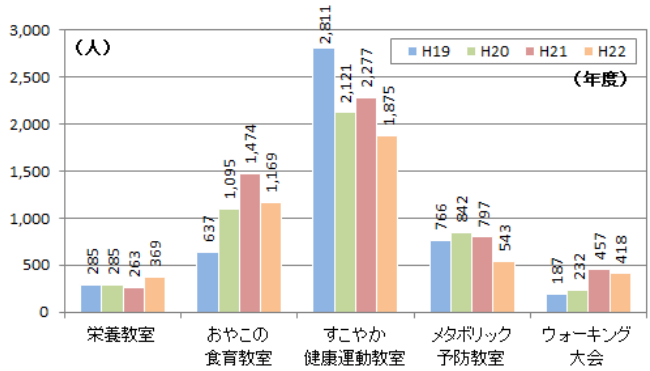
※出典：唐津市の保健事業

（データ6） 特定健康診査等の判定結果



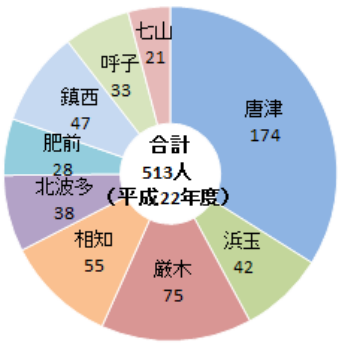
※平成 23 年度、出典：保険年金課

（データ7） 主な健康づくり推進事業の参加延人員の推移



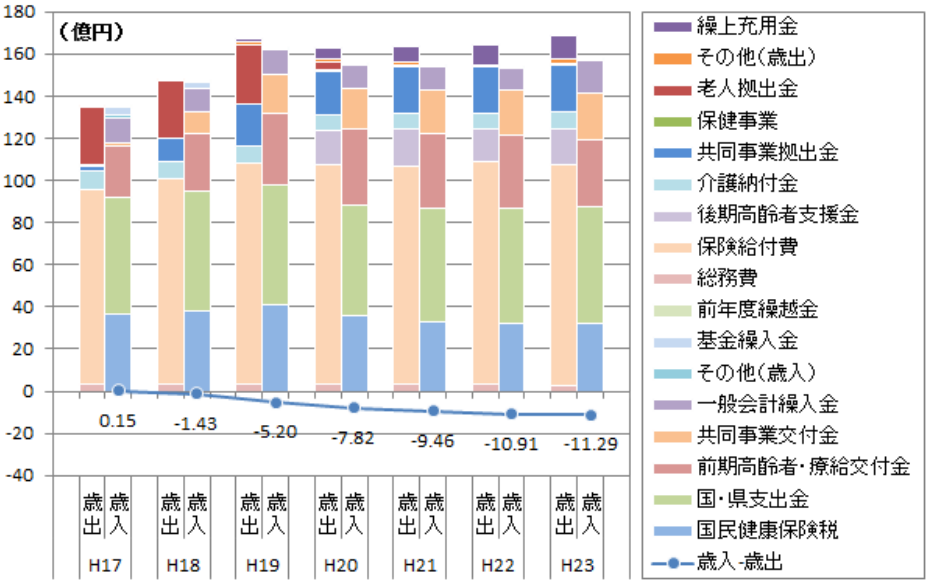
※出典：唐津市の保健事業

（データ8） 食生活改善推進協議会会員数



※出典：唐津市の保健事業

（データ9） 唐津市国民健康保険の決算状況の推移

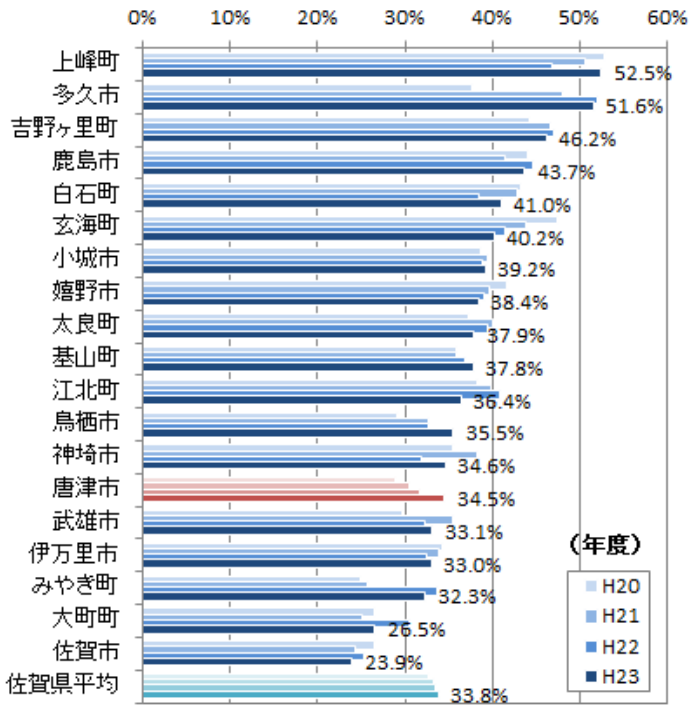


※平成 20 年度から 75 歳以上は後期高齢者医療へ移行、出典：唐津市歳入歳出決算書

●他のまちと比べてみると

- 唐津市の特定健診受診率は 34.5%と増加傾向にあり、県内平均の 33.8%を上回るものの、県内 20 市町のなかで6番目に低い。（データ10）

（データ10） 佐賀県国保保険者（県内市町）における特定健診受診率の推移



※出典：佐賀県国民健康保険課

カテゴリー③ 健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点16： 日々の買い物に不自由していませんか？

●論点を選んだ理由、背景

・ 高齢化が急速に進み、高齢者のみの世帯が増えている。近くにスーパー等の買い物施設がなく、車にも乗れない高齢者は、最寄りのスーパーまでの往復に長時間を要するなど、日々の食料品や日用品の調達に苦労している状況である。

●唐津市のいま

・ 高齢化率（65 歳以上の人口が総人口に占める割合）の推計を 32 の小学校区別にみると、平成 42 年には、40%を超える校区が 19 校区もあり、そのうちの7校区は 45%を超えることが推計されている。
【基礎データ編 p.24】

・ そのようななか、過疎、高齢化が進む厳木町で、他の地区に先駆けて、「買い物弱者」対策として、インターネットの動画配信サイトを活用した買い物支援サービス（住民がネット動画の生中継で唐津市厳木特産品等展示販売施設「風のふるさと館」の商品を見て注文し、届けてもらうシステム）が平成 24 年 10 月から始まった。 **（データ1）**

（データ1） 唐津市の買い物支援サービスの事例

サービス名	井戸端スクリーン商店 idosk
概要	唐津市厳木特産品等展示販売施設「風のふるさと館」にある商品をインターネット中継で見ながら注文し、配達してもらえるシステム。また、配達の時間を利用して、集まった人達が世間話（井戸端会議）を楽しんで過ごす。 （平成 24 年 10 月 23 日開始）
対象地区	厳木町 旧本山小学校区 （本山地区、高倉地区、椋の木地区） ※他の地区からのお客さんも有り
取扱品目	野菜、米、生鮮品、加工品、総菜、 弁当、菓子、焼物、お土産品など
配達頻度	週1回 （毎週火曜日午前 10 時から）
注文方法	旧本山小学校にて動画中継で注文 ※唐津市厳木特産品等展示販売施設「風のふるさと館」のスタッフが商品を撮影して動画サイトにリアルタイム配信し、旧本山小に集まった人は、スクリーンの映像を見ながら値段や量、生産者、色合いなどを確認、中継が終わると、注文票と代金を集めて道の駅へ届ける。約 30 分～1 時間後には商品が旧本山小学校へ届き、住民が持ち帰る。500 円以上お買い上げの方は、希望すれば自宅まで配送してもらえる。
配達場所	旧本山小学校 （500 円以上お買い上げの方は、希望すれば自宅まで配送）
利用料	200 円/回 （当分の間は免除）
窓口	唐津市厳木支所産業課

（上）閉校した小学校に集まって、映像で品定めをする住民の皆さん

（下） 道の駅では撮影スタッフがタブレットを手に野菜や果物など、おすすめ商品を次々に送信。

※出典：佐賀県ホームページ、厳木支所産業課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 身近なスーパー、商店等の撤退により、車などの移動手段を持たない高齢者など、日常の買い物が困難な「買い物弱者」対策として、他市においては、軽トラックでの移動販売、店舗からの宅配サービスなどの支援に動き出した民間事業者、自治体がある。（データ2）
- また、運転免許を全部自主返納された 65 歳以上の方を対象に、車に代わる公共交通機関の乗車券等を交付する支援制度を設けられている事例もある。（データ3）

（データ2）「買い物弱者」対策の他市の事例

主体	対象地区等	取扱品目	方法	頻度等	利用料
いばらきコープ生活協同組合	水戸市	肉、野菜など生鮮食品を中心に約 400 品。	軽トラックでの移動販売。	週5回のペースで1日 10 か所程度を回る。	—
東京都港区	港区内でオフィスビルが増えた一部地域。1人暮らしの高齢者か高齢者のみの世帯が対象。	野菜、米、トイレットペーパーなど。	FAXで注文してもらい、区内の商店街から商品を調達。	月2回 地元の福祉施設で配布	50 円/回
佐賀県白石町商工会	白石町湯崎地区、田野上地区など	鮮魚、肉、果物、野菜、総菜、衣料品など。	軽トラックでの移動販売。	平成 24 年 1 月 17 日～2 月 2 日社会実験。	—
(株)セブン－イレブン・ジャパン	国内 「セブンらくらくお届け便」	セブン－イレブン店内のほぼすべての食品や日用品等約 2,700～2,800 品。	店舗からの宅配サービス。超小型電気自動車の新型「コムス」を活用。	平成 24 年 8 月から順次拡大。9 月までに約 200 店舗。	—

※出典：新聞記事より

（データ3） 高齢者運転免許自主返納支援事業の事例

富山市	運転免許を全部自主返納された 65 歳以上の方を対象に、車に代わる公共交通機関の乗車券（約2万円相当）等や、希望される方には住民基本台帳カード、運転経歴証明書等の取得費用も支援している。
栃木市	平成 23 年 10 月 1 日以降に運転免許のすべてを自主返納した 65 歳以上の市内に住所を有する方を対象に、蔵タク（市町村が運行事業者に委託する、ワンボックス車両等の予約制の乗合タクシー）乗車回数券（11 枚綴り）を3冊交付している。
神奈川県綾瀬市	近年高齢者の運転による交通事故が多発していることから、市に住民登録されている年齢 65 歳以上で、平成 23 年 4 月 1 日以降に運転免許証を自主返納された方を対象に、住民基本台帳カードの無料交付、コミュニティバス無料乗車回数券（50 枚綴り）の交付を行っている。

※平成 24 年 8 月 1 日現在、出典：各市ホームページ

カテゴリー③ 健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点17： 安心して老後を過ごしていますか？

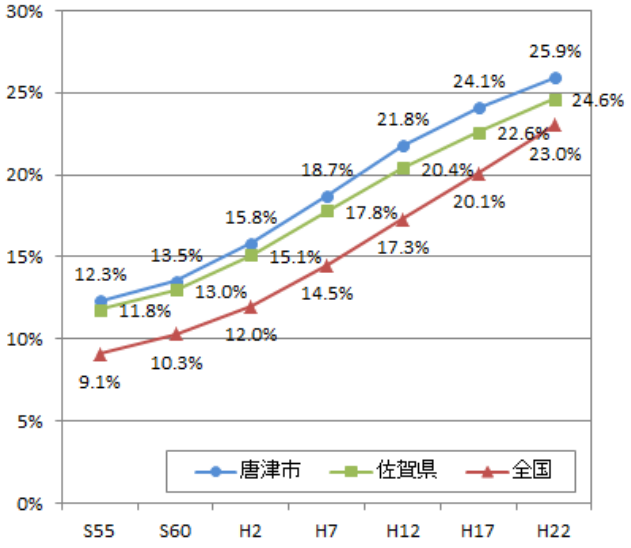
●論点を選んだ理由、背景

・ 高齢化が進み、高齢者のみの世帯が増えている。また、要介護認定者数も増加しているが、今のままで老後を安心して生活していくことができるのか。

●唐津市のいま

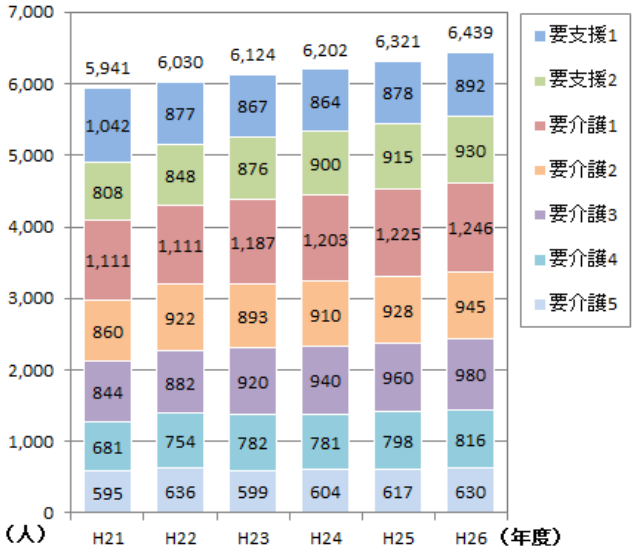
・ 唐津市の高齢化の状況は、全国、佐賀県全体と比較しても高く、今後も 65 歳以上の高齢者人口は増加するものと推定されている。**（データ1）【基礎データ編 p.18】**
・ 要介護認定者数が増加している。**（データ2）**
・ 高齢者のみの世帯割合は県内他市町と比較して高い方である。**【基礎データ編 p.50】**
・ 介護老人福祉施設、介護老人保健施設は、各施設とも常時ほぼ満室の状態で、待機者数も合計で 1,000 人を超えている。**（データ3）**

（データ1） 高齢化率の推移（県・国との比較）



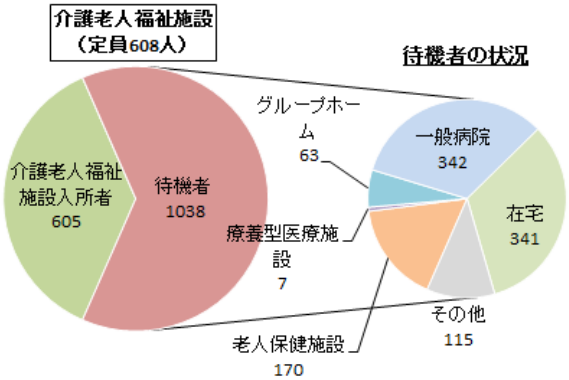
※出典：平成 22 年国勢調査

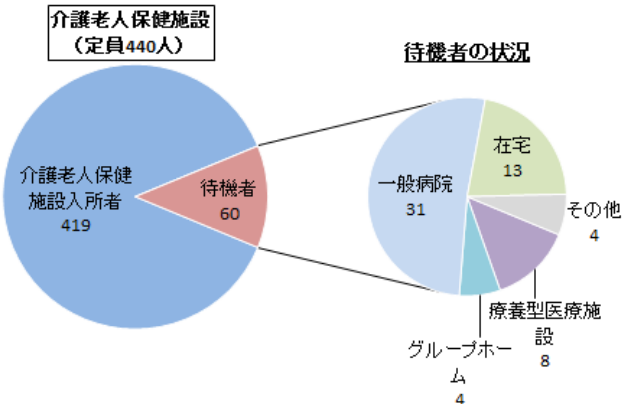
（データ2） 要介護者数の推移と将来推計



※出典：唐津市第7期高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画【概要版】

（データ3） 介護老人福祉施設・介護老人保健施設の入所・待機の状況



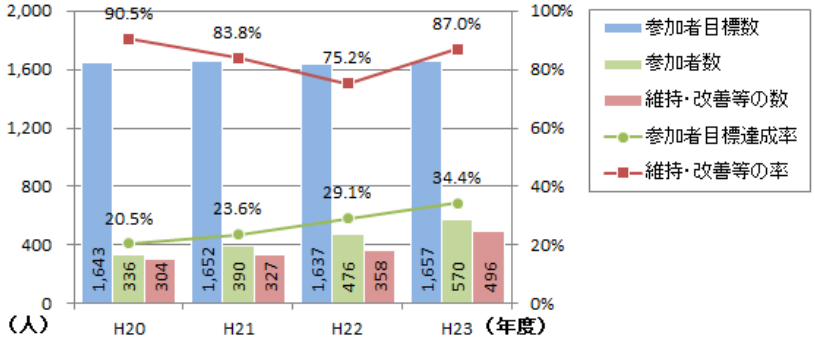


※出典：高齢者支援課。平成 24 年 5 月 31 日現在。待機者数は、介護老人福祉施設と介護老人保健施設とも複数の施設を申し込んでいる人がいるため、実数は7割程度と見込まれる。

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 厚生労働省は介護予防事業への参加者目標数を高齢者人口の概ね5%（本市では約 1,650 人に相当）としているが、本市における参加者数は、平成 20 年度の 336 人から平成 23 年度は 570 人と増加しているものの、ここ数年の目標達成率は 30%前後にしか過ぎず、十分とは言えない。 **（データ4）**
- しかしながら、介護予防事業への参加者のうち、平成 23 年度においては、約 87%の人に身体機能の維持・改善等が認められており、要支援、要介護の予防にはつながっていると考えられる。 **（データ4）**
- 老人クラブの会員数が減少傾向にある。 **（データ5）**
- 介護保険対象の住宅改修利用状況（過去3年）をみると、利用者数、改修費支給額ともに、直近の平成 23 年度が最大となっている。 **（データ6）**
- 生活支援のための高齢者福祉サービスとして、「老人緊急通報装置貸与事業」、「高齢者日常生活用具給付事業」、「高齢者軽度生活援助事業」などを実施している。 **（データ7）**

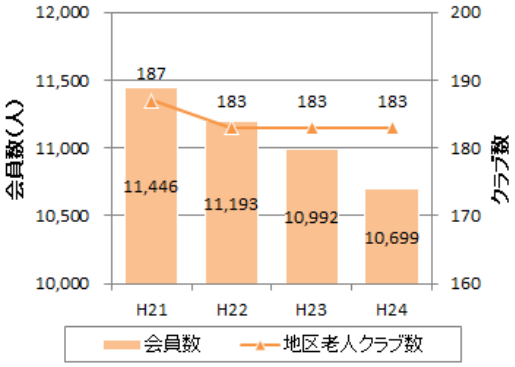
（データ4） 唐津市の介護予防事業の参加者数等の推移



【対象】
- 通所（ますます元気づくり教室、ますます元気づくり通所サービス）又は訪問型による介護予防事業
- 対象者は 65 歳以上で身体機能の低下がみられる人
- 介護認定を受けている人は対象とならない

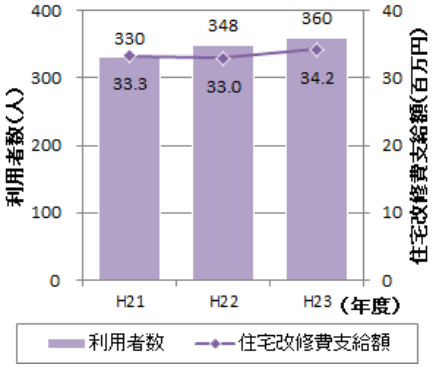
※出典：地域包括支援センター資料（唐津市保健福祉部高齢者支援課）

（データ5） 老人クラブの会員数等の推移



※各年 4 月時点、出典：高齢者支援課

（データ6） 介護保険対象の住宅改修利用状況



※ 介護保険制度では、要介護・要支援認定を受けた人が、在宅生活をするうえで必要な住宅改修（手すりの取り付け、段差の解消、床材の変更、扉の取り替え、便器の取り替え）を行った際に、改修費用の９割相当額（18 万円が上限額）を住宅改修費として支給している。

※出典：高齢者支援課

（データ7） 唐津市の高齢者福祉サービスの主な事例

事業名	内容	実績(年度)	H21	H22	H23
老人緊急通報装置貸与事業	急病や災害などの緊急時に迅速かつ適切な対応を図るため、一人暮らしで健康面など在宅での生活に不安のある虚弱な高齢者に対し、緊急通報装置を貸与するもの。	設置台数（台）	481	450	412
高齢者日常生活用具給付事業	在宅の寝たきり高齢者や介護を要する認知症高齢者など、心身機能の低下によって安全確認、火気取扱い等に不安がある在宅の一人暮らし高齢者などに対し、安全確保を図るうえで必要な火災報知器・自動消火器を給付することで、日常生活の便宜を図るもの。	給付件数（件）	13	1	3
高齢者軽度生活援助事業	在宅の一人暮らし高齢者などの自立した生活の継続を支援するため、家周りの手入れ、食事・食材の確保、家屋内の整理・整頓、軽微な修繕、外出時の援助、その他軽易な日常生活上の援助などを行うもの。	利用者数（人）	545	630	645
		利用時間（時間）	8,906	10,894	12,278

※出典：高齢者支援課

カテゴリー③　健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点18：障害のある人の社会参加は進んでいますか？

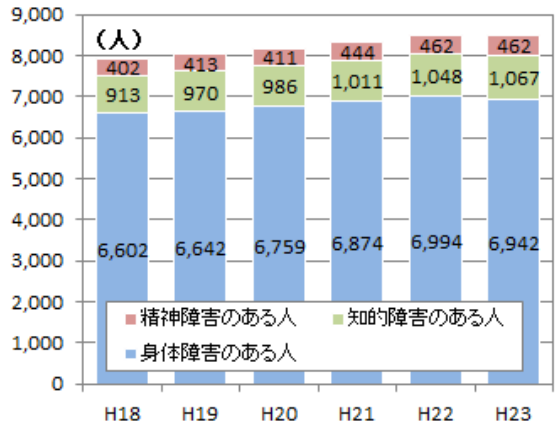
●論点を選んだ理由、背景

- 障害のある人やその家族をサポートする機関は十分に確保され、情報提供や相談窓口の充実は図られているか。
- また、安定した日常生活を送るためにも就労や社会参加は進んでいるか。

●唐津市のいま

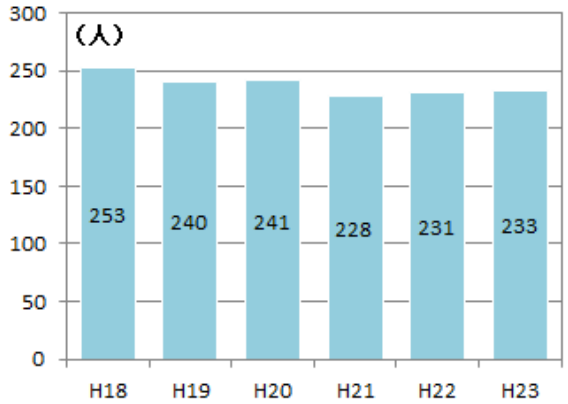
- 障害のある人は年々増加傾向にあり、なかでも身体障害のある人が大半を占めている。（データ1）
- 施設入所者の地域生活への移行を促進しているものの、受け皿であるグループホームやケアホームなどの民間施設の整備が遅れていることもあり、進まないのが現状である。（データ2）
- 相談支援センターに寄せられる相談では、福祉サービスの利用等に関することが最も多く、健康・医療や家計・経済に関することも数多く寄せられている。（データ3）
- アンケートでは、福祉作業所で働いている障害者のうち、知的障害や精神障害のある人の約3割は一般就労への意欲があるが、障害者の雇用率はここ数年横ばい状態である。（データ4）
- また、施設入所者は家族との同居やひとり暮らし、共同生活など地域生活への移行を望んでいる方も少なくない。（データ5）

（データ1）　障害者手帳所持者の推移



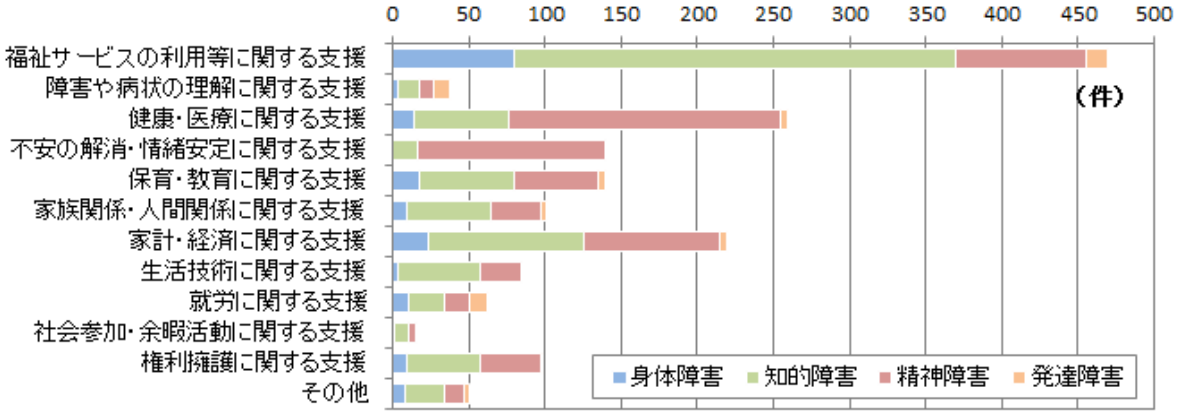
※各年３月末現在、出典：第3期唐津市障害福祉計画

（データ2）　施設への入所者数の推移



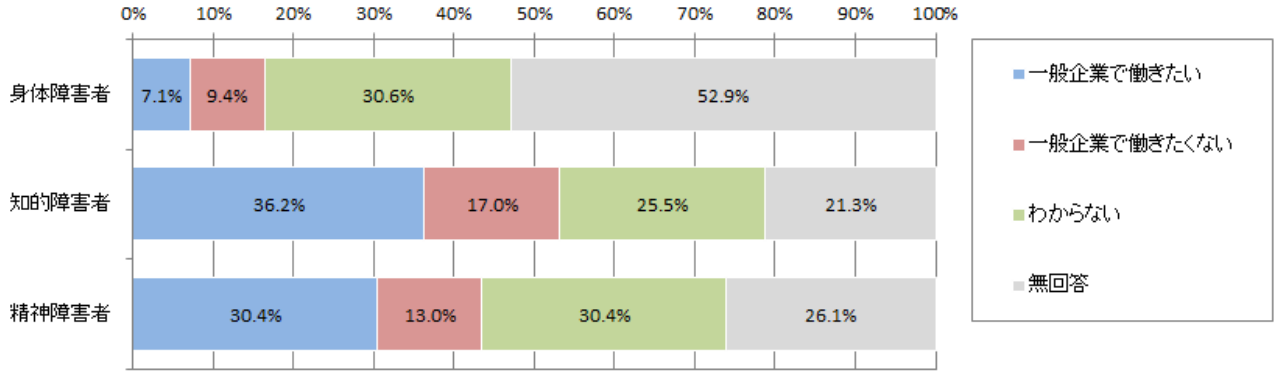
※各年３月末現在、出典：第3期唐津市障害福祉計画

（データ3）　障害別相談支援件数



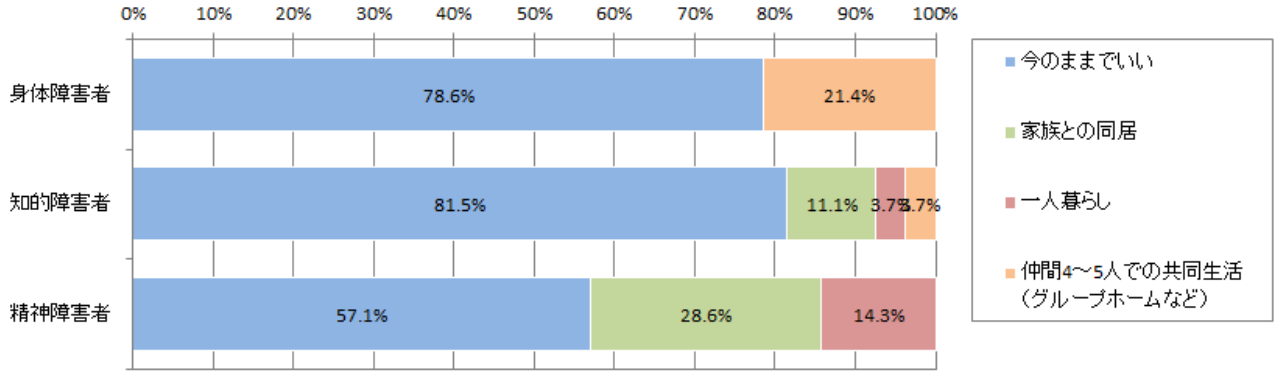
※平成 23 年度、出典：障害者相談支援センター

（データ4） アンケート結果（一般企業での就労意向）



※福祉作業所で働いている障害者の回答、出典：第3期からつ自立支援プラン

（データ5） アンケート結果（これから望む暮らし方）

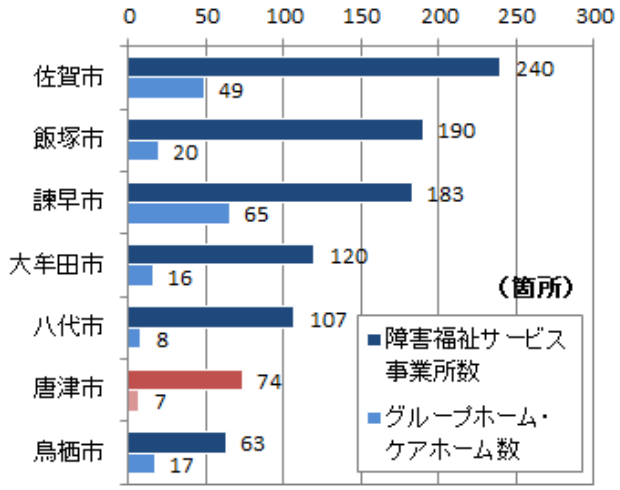


※施設入所中の障害者の回答、出典：第3期からつ自立支援プラン

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

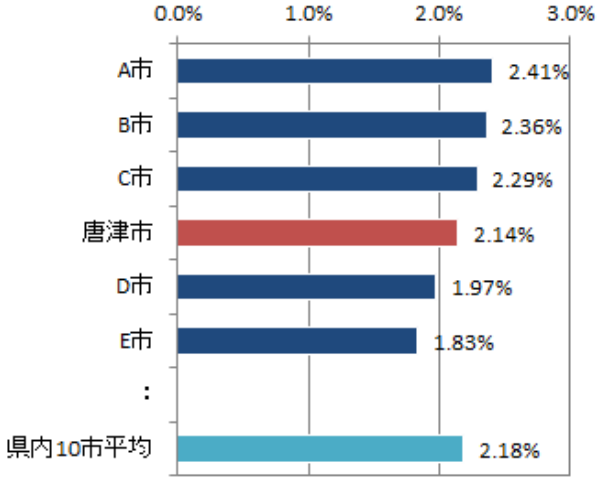
- 障害福祉サービス事業所数は、九州圏内各市と比較しても少ない方であり、特にグループホームやケアホーム数の少なさは顕著である。（データ6）
- 唐津市の障害者雇用率は、法定雇用率（1.8%、法改正により平成 25 年 4 月 1 日から 2.0%）は達成しているものの県内他市と比較しても高い方とは言えない。（データ7）

（データ6） 九州圏内各市の障害福祉サービス事業所数



※平成 24 年 4 月 1 日現在、出典：障害者支援課

（データ7） 県内各市の障害者雇用率



※平成 23 年 6 月 1 日現在、出典：障害者支援課

カテゴリー③　健康で安心な日常生活が送れているか考えてみよう！

論点19：社会保障（セーフティネット）は充実していますか？

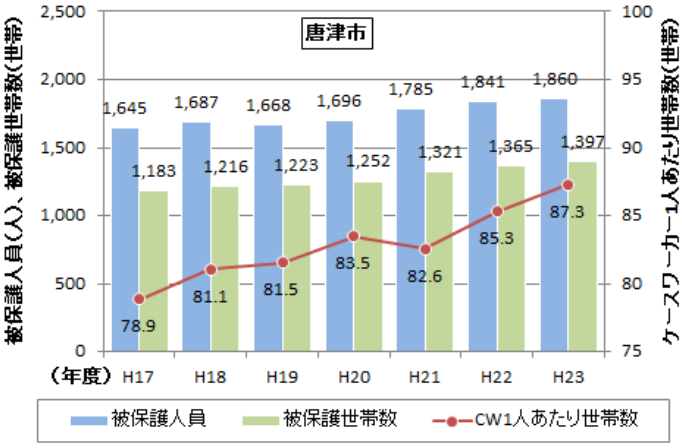
●論点を選んだ理由、背景

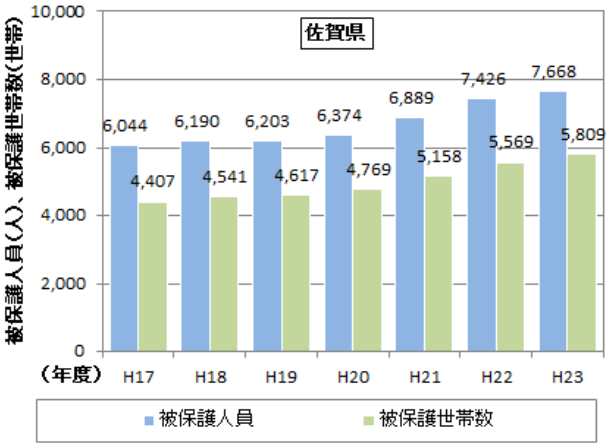
- 平成 24 年度に全国の被保護人員が 210 万人を突破しているが、唐津市でも増加しているのか。
- 生活保護費が増加し、国及び市の財政を圧迫しているのではないか。
- 扶養義務者の扶養意識の低下（核家族化等）により保護世帯が増加していないか。
- 就労の場が少なく生活困窮者が増加しているのではないか。

●唐津市のいま

- 被保護世帯数、被保護人員とも増加傾向にある。（データ1）（データ2）
- 被保護人員は、高齢者（65 歳以上）が5割以上であるが、稼働年齢（18～64 歳）も一定割合を占めている。（データ3）
- 扶助費も増加傾向である。（データ4）
- 有効求人倍率は増加傾向ではあるが、リーマンショックの影響を受けた2年前が低すぎると言える。（データ5）
- 被保護世帯数、被保護人員の増加に伴い、ケースワーカーの事務量が増加しており、きめ細やかな自立助長への取り組みが不十分である。（データ1）（データ6）

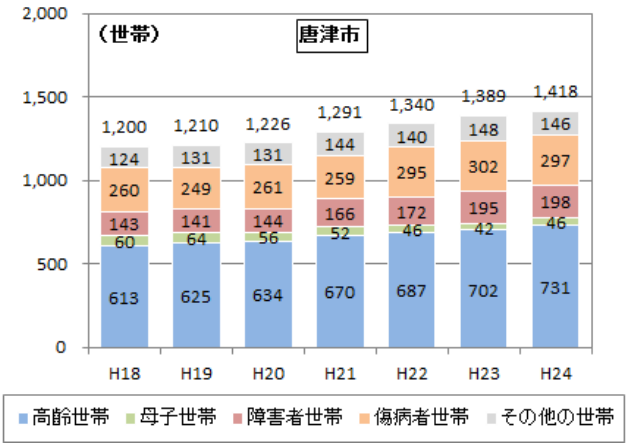
（データ1）　被保護人員、被保護世帯数の推移（唐津市、佐賀県）

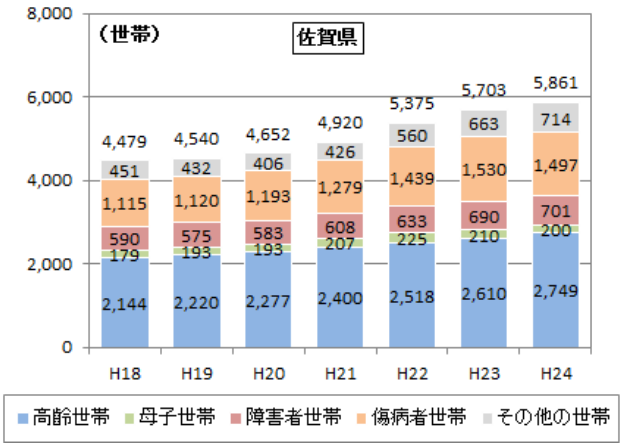




※毎月の値を年度で平均したもの（年度平均値）、出典：佐賀県生活保護速報

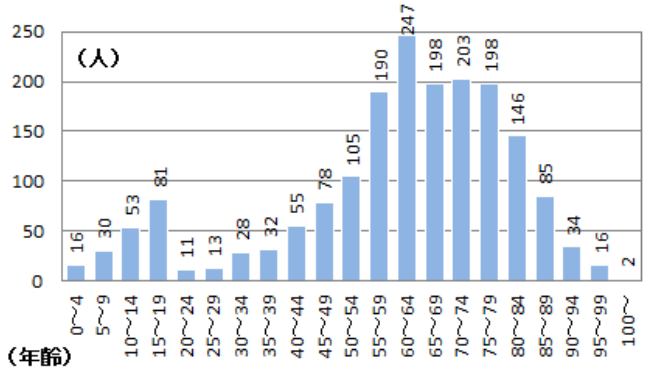
（データ2）　世帯類型別被保護世帯数の推移（唐津市、佐賀県）





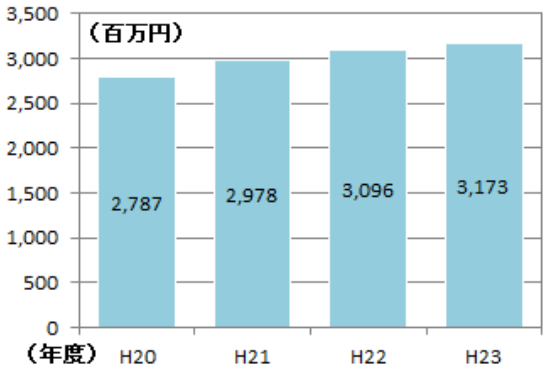
※各年 4 月 1 日現在、出典：佐賀県生活保護速報

（データ3） 被保護人員数の年齢構成



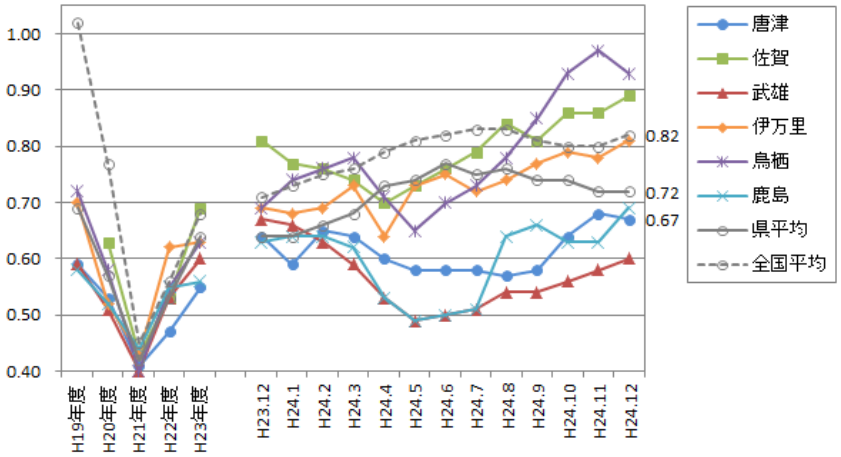
※平成 24 年 3 月末、出典：生活保護課

（データ4） 扶助費の推移



※出典：生活保護課

（データ5） 常用有効求人倍率の推移（県内他市、県、国との比較）



※出典：佐賀労働局

（データ6） 就労支援に伴う収入増による保護からの自立

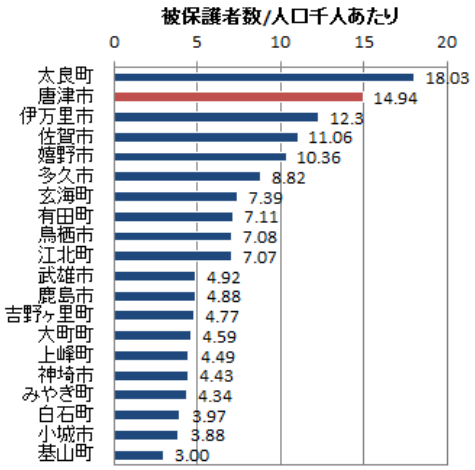
平成 18 年度	13 人
平成 19 年度	6 人
平成 20 年度	0 人
平成 21 年度	8 人
平成 22 年度	1 人
平成 23 年度	6 人

※出典：生活保護課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

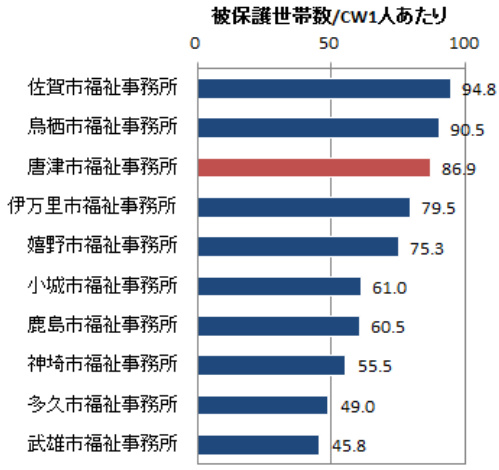
- 県内でも有効求人倍率が低い方である。（データ5）
- 保護率は県内市町で2番目に高い。（データ7）
- ケースワーカー1人あたりの世帯数は県内で3番目に高い（社会福祉法により、1人あたり 80 世帯が標準とされている）。（データ8）

（データ7） 県内市町の保護率（人口千人あたりの被保護者数）



※平成 24 年 4 月現在、出典：佐賀県生活保護速報

（データ8） 県内の CW1 人あたり被保護世帯数



※平成 23 年 4 月現在、出典：生活保護課

カテゴリー④ 魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点20： 農業に魅力を感じていますか？

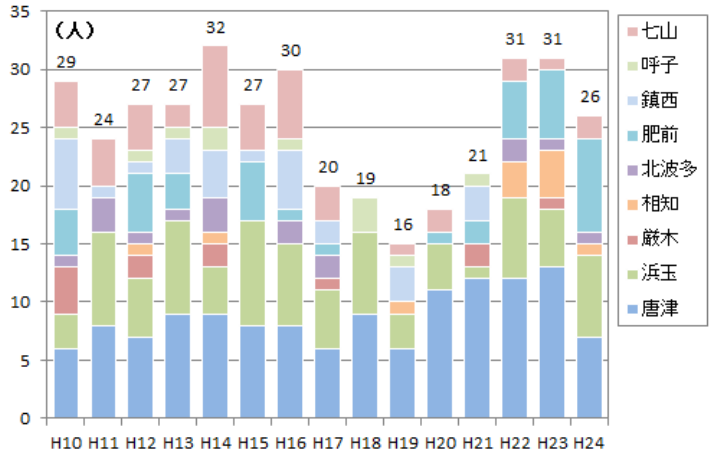
●論点を選んだ理由、背景

- 農業就業者の減少と高齢化はどの程度進行しているのか。
- 地域農業の担い手不足により、農地の荒廃が問題になっている。
- 若者の就農やビジネスとしての農業が注目されているが、唐津市ではどのような状況か。

●唐津市のいま

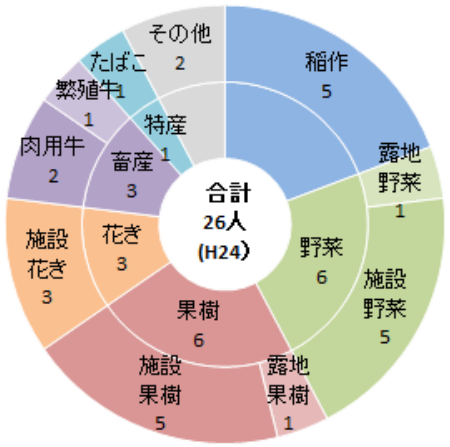
- 一次産業の就業者数は減少している。**【基礎データ編 p.76】**
- 新規就農者は毎年 20～30 人程度で推移しており、減少分を埋めるほどの規模とはなっていない。**（データ1）（データ2）**
- 農地の荒廃や他用途への転用が増えている。**（データ3）（データ4）**
- 学校給食の地産地消率は上昇していて、ここ数年 70%を超えている。**（データ5）**

（データ1） 新規就農者の推移



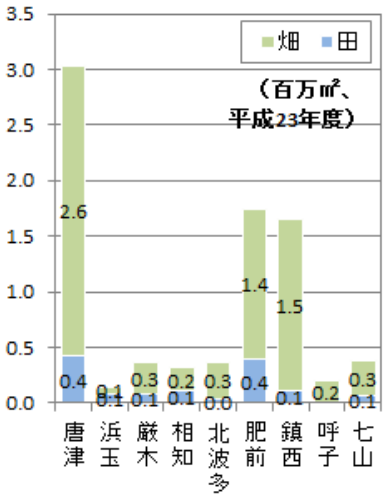
※前年 6 月 1 日～5 月 31 日、出典：佐賀県農産課

（データ2） 新規就農者の内訳



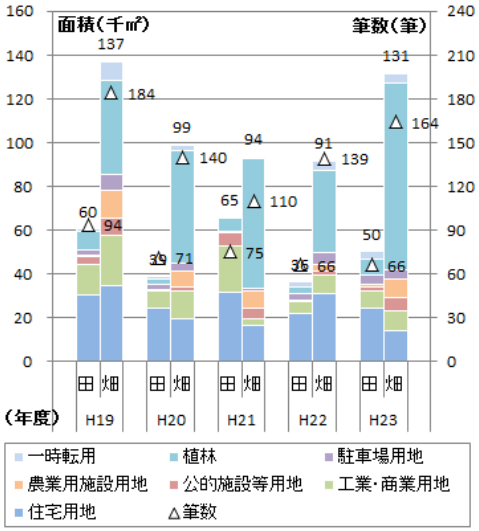
※平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 5 月 31 日、出典：佐賀県農産課

（データ3） 耕作放棄地面積



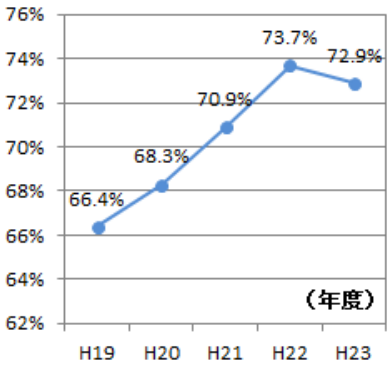
※出典：唐津市農業委員会

（データ4） 農地転用件数及び面積の推移



※出典：唐津市農業委員会

（データ5） 学校給食における県内産食材の割合の推移

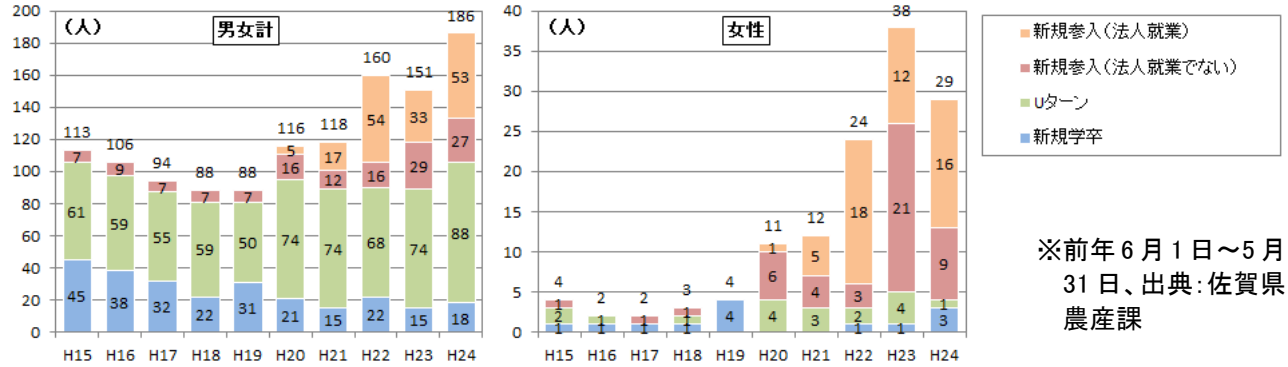


※重量比、出典：学校教育課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

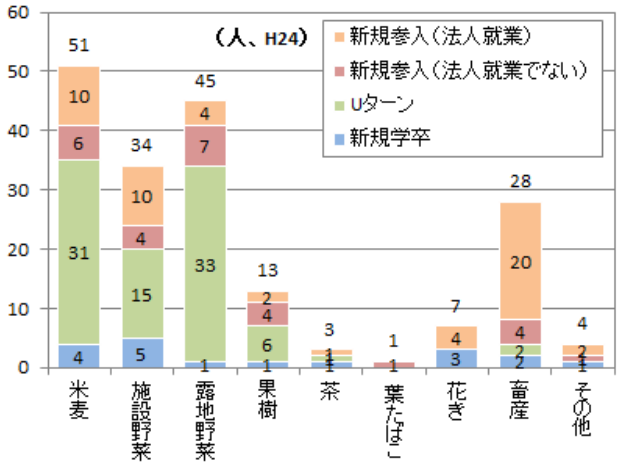
- 佐賀県内における新規就農者は、新規参入や女性の参加により増加傾向にある。部門別では、かつては施設野菜が多かったが、最近では、米麦、露地野菜、畜産が伸びている。20～30 歳代の新規就農者が増加傾向にある。（データ6）（データ7）（データ8）（データ9）
- 唐津市は、県内市町と比べて、農業従事者の平均年齢が比較的若い。（データ10）

（データ6） 佐賀県内の新規就農者の推移（就業理由別）



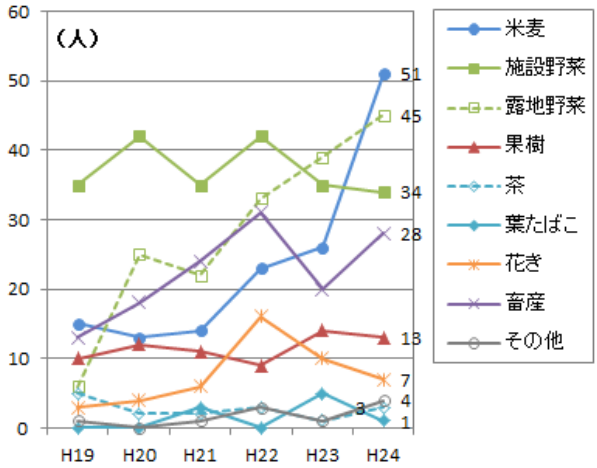
※前年 6 月 1 日～5 月 31 日、出典：佐賀県農産課

（データ7） 佐賀県内の新規就農者の部門別理由



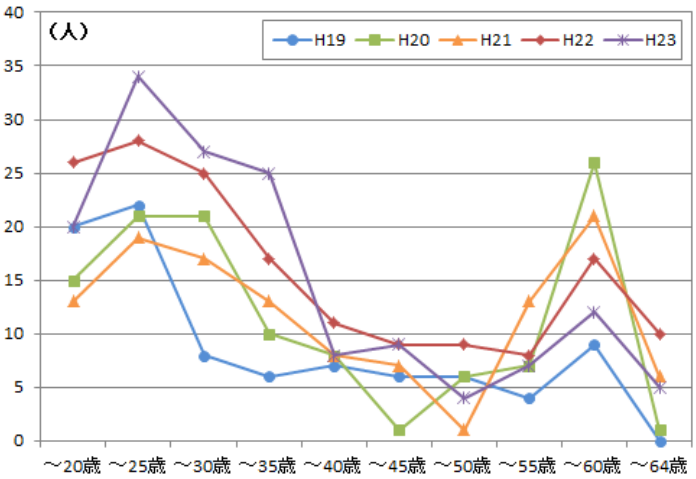
※平成 23 年 6 月 1 日～翌年 5 月 31 日、出典：佐賀県農産課

（データ8） 佐賀県内の新規就農者の推移（部門別）



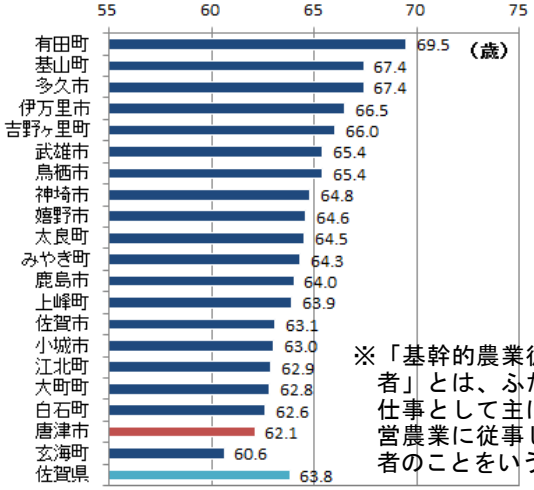
※前年 6 月 1 日～5 月 31 日、出典：佐賀県農産課

（データ9） 佐賀県内の新規就農者の年齢構成



※各年 6 月 1 日～翌 5 月 31 日、出典：佐賀県農産課

（データ10） 県内市町の基幹的農業従事者の平均年齢



※「基幹的農業従事者」とは、ふだん仕事として主に自営農業に従事した者のことをいう。

※出典：2010 農林業センサス

カテゴリー④ 魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点21： 林業に魅力を感じていますか？

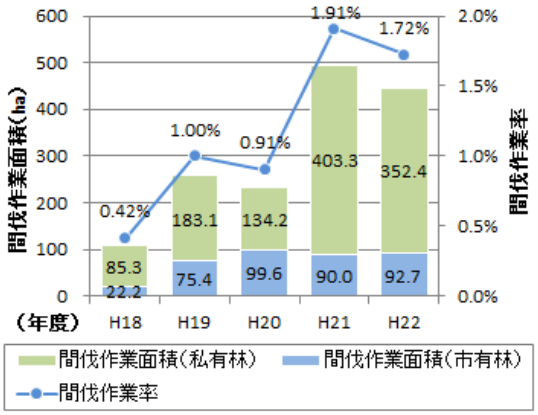
●論点を選んだ理由、背景

- 近年、再生可能なエネルギーとして木質バイオマスの資源となる林地残材が検討されているが、燃料としてだけでなく、新たな活用策はないのだろうか。
- 林地残材を林外に搬出することで、林業所得を向上させることはできないのか。
- 風雪大雨などの災害に強い山林を育てることが望まれる。

●唐津市のいま

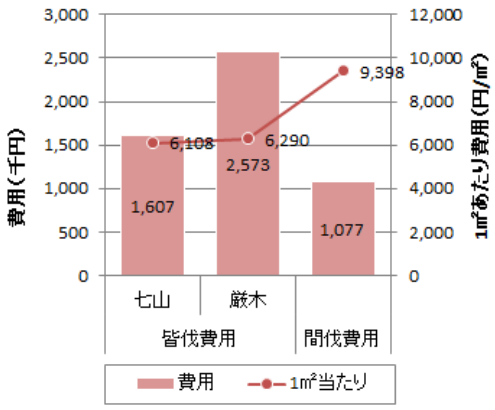
- 唐津市の間伐作業実施面積は市林野面積の2%以下しかない。事業者の減少、後継者不足や採算性の問題から、間伐などが行われない手つかずの山林がほとんどという状況にある。（データ1）
- 間伐材を搬出するか切り捨てるかは、現地の地形や作業路等の状況、材の生育状況や木材価格により判断している。（データ2）（データ3）
- 出荷する材と残りの材すべてを林外に搬出する場合、現在の木材価格やバイオマス燃料価格と搬出にかかる経費では、搬出経費が圧倒的に高く採算がとれない。（データ2）（データ3）
- 燃料として使用する施設やチップなどに加工する施設が近くに少ない。
- 1戸あたりの林業所得は、徐々に伸びているものの、所得額自体は依然として厳しい状況にある。（データ4）

（データ1） 間伐作業実施面積の推移



※出典：林務課

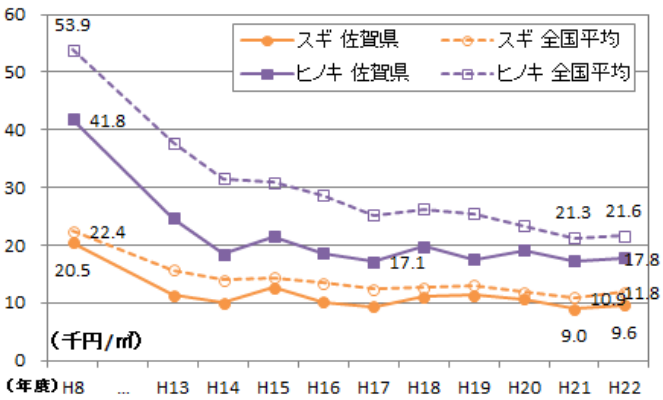
（データ2） 搬出にかかる経費



「皆伐」とは、林業で、森林などの樹木を全部又は大部分伐採すること。
「間伐」とは、林業で、林木の密度を調節して生育を助けるため、また主伐前に収穫を得るため、林木の一部を伐採すること。

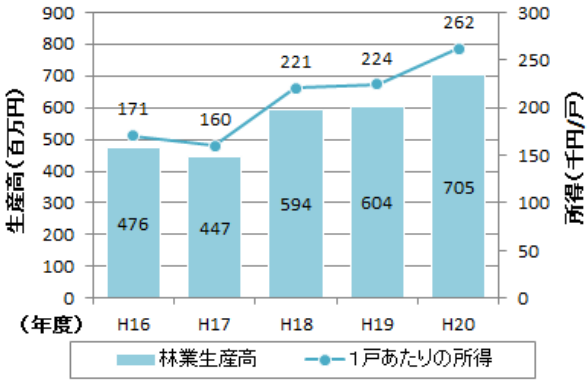
※平成 23 年度、出典：林務課

（データ3） 木材価格の推移



※出典：森林・林業統計要覧（林野庁）

（データ4） 林業生産高及び 1 戸あたりの林業所得の推移



※出典：農林業センサス統計年鑑

カテゴリー④ 魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点22： 畜産業に魅力を感じていますか？

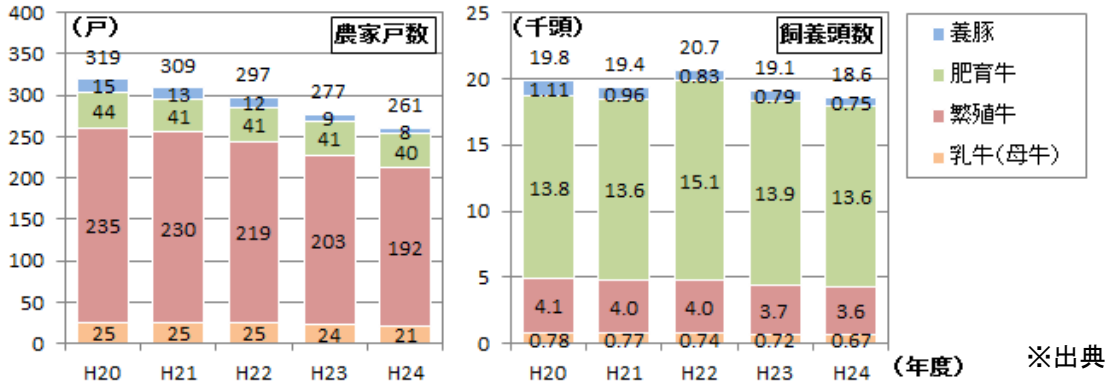
●論点を選んだ理由、背景

・ 畜産業は、JAからつ総販売額の約 40%を占め、唐津地域の農業にとって重要な産業であるが、これからも産業の柱であり続けられるのか。

●唐津市のいま

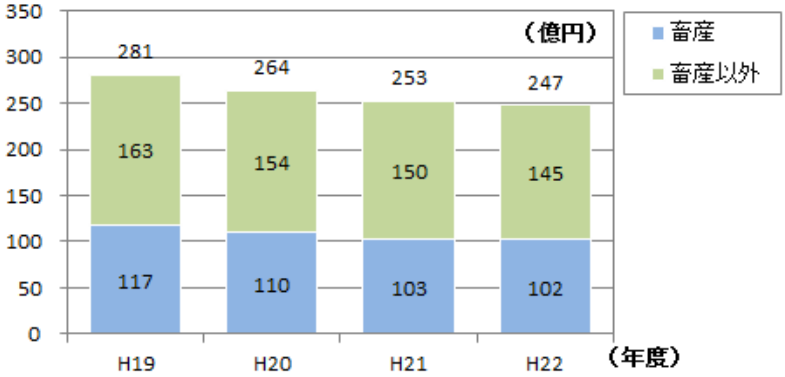
・ 畜産農家戸数、飼養頭数は減少しており、特に農家戸数の減少が大きい。 **（データ1）**
・ JAからつの畜産取扱高は減少している。 **（データ2）**
・ 畜産農家の平均年齢は 50 歳代後半である。 **（データ3）**

（データ1） 畜種別農家戸数・飼養頭数の推移



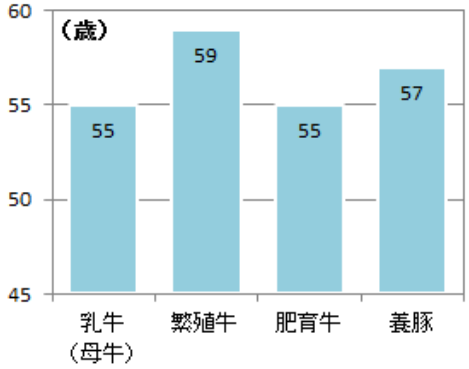
※出典：佐賀県農産課

（データ2） JAからつ販売事業の推移



※出典：JAからつディスクロージャーリポート

（データ3） 市内畜産農家の平均年齢



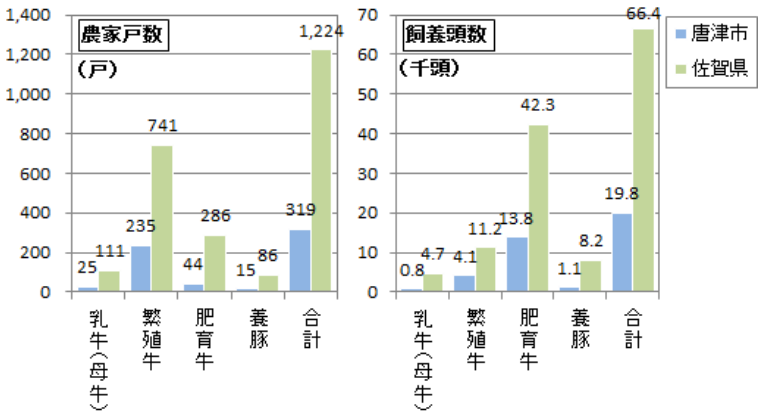
※平成 24 年 11 月 22 日現在、出典：JAからつ畜産課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

・ 佐賀県の畜産業における唐津市の割合は、農家戸数で4分の1、飼育頭数で3割となっており、大部分を占めている。 **（データ4）**

（データ4） 畜種別農家戸数・飼養頭数（県との比較）

※平成 20 年度、出典：佐賀県農産課



カテゴリー④　魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点23：水産業に魅力を感じていますか？

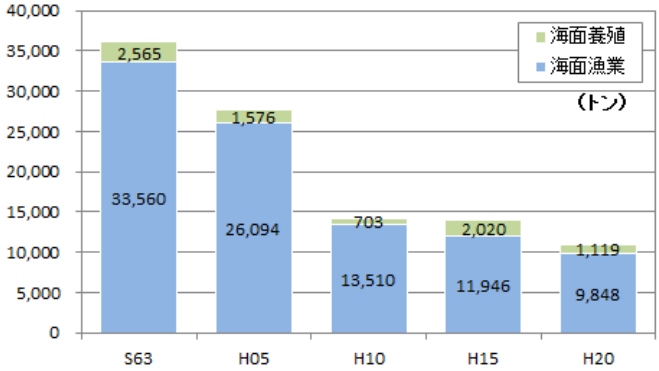
●論点を選んだ理由、背景

- 唐津市は玄界灘の沿岸部に位置し水産業で栄えてきたが、全国的にも魚離れが進むなか、消費者が望んでいる魅力的な水産資源が提供されているか。
- 活きイカを代表とする新鮮な魚介類や水産加工品など魅力ある水産物は多いが、漁獲量や就労に結びついているか。

●唐津市のいま

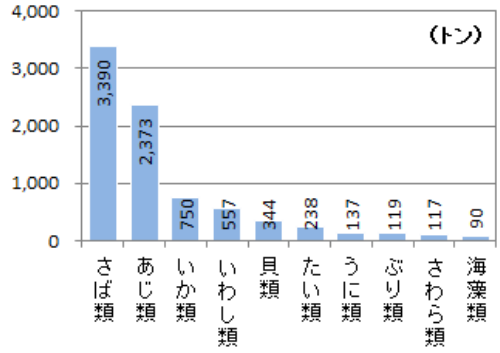
- 唐津に水揚げされる魚介類の量は全体的に減ってきている。（データ1）
- 海面養殖における貝類及び水産動物は増加傾向にある。（データ2）
- 海面漁業の漁獲量を魚種別に比較した場合、さば類、あじ類の占める割合が高い。（データ3）
- 漁業就労者の数が減少・高齢化してきている。（データ4）（データ5）
- 水産業活性化支援センターが設置され、「新水産資源創出研究プロジェクト」として水産資源の完全養殖化に向けた取り組み等が始まった。

（データ1）　唐津市の漁獲量の推移



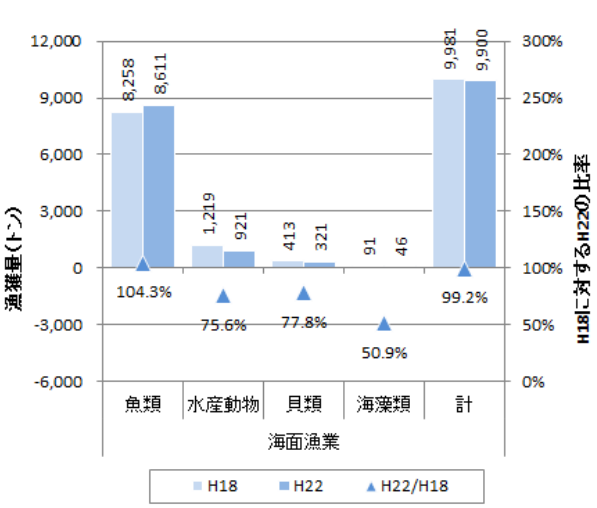
※出典：佐賀農林水産統計年報

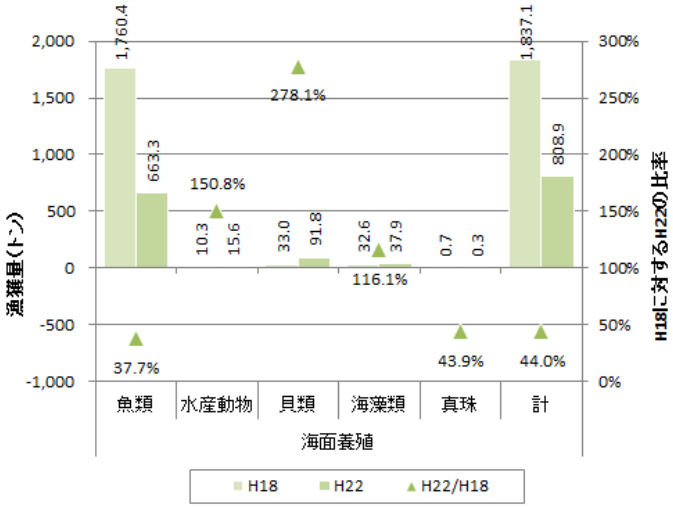
（データ3）　唐津市の海面漁業の魚種別漁獲量（上位 10 種）



※平成 21 年、出典：農林水産省HP統計情報

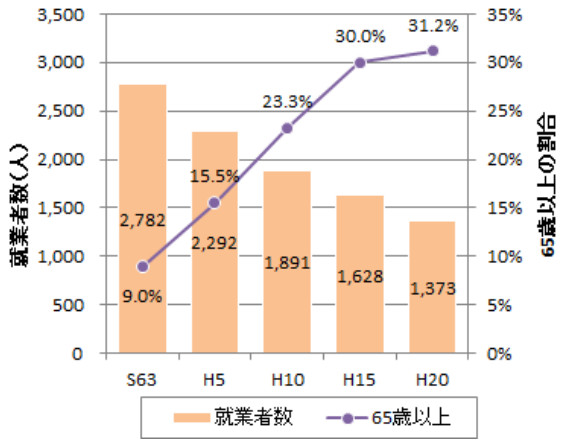
（データ2）　唐津市管内の漁協に所属する漁業者による漁獲量の推移





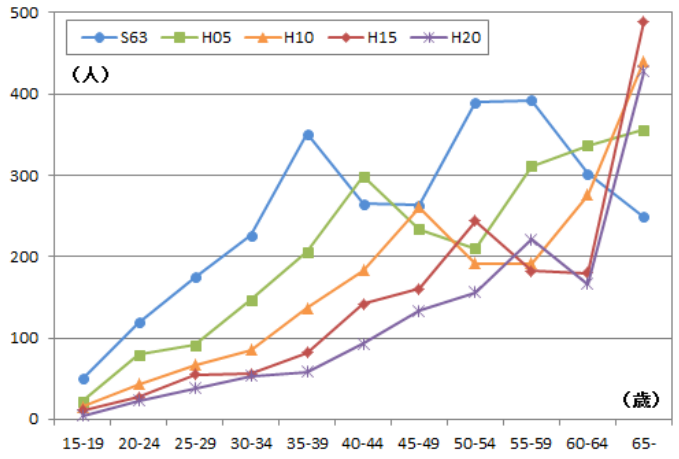
※出典：唐津市水産統計。該当品目を抜粋。属人による集計。海面養殖は、種苗養殖を除く。

（データ4） 唐津市の漁業就業者数の推移



※出典：漁業センサス

（データ5） 唐津市の漁業就業者の年齢構成

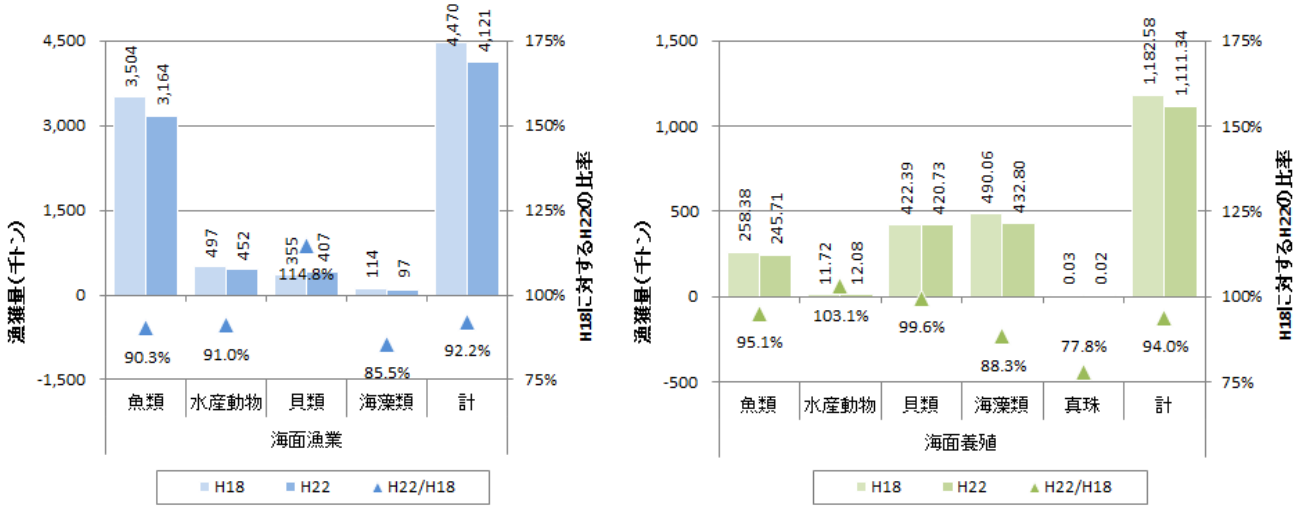


※出典：漁業センサス

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

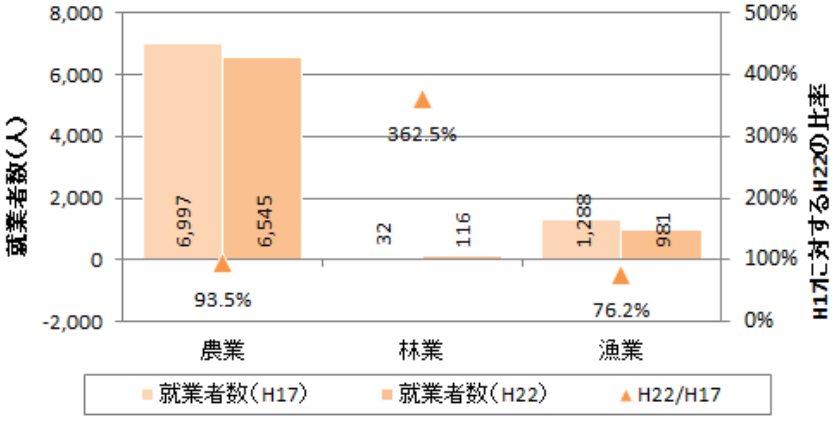
- 全国における漁獲量も全体的に減少している。（データ6）
- 唐津市における漁業就業者数の平成 17 年度から平成 22 年度にかけての減少率は、農業就業者数の減少率より大きい。（データ7）

（データ6） 全国の漁獲量の推移



※出典：漁業・養殖業生産統計年報（内水面は除く）。海面養殖は、種苗養殖を除く。

（データ7） 第一次産業就業者数の推移



※出典：国勢調査（産業等基本統計）

カテゴリー④ 魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点24： 地域に貢献する工業が育っていますか？

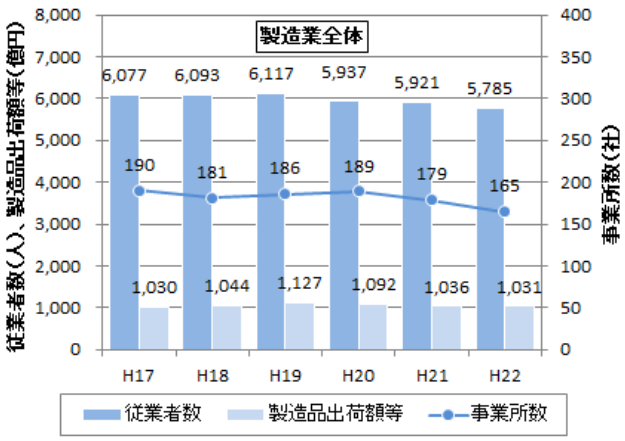
●論点を選んだ理由、背景

- 唐津市の製造業は、農水産物の加工が中心であり、大島・妙見地区には食品加工工場が集積している。その他は、機械金属、繊維関連があるくらいで、産業の集積には至っていない。
- 税収に寄与し、大量雇用を生み出すような企業の誘致・育成がうまくいっていないのではないか。

●唐津市のいま

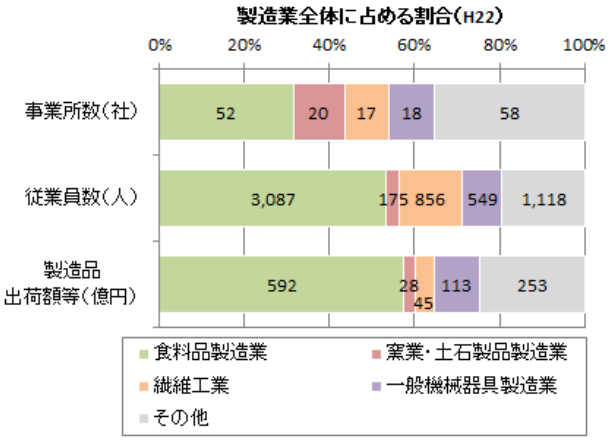
- 産業別就業者数をみると、第三次産業の割合が高く、第一次・第二次産業は減少傾向にある。
  【基礎データ編 p.76】
- 市内総生産額は第一次・第二次産業は減少しており、第三次産業はほぼ横ばい傾向にある。
  【基礎データ編 p.72】
- 製造業は事業所数、従業者数ともに減少しており、出荷額はほぼ横ばい傾向にある。 **（データ1）**
- 製造業のなかでも食料品製造業が主流であり、窯業、繊維工業等は減少傾向である。
  （データ2）（データ3）
- 大量雇用につながるような企業（製造業の工場等）が少ないため、市内で工業団地（新産業集積エリア唐津）を整備し製造業の誘致を進めているが、平成 25 年 1 月現在、誘致実績はない。 **（データ4）**
- 平成 17 年の合併後、19 件の企業誘致実績があり、991 人の雇用を生み出す計画である。 **（データ5）**

（データ1） 唐津市の製造業事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



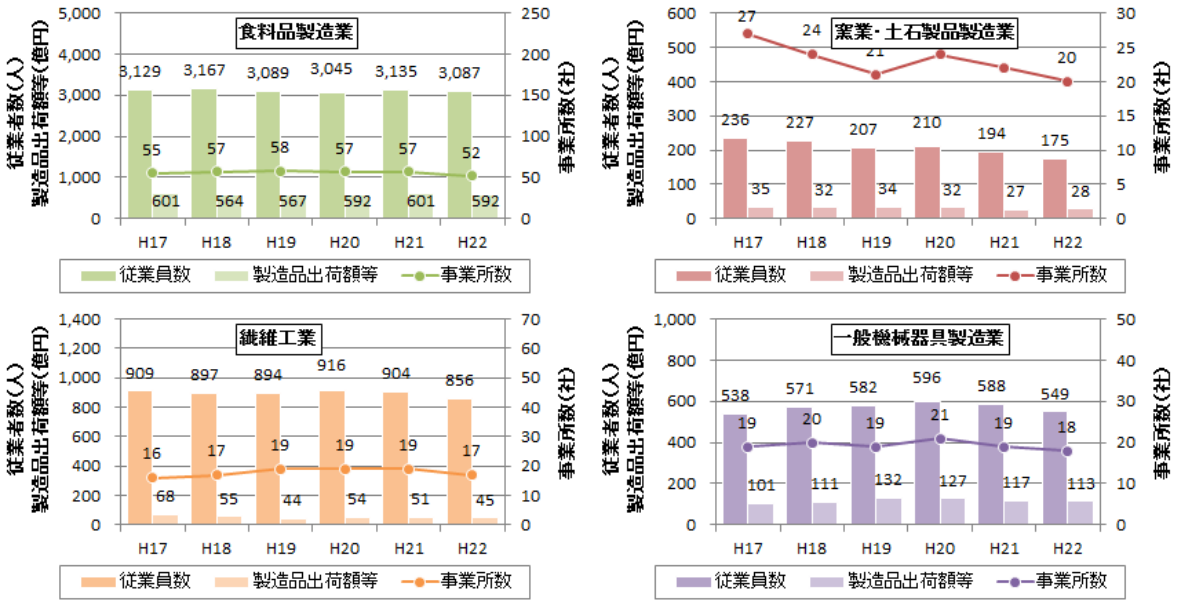
※出典：工業統計調査

（データ2） 唐津市の製造業事業所数、従業者数、製造品出荷額等（産業分類別内訳）



※出典：工業統計調査

（データ3） 唐津市の主要二次産業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



※出典：工業統計調査

（データ4） 新産業集積エリア唐津

位置	唐津市厳木町箸木 （唐津市の中心部から南東 17km）
想定業種	自動車関連産業、食品関連産業、新エネルギー関連産業、医薬品関連産業等
整備目的	・雇用創出効果や経済波及効果が高く、地域の中核的存在となるような企業を誘致することにより、地域の活性化を図るため、その受け皿となりうるような大規模区画の工業団地を整備する。
分譲中区画及び分譲予定区画	・第1期（分譲中）：工業用地面積 11.0ha、うち有効面積 8.1ha、分譲価格 41,000 円／坪 ・第2期（計画中）：工業用地面積 18.1ha、うち有効面積 14.1ha、分譲価格未定 ※第 1 期、第 2 期とも原則一括分譲予定。

（データ5） 唐津市への企業進出状況（進出協定ベース）

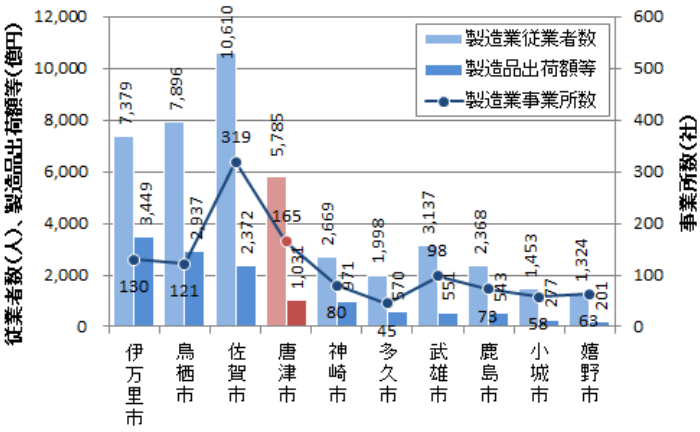
年度	No.	企業名	主要製品名等	新規地元雇用（人）
17	1	セロリー（株）	女性用ユニフォーム等の製造	60
18	2	（株）アベノ金属	精密機械部品、精密ボルト製造業	20
	3	ミナノ精工（株）	ゴム金型、治工具政策、IC製造装置部品精密加工、一般機械部品精密加工	9
	4	（株）ブルーム	化粧品代行輸入、分析検査業務	13
	5	（有）あかみず	不動産賃貸業	7
	6	松浦通運（株）	化粧品に対する非破壊検査業務、保管・出荷・配送手配	30
	7	（株）HMT	超精密プラスチックコネクター用金型製造	17
19	8	フリービット（株）	ネットワークオペレーションセンターの運営	97
	9	千寿製薬（株）	医療用・一般用医薬品及びその付随業務	30
	10	フリービット（株）	コールセンター及びその付随業務	240
20	11	（株）HMT（移転増設）	超精密プラスチックコネクター用金型製造	18
22	12	（有）あいふる	婦人服の縫製	4
	13	天生水産（株）	冷凍食品製造	35
	14	（株）トレミー	化粧品・医薬部外品製造	64
23	15	（有）ティムテック	接合部材の製造および販売	15
	16	（株）ミラコラーレ	ミネラルウォーター製造販売・研究開発	12
24	17	九州パッケージ工業㈱	型物発泡スチロール製造	10
	18	日本水産㈱	養殖マグロ用配合飼料製造	10
	19	㈱ＨＲＫ	自社製品配送用物流センター及びコールセンター運営、健康食品等製造	300
合計（最終計画ベース）				991

※出典：企業誘致課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 県内の他市と就業者数を比較してみると、都市化が進んでいる佐賀市や鳥栖市は第三次産業の割合が高く、伊万里市は中核的企業が多く存在していることから、第二次産業の割合が非常に高い。**【基礎データ編 p.76】**
- さらに、伊万里市と比較すると、事業所数では唐津市が上回っているものの、従業員数、製造品出荷額では伊万里市が大きく上回っている。**（データ6）**

（データ6） 県内 10 市の製造業事業所数、従業者数、製造品出荷額等



※平成 22 年、出典：工業統計調査

カテゴリー④ 魅力ある資源を活かした産業になっているか考えてみよう！

論点25： 地域に貢献する商業が育っていますか？

●論点を選んだ理由、背景

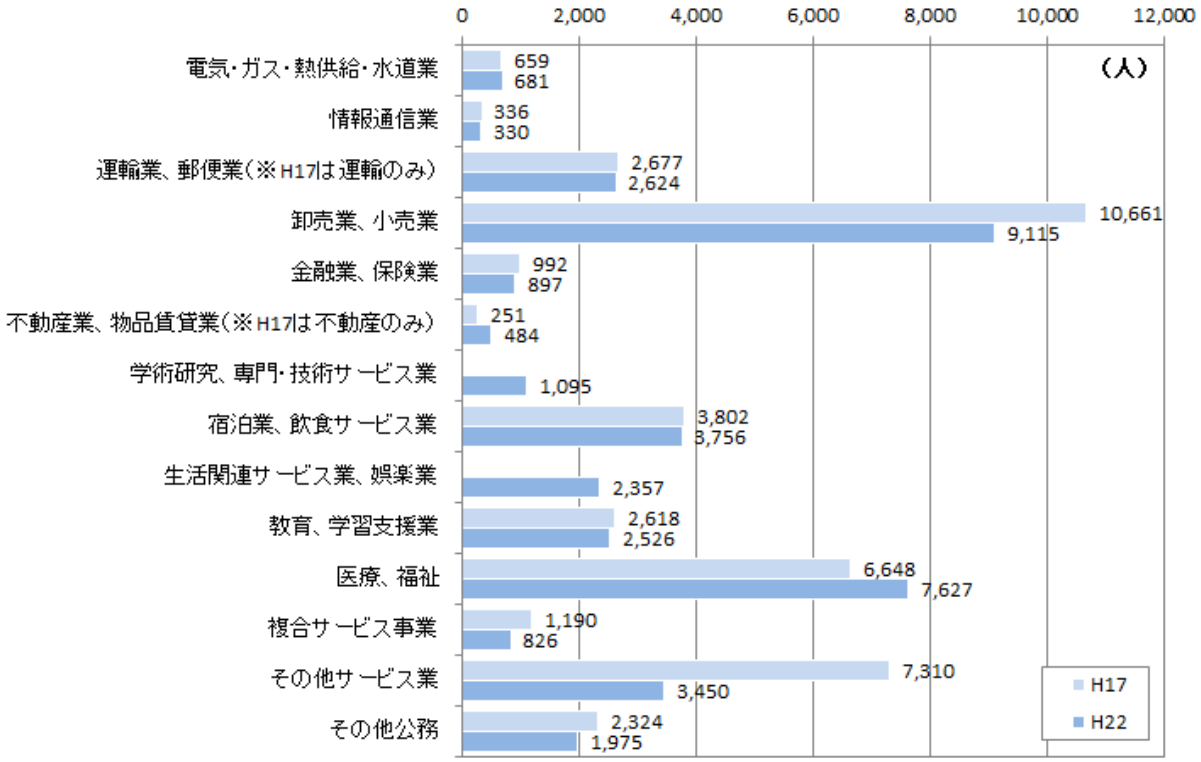
- 唐津市の商店数、従業者数、商品販売額は、卸売業、小売業ともに減少の傾向にあり、飲食店、宿泊業も減少している。
- 産業別の第三次産業の就業者数も減少に転じており、果たして地域の活性化は進んでいるのだろうか。

（上）人通りが少ない商店街（呉服町アーケード）

●唐津市のいま

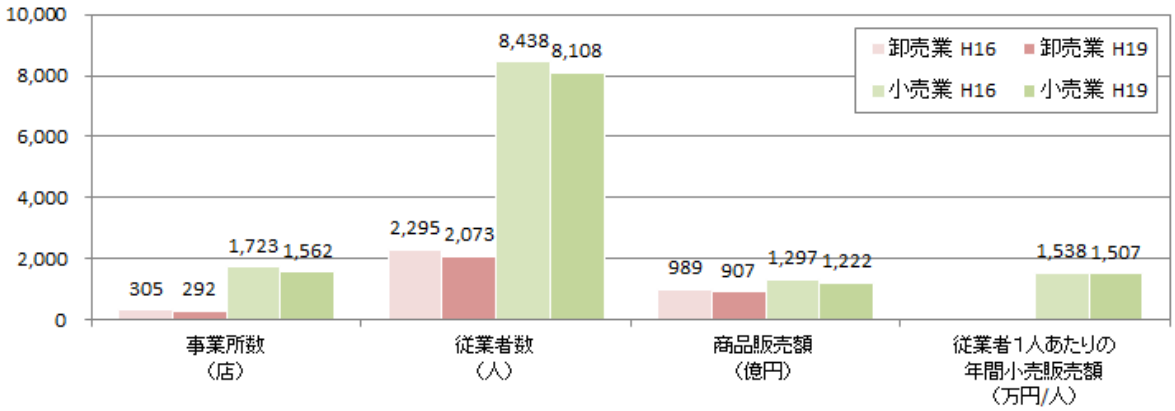
- 国勢調査における産業別就業者数をみると、第三次産業就業者数は、平成 17 年までは増加の傾向にあったが、平成 22 年調査では減少に転じている。**【基礎データ編 p.76】**
- 第三次産業就業者のうち、「卸売業、小売業」は減少し、「医療、福祉」分野は増加している。**（データ1）**
- 唐津市の商店数、従業者数、商品販売額は、卸売業、小売業ともに減少している。また、従業者１人あたりの年間小売販売額も減少している。**（データ2）**
- 小売業を業種別にみると、商店数、従業者数ともに飲食料品小売業の減少が目立っている。**（データ3）**
- 飲食店、宿泊業ともに、事業所数、従業者数が減少傾向にある。**（データ4）**

（データ1） 第三次産業就業者数の推移



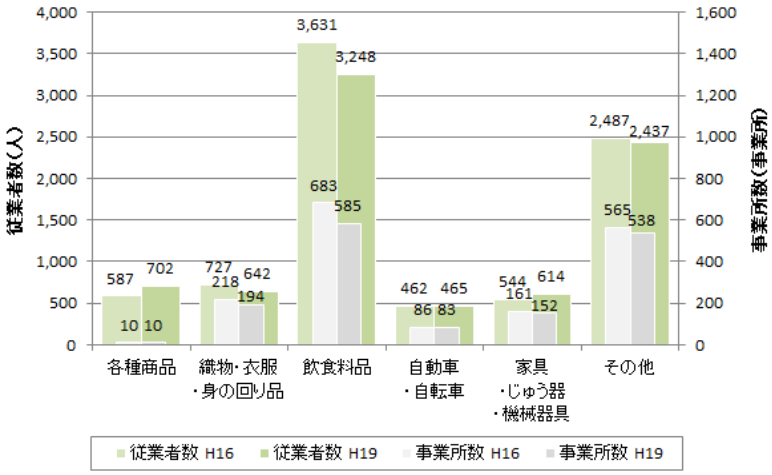
※出典：国勢調査

（データ2） 商店数等の推移



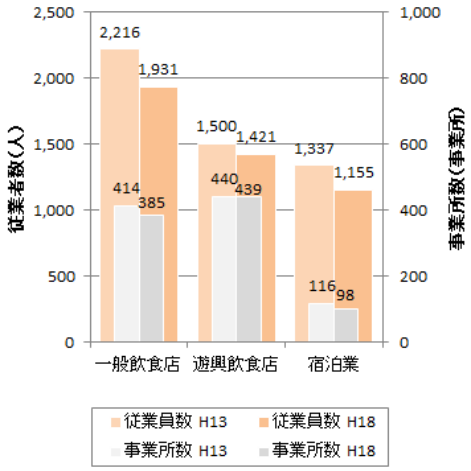
※各年 6 月 1 日現在、出典：商業統計調査

（データ3） 小売業の事業所数、従業者数の推移



※出典：商業統計調査

（データ4） 飲食店、宿泊業の事業所数、従業者数の推移



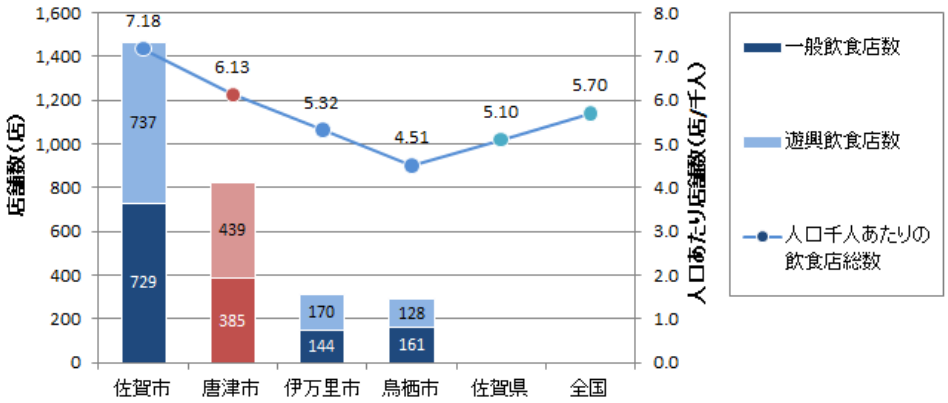
※出典：事業所統計調査

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 人口千人あたりの飲食店総数をみると、唐津市は、全国、佐賀県と比べて多い。（データ5）
- 佐賀市、鳥栖市、伊万里市と比較すると、唐津市は第一次産業の構成割合が高い。

【基礎データ編 p.77】

（データ5） 飲食店数（県内他市、県、国との比較）



※平成 18 年、出典：事業所統計調査

カテゴリー⑤　魅力ある観光地となっているか考えてみよう！

論点26：観光客が来たいと思うまちになっていますか？

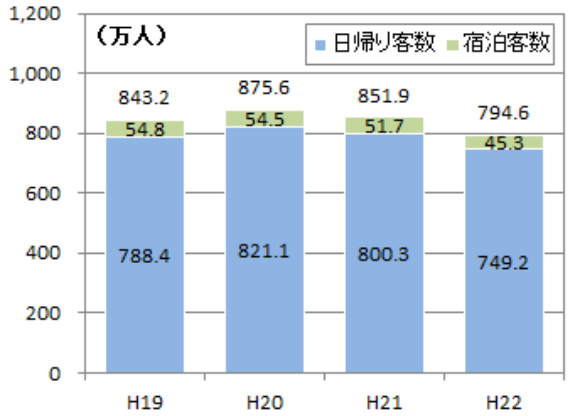
●論点を選んだ理由、背景

- 現在、唐津の観光はどのような傾向にあるのか。
- 訪れた観光客は唐津の観光をどのように感じているのか、また来たいと思っているのだろうか。

●唐津市のいま

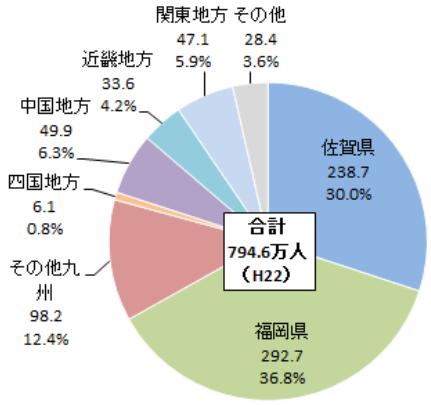
- 観光入り込み客数は平成 20 年をピークに平成 22 年は1割程度（約 81 万人）が減少している。**（データ1）**
- 観光客数の 94%は日帰り観光である。**（データ1）**
- 発地別では、福岡県からが最も多く、全体の約3割を超えている。一方で、九州以外からが2割を占める。**（データ2）**
- 観光で訪れる場合、交通手段の8割以上は自家用車利用である。**（データ3）**
- 観光客が唐津で消費する金額のうち最も多いのは飲食費であり、アンケートでは食に対する満足度も高い。**（データ4）（データ6）**
- アンケート調査より、唐津は認知度が高くて、約 46%が行ってみたいと感じているものの、情報発信が十分でなく居住意欲度も低い。また、唐津へ来た観光客へのアンケートでは、90%の方が「また訪れたい」と回答している。**（データ5）（データ6）**

（データ1）　唐津市の観光入り込み客数の推移



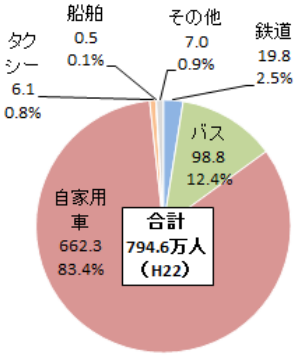
※出典：平成 22 年佐賀県観光客動態調査

（データ2）　唐津市への観光客の発地別内訳



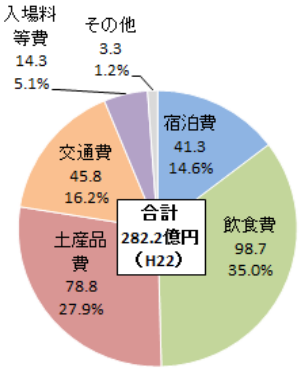
※出典：平成 22 年佐賀県観光客動態調査

（データ3）　唐津市への観光客の交通機関利用状況



※出典：平成 22 年佐賀県観光客動態調査

（データ4）　唐津市の観光消費額



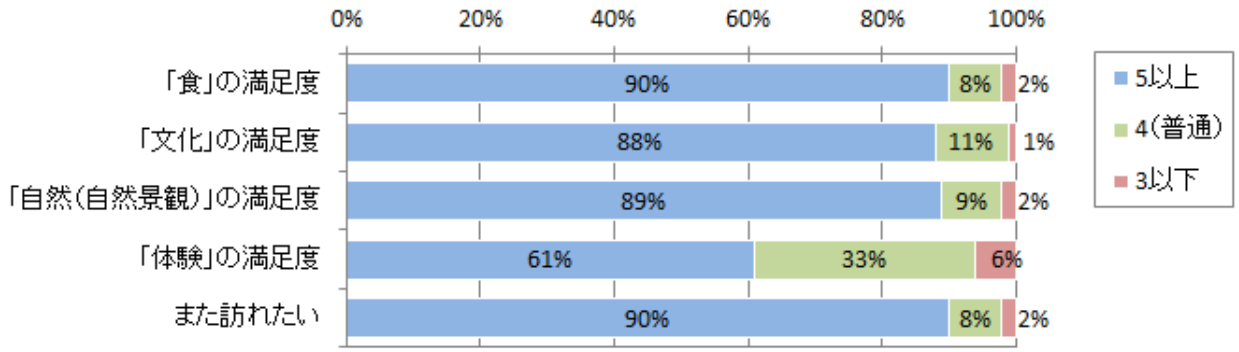
※出典：平成 22 年佐賀県観光客動態調査

（データ5） 唐津市のブランド力

調査項目	調査結果	県内順位	全国順位 （1,000 市町村中）
認知度	「名前だけは知っている」という回答も含めて、約8割の方が知っていると答えた。	3 位	233 位
魅力度	「魅力的である」との回答は 21%で、「どちらでもない」との回答は 45%であった。	2 位	202 位
情報接触度	「【唐津市】というフレーズを、メディア等で、一度又は何度も見聞きした」という回答は 33%であった。	4 位	269 位
居住意欲度	県内では 1 位だが、決して高い数値ではなく、「あまり住みたくない」という回答が 39%であった。	1 位	237 位
観光意欲度	「ぜひ行ってみたい」、「機会があれば行ってみたい」という回答は、合わせて 46%であった。	1 位	138 位

※出典：地域ブランド調査 2011（BRIブランド総合研究所）

（データ6） 唐津市への訪問の満足度（7段階評価）

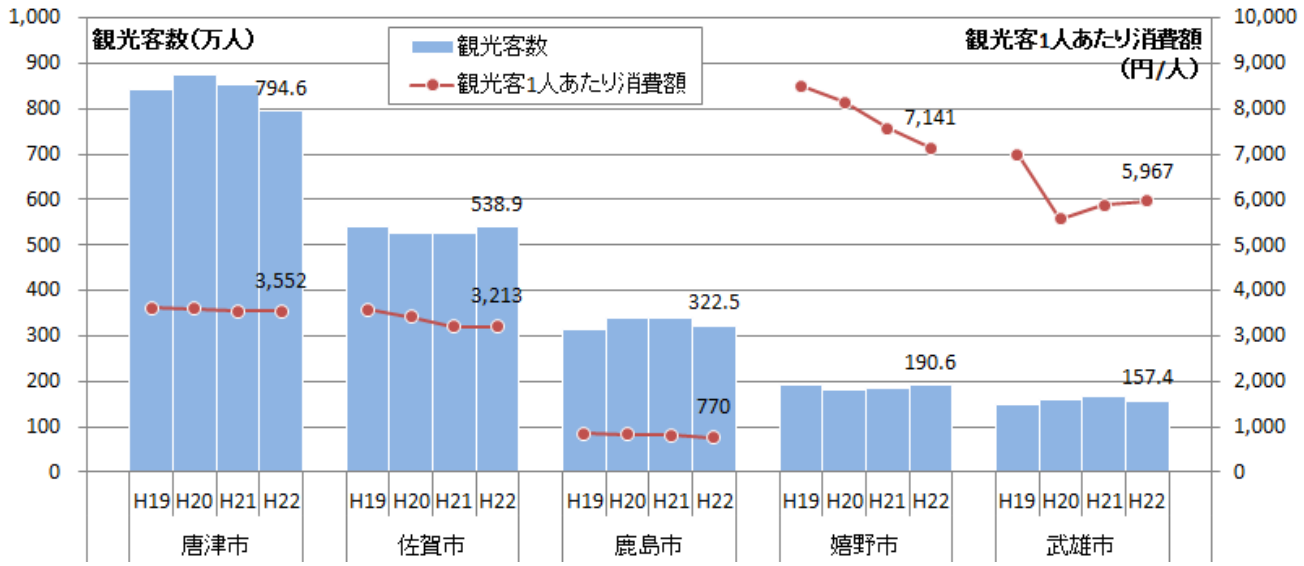


※出典：平成 24 年度観光客へのアンケート結果（唐津市）

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

・ 県内他市のなかで唐津市は最も多く観光客が訪れているが、1人あたりの観光消費額は、日帰り観光が多いためか県内で3番目となっている。 **（データ7）**

（データ7） 県内上位5市の観光客数、観光客1人あたりの消費額



※出典：平成 19 年～平成 22 年佐賀県観光客動態調査

カテゴリー⑤　魅力ある観光地となっているか考えてみよう！

論点27：唐津の魅力は十分に活かされていますか？

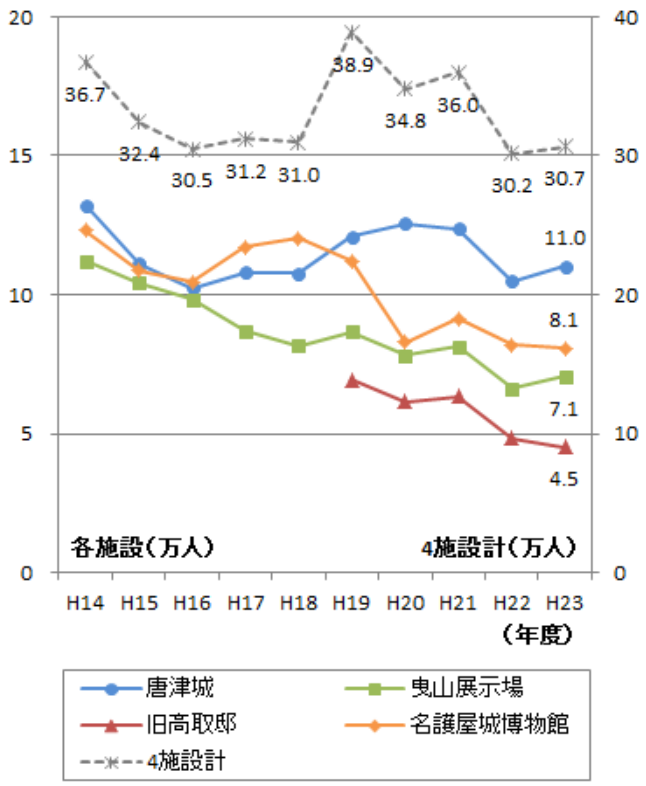
●論点を選んだ理由、背景

- まちの文化的個性は、普遍性を持ち発信力をもっているか。
- 文化施設の入館者はなぜ減少しているのか。来館者が増えれば、文化振興と地域活性化につながるのではないか。
- 重要な観光施設である唐津城を含む舞鶴海浜公園は有効に運用、活用されているか。

●唐津市のいま

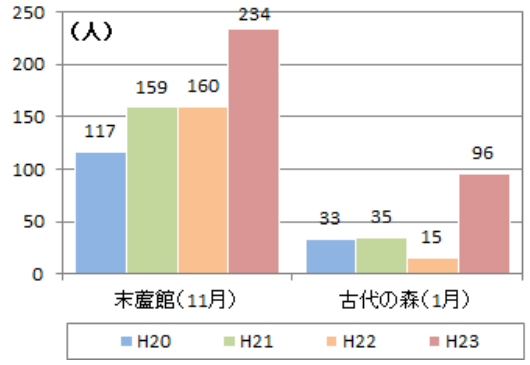
- 文化施設の入場者数は全体的に減少傾向だが、平成 21 年度は鷹島肥前大橋開通の影響により各施設に観光客が流れ全体的に増加している。また、唐津城だけは平成 20 年度の築城 400 年祭イベント展開の前後に増加している。（データ1）
- 唐津城は唐津のシンボル的存在であり、入場者が年間 10 万人を超す観光施設である。現在、石垣の修復等を講じているが、建物についても経年劣化が懸念される。
- 平成 23 年度企画展が行われた月の末盧館と古代の森会館の入館者数をみると増加している。（データ2）
- 文化施設の入館者は、市内客でなく市外観光客が主体となっている。（データ3）
- 文化的・歴史的な唐津の魅力を活用したまちづくりを進めるために、唐の津風景街道推進ビジョンを策定中である。（データ4）

（データ1）　文化施設入場者数の推移



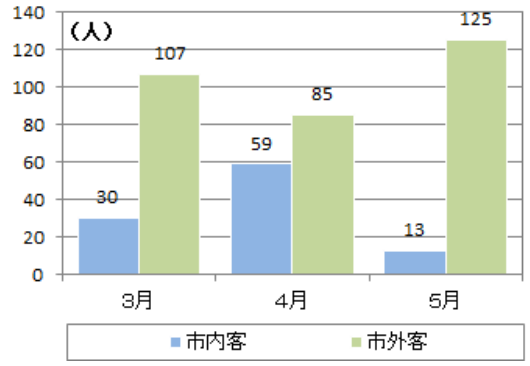
※出典：文化課

（データ2）　企画展による入場者数の増加



※出典：文化課

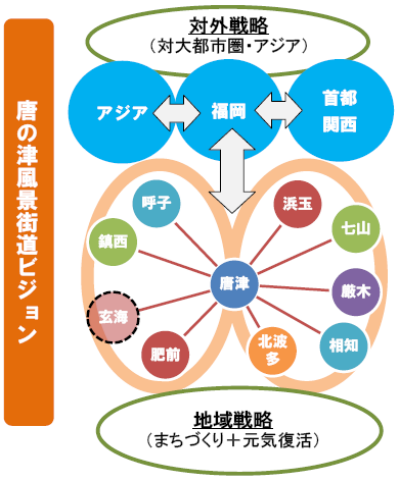
（データ3）　文化施設入場者数の市内外割合



※平成 23 年、アンケート回答者のみの数値であり全入場者数ではない、出典：各文化施設アンケート集計

（データ4） 唐の津風景街道推進ビジョン策定の主旨

本市の各地域の文化的・歴史的資源、景観・自然、人物や食などの「宝」を発掘、再評価し、魅力を向上させ、相互を繋ぎ、情報発信することで地域活性化を図る「唐の津風景街道」の取り組みを市民協働により推進するため、ビジョンの策定及び各地域の担い手の活動を支援するもの。



●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

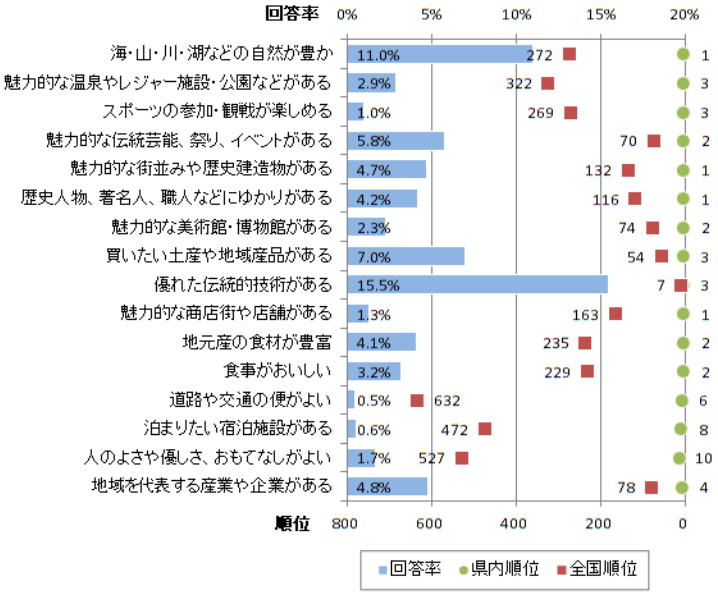
- 唐津にくる目的は「観光のため」という回答が多く、県内順位では1位であるが、全国的には 210 位とそれほど高い順位ではない。 **（データ5）**
- 唐津市の地域資源に対する評価で全国順位が高いのは、優れた伝統的技術（7位）、買いたい土産や地域産品（54 位）、魅力的な伝統芸能・祭り・イベント（70 位）、魅力的な美術館・博物館（74 位）、地域を代表する産業や企業（78 位）などとなっている。 **（データ6）**
- 唐津市は、学術・芸術のまち（32 位）、地場産業が盛んなまち（39 位）、歴史・文化のまち（63 位）といったイメージを持たれている。 **（データ7）**

（データ5） 観光目的の訪問率

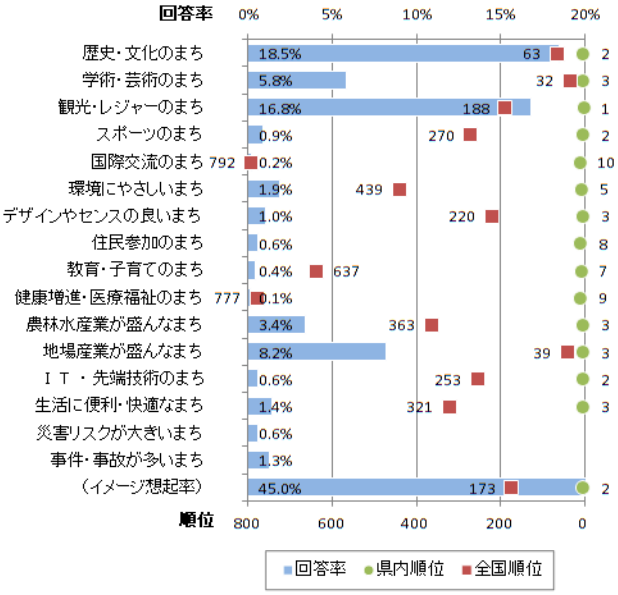
項目	唐津市			佐賀県	全国
	2009	2010	2011	2011	2011
訪問率	6.2%	8.6%	5.8%	2.9%	3.8%
県内順位	2位	1位	1位	―	―
全国順位	161 位	99 位	210 位	―	―

※出典：地域ブランド調査 2011（BRIブランド総合研究所）

（データ6） 唐津市の地域資源に対する評価



（データ7） 唐津市のイメージ



※出典：地域ブランド調査 2011（BRIブランド総合研究所）

カテゴリー⑥　健やかな心とからだが育まれているか考えてみよう！

論点28：未来を担う子供たちは育っていますか？

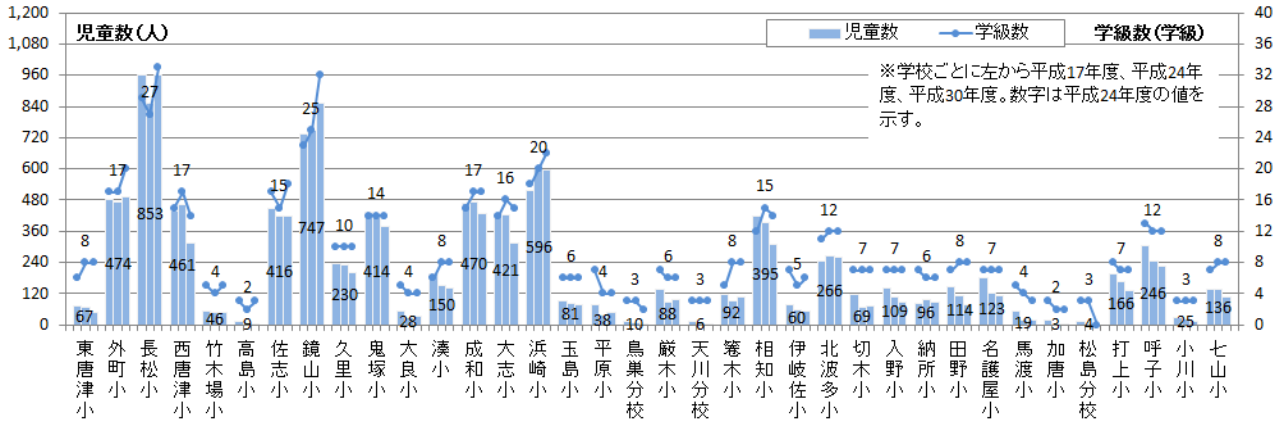
●論点を選んだ理由、背景

- 児童生徒数が減少しているが、学校はどうしていくべきなのか。
- 児童、生徒の学力は向上しているのか。
- いじめや不登校児童をなくすには、どうすればいいのか。

●唐津市のいま

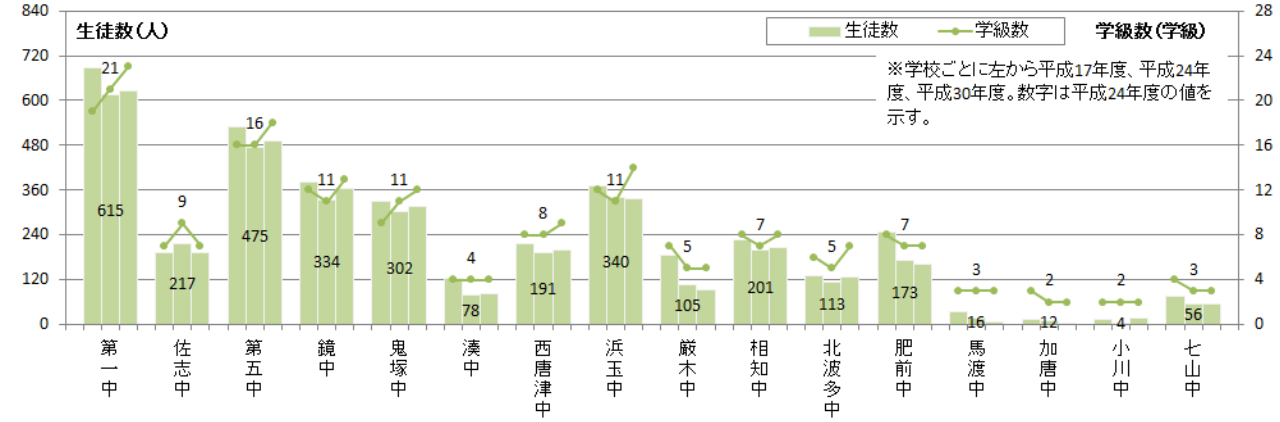
- 全国的に児童生徒は減少している。唐津市内でも同様に減少が著しいが、新興住宅地では核家族の転入のため児童生徒数が増加している。**【基礎データ編 p.37、p.39】（データ1）（データ2）**
- 唐津市教育委員会では、学力向上対策として、県学力テスト・全国学力テスト、CRT（学習の到達度テスト）、Q-U テスト（友人関係をみるテスト）、学力向上アクションプラン、校種間連携、いきいき学ぶからつっ子育成事業、コミュニティースクール、サマースクール、マイ辞書活用事業などの取り組みを行っている。
- 全国学力・学習状況調査の結果、唐津市では、小学6年生、中学3年生ともに学力が若干向上している。**（データ3）**
- いじめの認知件数、不登校者数は、いずれも減少傾向にある。**（データ4）（データ5）**

（データ1）　小学校の児童数の推移



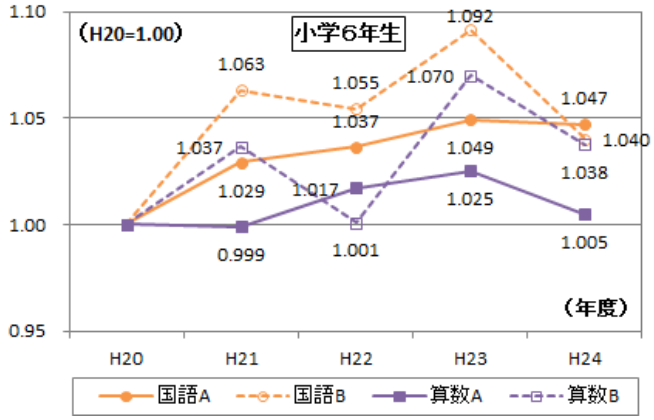
※平成 17 年度及び平成 24 年度は冊子「唐津市の教育」から、平成 30 年度は現在の幼児数から推定。

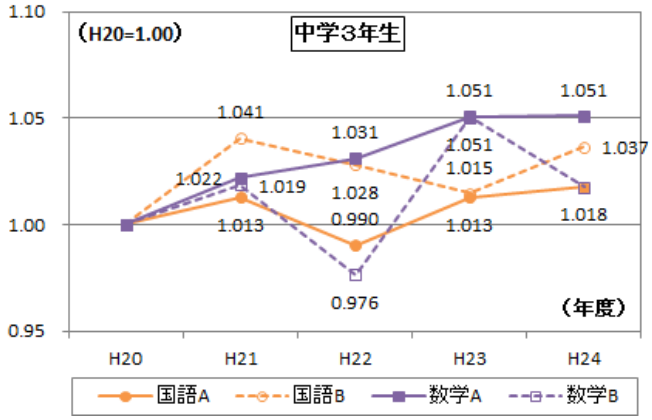
（データ2）　中学校の生徒数の推移



※平成 17 年度及び平成 24 年度は冊子「唐津市の教育」から、平成 30 年度は現在の幼児数から推定。

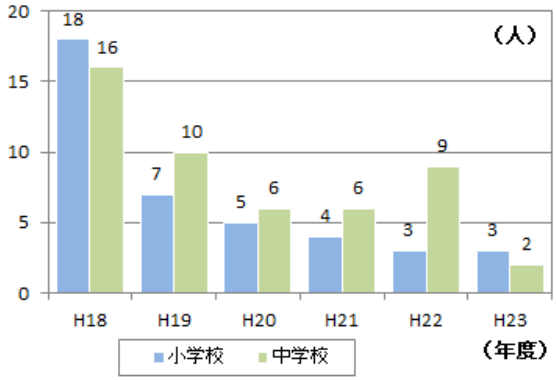
（データ3） 唐津市の全国学力・学習状況調査結果の推移





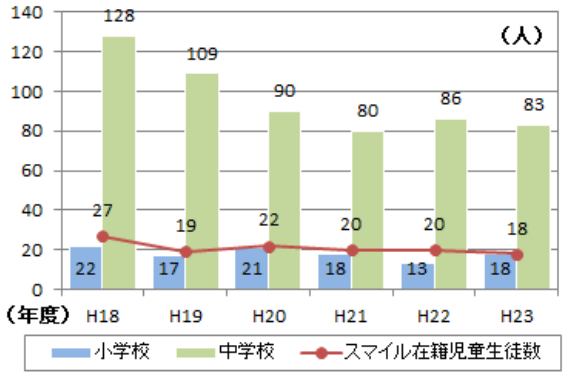
※平成 20 年度を 1.00 としたときの比較、出典：学校教育課

（データ4） いじめの認知件数の推移



※公立のみ、出典：学校教育課

（データ5） 不登校児童・生徒数の推移

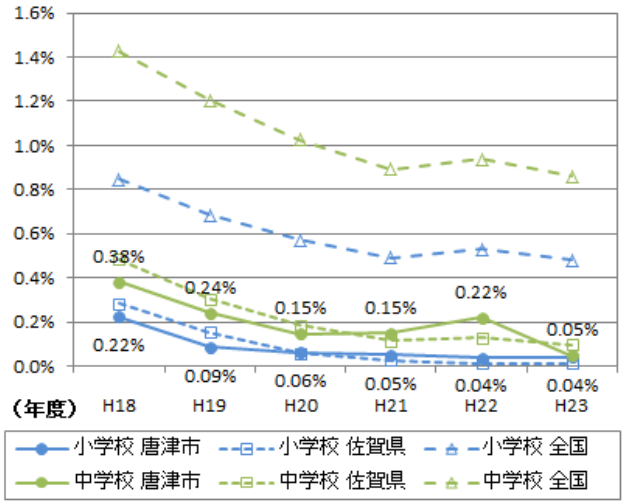


※出典：学校教育課。公立のみ。「スマイル（学校適応指導教室）」とは、不登校児童生徒等を対象にカウンセリング、教科指導、集団生活への適応指導を行う。

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

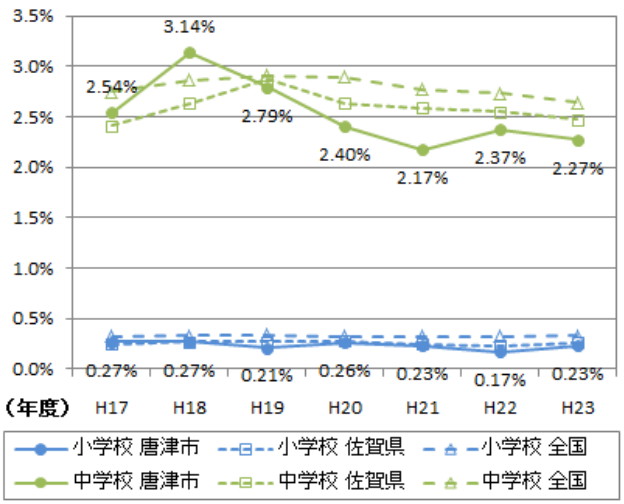
- いじめの認知率は、全国の平均と比較して、佐賀県、唐津市ともにかなり低い。 **（データ6）**
- 唐津市の不登校発生率は、全国、県と比較してやや低い結果となっている。 **（データ7）**

（データ6） いじめの認知率（県・国との比較）



※唐津市は公立のみ、佐賀県・全国は国公私立、出典：文部科学省調査結果

（データ7） 不登校発生率（県・国との比較）



※唐津市は公立のみ、佐賀県・全国は国公私立、出典：文部科学省調査結果

カテゴリー⑥　健やかな心とからだが育まれているか考えてみよう！

論点29：学びの場は確保されていますか？

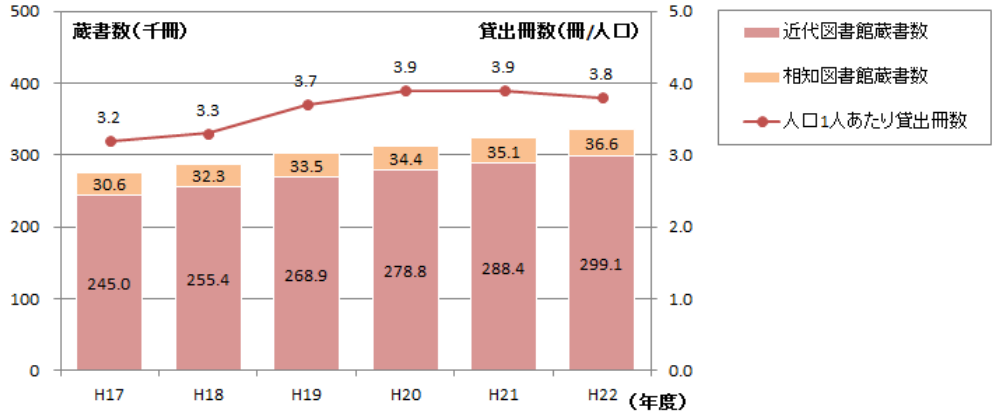
●論点を選んだ理由、背景

- 心豊かで充実した人生の実現のために、学びの場は確保されているか。
- “読書離れ”と言われ始めて久しいが、インターネット等の普及により環境が著しく変化するなか、図書館の利用状況はどうなっているか。

●唐津市のいま

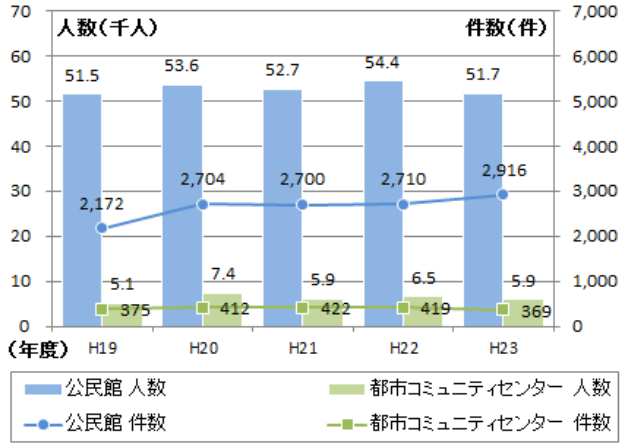
- 図書館の蔵書数は少しずつではあるが増加している。しかしながら、人口１人あたりの図書貸出冊数は、合併後、平成 20 年度までは増加傾向にあったが、その後は頭打ちの状態が続いている。**（データ1）**
- 公民館や都市コミュニティセンターが主催する講座の受講者数は、ほぼ横ばいである。**（データ2）**
- 公民館や都市コミュニティセンターを利用した自主的なサークル活動の参加者数も、ほぼ横ばいである。**（データ3）**
- 社会教育関係団体の数は減少している。**（データ4）**

（データ1）　図書館蔵書数及び図書貸出冊数の推移



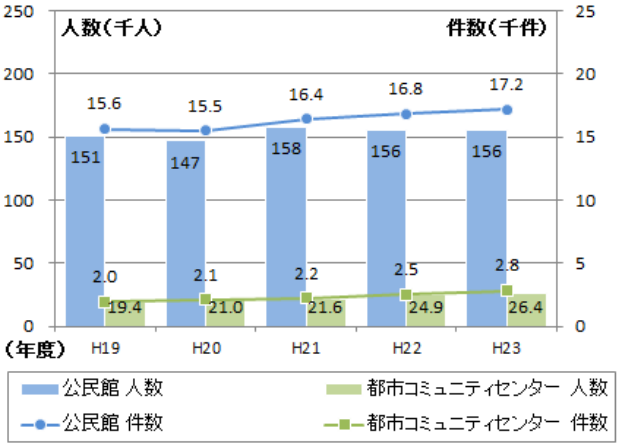
出典：唐津市の教育

（データ2）　施設主催講座受講者数の推移



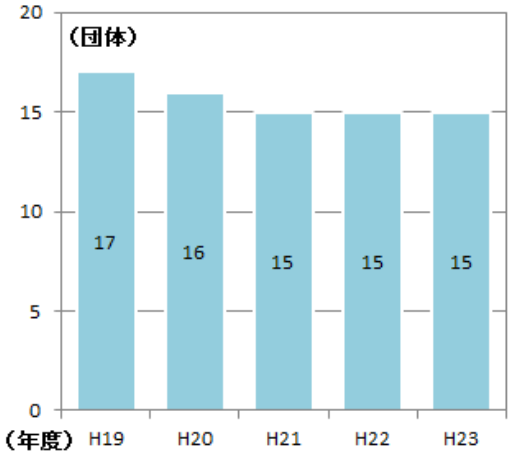
※出典：平成 24 年度唐津市の教育。公民館主催講座の区分・・・青少年教育、成人教育、高齢者教育、男女共同参画・男性・女性、家庭教育、体育・レクレーション、教養・趣味・文化、その他

（データ3）　自主サークル利用の推移



※出典：平成 24 年度唐津市の教育

（データ4） 社会教育関係団体数の推移



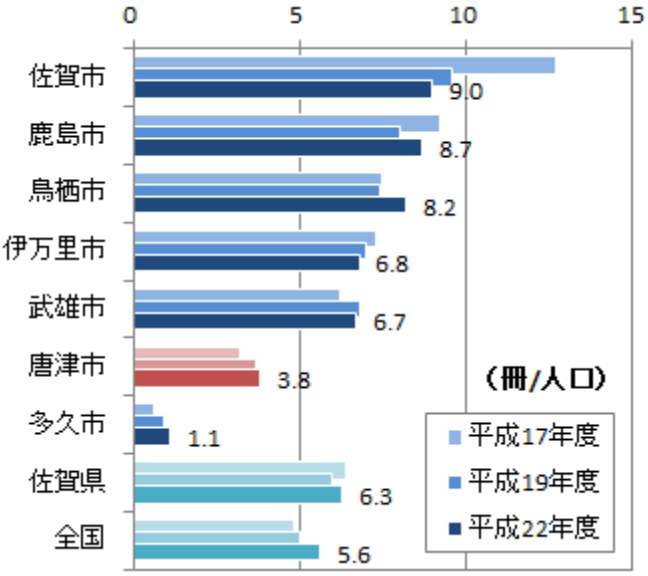
〈団体名〉 唐津市地域婦人連絡協議会、唐津地区PTA連合会、唐津市子どもクラブ連絡協議会、日本ボーイスカウト唐津第2団、日本ボーイスカウト唐津第3団、唐津市人権・同和教育推進協議会、唐津市青少年育成連絡協議会、浜玉町青年団、浜玉町子どもクラブ連絡協議会、日本ボーイスカウト相知第1団、北波多女性ネットワーク「未来」、鎮西町青年団、呼子町青年団、七山青年団、七山子どもクラブ指導者連絡会

※出典：唐津市の教育

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 人口1人あたり図書貸出冊数を平成 22 年度で比較すると、佐賀県平均の 6.3 冊、全国平均の 5.6 冊と比べて唐津市は 3.8 冊で、かなり低い水準となっている。 **（データ5）**
- 公民館数を全国と比較してみると、唐津市は人口あたりの公民館数が多い。 **（データ6）**

（データ5） 県内各市の図書貸出冊数の推移



※出典：佐賀県公共図書館調査（佐賀県立図書館）、日本の図書館 統計と名簿（（株）日本図書館協会）、全国市町村要覧（第一法規（株））

（データ6） 人口1万人あたりの公民館数（全国との比較）

	公民館数（館）	人口（人）	人口1万人あたり公民館数（館）
唐津市	25	131,116	1.91
全国	17,143	127,767,994	1.34

※平成 17 年 10 月 1 日現在、出典：人口は国勢調査、全国の公民館数は社会教育調査（文部科学省）

カテゴリー⑥　健やかな心とからだが育まれているか考えてみよう！

論点30：人権意識は高まっていますか？

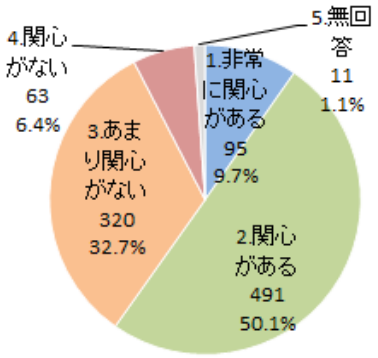
●論点を選んだ理由、背景

- いじめやDVなど、子ども、女性、障害者等の弱い立場にある者に対する差別がなくならない。
- 同和地区出身者、在日外国人、犯罪者等に対する偏見的な差別も表面に出ないが、潜在的に残っている。

●唐津市のいま

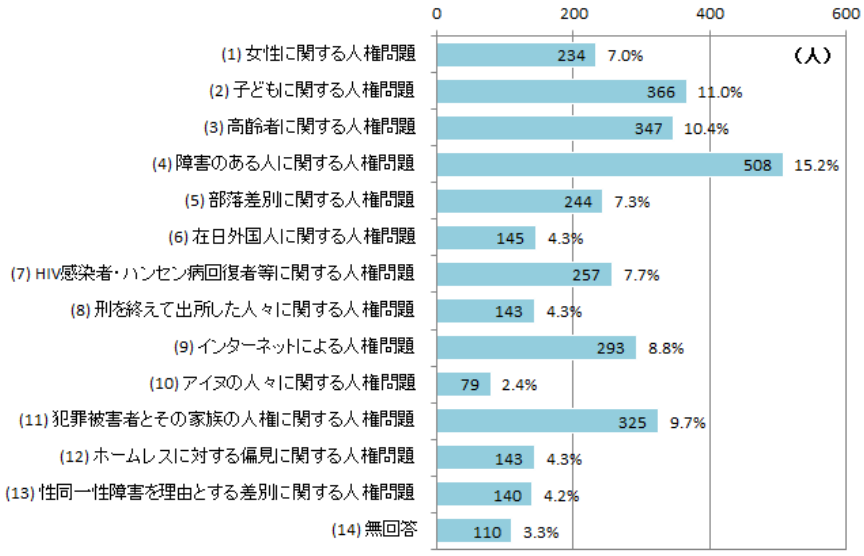
- 人権・同和問題に関するアンケートでは、人権問題に関心を持っていない人が約4割を占めている。**（データ1）**
- 関心が高い人権問題は、障害のある人に関する問題、子どもに関する問題、高齢者に関する問題の順となった。**（データ2）**
- 唐津人権擁護委員協議会における相談件数（玄海町含む）は、その年によって増減がある。**（データ3）**
- 唐津市立小中学校におけるいじめの発生は、全国平均を大きく下回るが、依然として発生している。**【論点28（データ6）】**
- 人権・同和問題に係る啓発研修はその年によって多少の増減はあるが、関係機関・団体と連携をとりながら実施されている。**（データ4）**

（データ1）　人権・同和問題に関する市民意識（関心度合い）



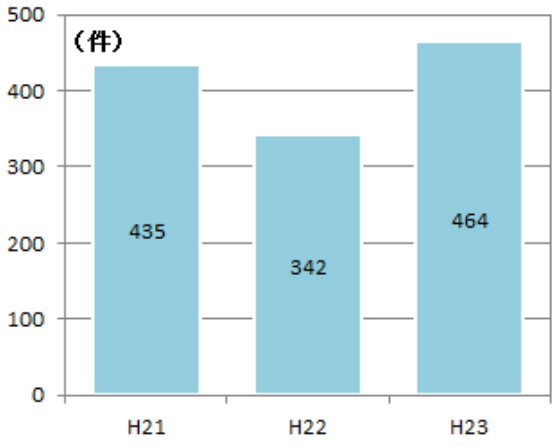
※設問「人権問題に関心をもっていますか」、出典：平成 19 年度唐津市人権・同和問題に関する市民意識調査

（データ2）　人権・同和問題に関する市民意識（重要な人権問題）



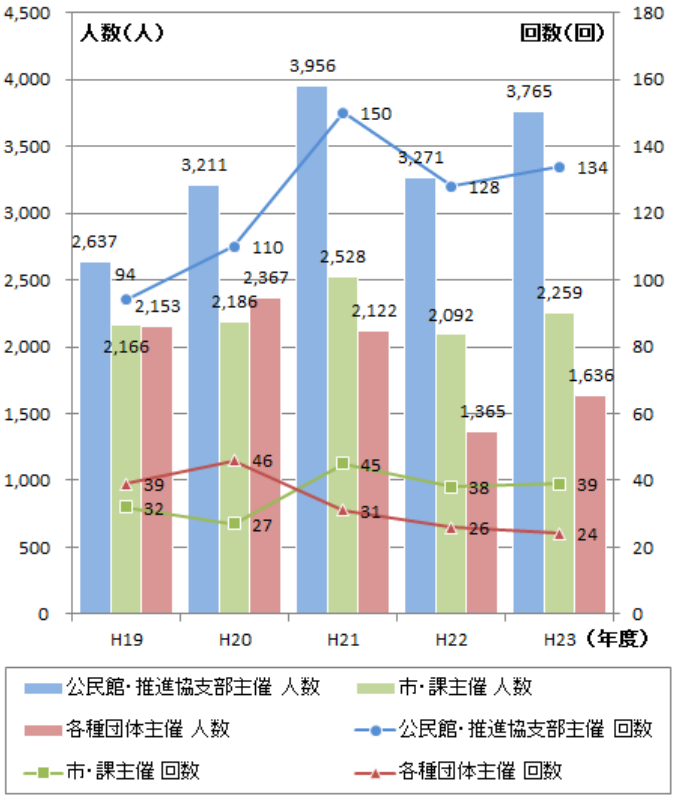
※設問「重要と思われる人権問題はどれですか（複数回答可）」、出典：平成 19 年度唐津市人権・同和問題に関する市民意識調査

（データ3） 唐津人権擁護委員協議会の相談件数の推移



※玄海町を含む、出典：唐津人権擁護委員協議会データ

（データ4） 唐津市人権・同和教育啓発研修の実施回数等の推移

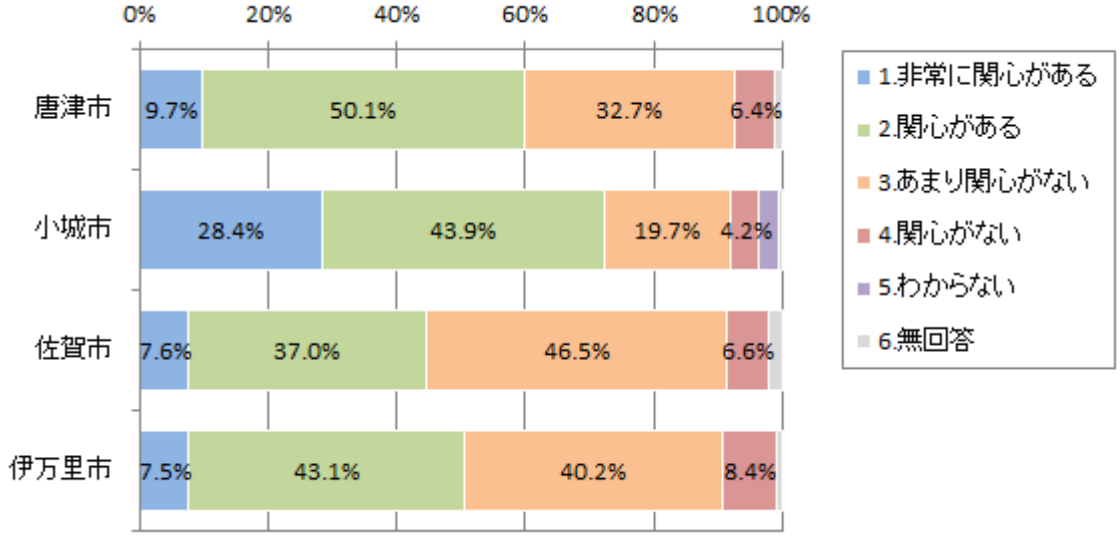


※出典：生涯学習課

●他のまちと比べてみると

・ 佐賀市、伊万里市と比べて、唐津市は人権問題への関心が高い調査結果となっている。（データ5）

（データ5） 県内各市の人権・同和問題に関する市民意識調査の状況



※佐賀県同和対策推進協議会の構成市（佐賀市、唐津市、鹿島市、伊万里市、多久市、鳥栖市、小城市）のうち、平成 22 年にアンケート調査を実施した市を調査した。

カテゴリー⑥　健やかな心とからだが育まれているか考えてみよう！

論点31：スポーツ環境は充実していますか？

●論点を選んだ理由、背景

- １市6町2村の市町村合併により、多くの体育施設をかかえるようになったが、施設の数はどれ程あるか。 有効に活用されているのか。 施設の維持にどれ程の費用がかかっているか。
- スポーツ施設の数、かけている費用に応じた成果は現れているのか。

●唐津市のいま

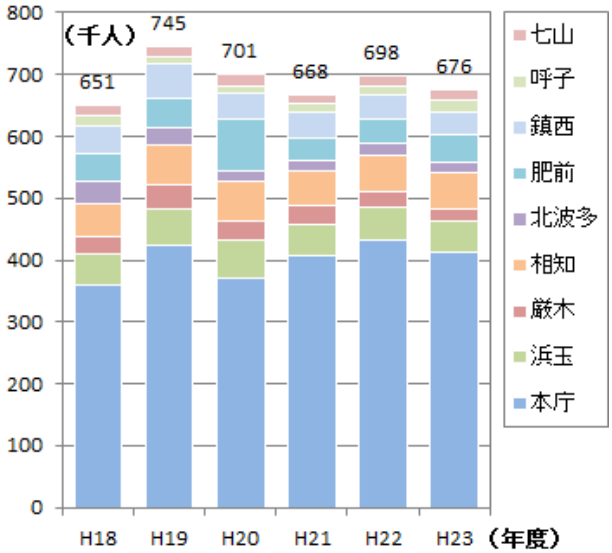
- 市教育委員会所管の体育施設数は 96 施設で、平成 23 年度利用者数は 676 千人である。（データ1）（データ2）
- 市民1人あたりの年間利用回数は 5.2 回である。（平成 23 年度末人口 130,087 人）（データ2）
- 市外大会出場者数（奨励金対象者数）はおおむね横ばいである。（データ3）
- 市主催の大会は5つの大会がある。参加者数の規模は数百人から数千人となっている。（データ4）

（データ1） 唐津市教育委員会が管理している体育施設

	本庁	浜玉	厳木	相知	北波多	肥前	鎮西	呼子	七山	計
野球場	5									5
陸上競技場	1									1
ラグビ・サッカー	1									1
運動広場・運動場	2	1	1	1		1	2	1	1	10
体育館	2	1		5	1	1	2	1		13
テニスコート	2			2		1	1	1	1	8
プール	2		1	3			2			8
武道場	2		1			1				4
弓道場・洋弓場	2			1			1			4
相撲場	3	1	1			2	1			8
ボートハウス	1									1
カヌー場					1					1
ゲートボール場			1							1
グラウンドゴルフ場				1						1
地区運動広場	17	1	7	1			2		2	30
計	40	4	12	14	2	6	11	3	4	96

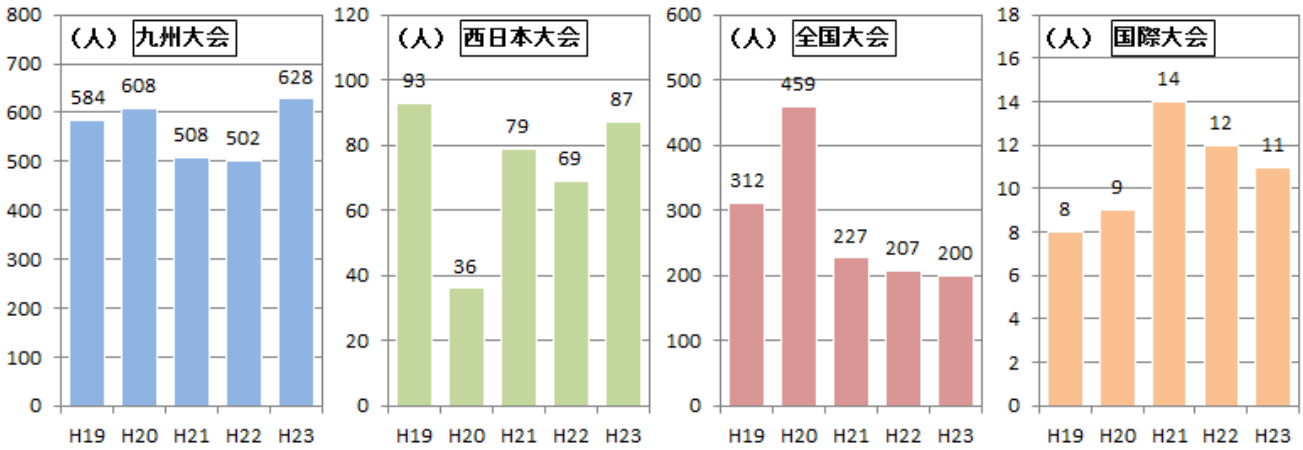
※平成 23 年度、出典：唐津市の教育

（データ2） 唐津市体育施設の利用者数の推移



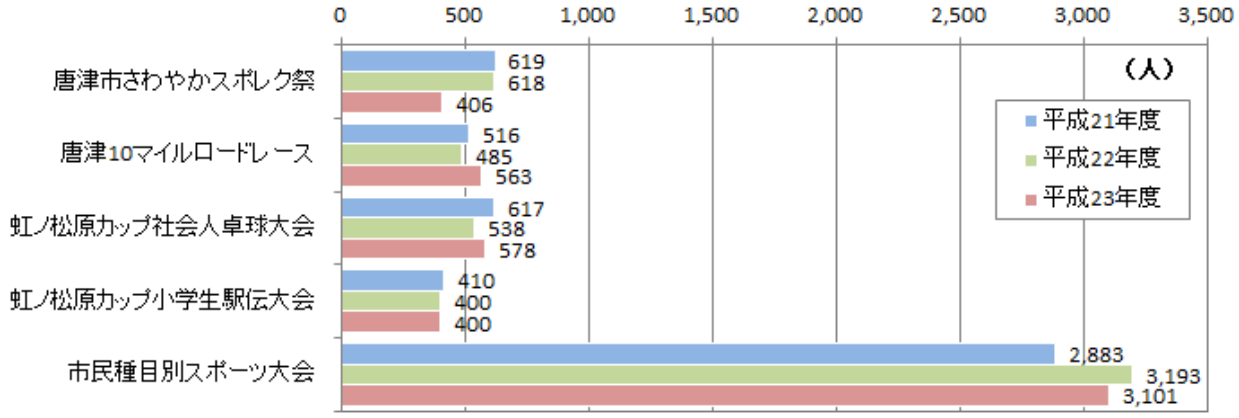
※出典：スポーツ振興課

（データ3） 市外大会出場者数（奨励金対象者数）の推移



※出典：スポーツ振興課

（データ4） 市主催の大会の参加者数の推移



※出典：スポーツ振興課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

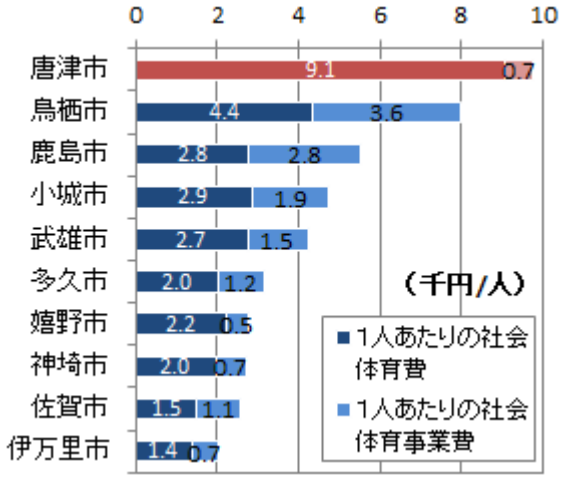
- 10 市の体育施設数を比較すると、明らかに唐津市の施設数は多い。（データ5）
- 唐津市の社会体育費は 1,190 百万円、社会体育事業費は 86 百万円である。これを住民1人あたりに換算すると、社会体育費は 9,091 円/人・年、社会体育事業費は 654 円/人・年となる。（データ6）
- 小学生の運動能力は全国並、中学生は全国以下だが、5 年前より上昇傾向にある。（データ7）

（データ5） 県内 10 市の体育施設数

市名	体育館	運動場	コート	武道場	プール	専用施設	合計
佐賀市	15	22	9	6	2	0	54
唐津市	15	46	10	13	8	4	96
鳥栖市	4	16	2	4	1	1	28
多久市	2	4	1	1	0	1	9
伊万里市	5	11	10	3	1	2	32
武雄市	6	13	5	5	2	0	31
鹿島市	6	15	1	3	1	2	28
小城市	8	4	4	2	1	0	19
嬉野市	4	12	4	1	1	1	23
神埼市	6	5	3	3	1	1	19

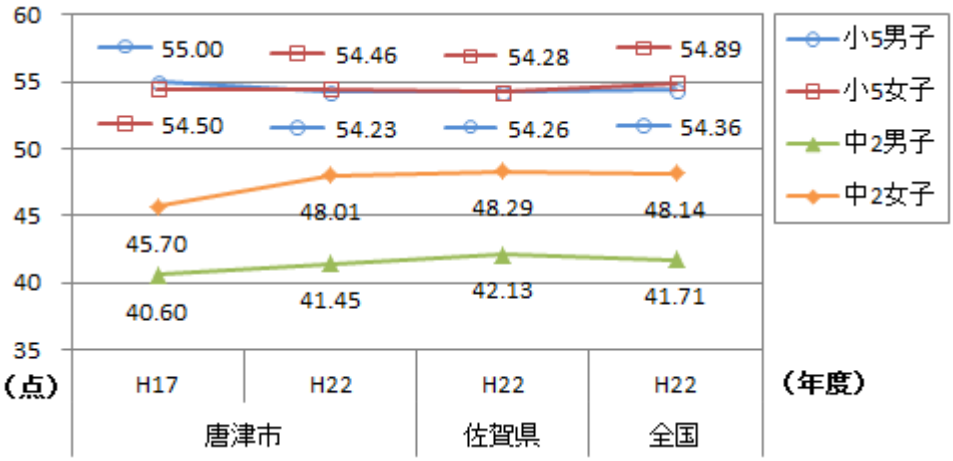
※出典：社会体育の実態（平成 23 年、佐賀県教育委員会）

（データ6） 県内 10 市の1人あたりの社会体育費



※出典：社会体育の実態（平成 23 年、佐賀県教育委員会）

（データ7） 小中学生の運動能力テスト結果（県・国との比較）



※出典：学校教育課

カテゴリー⑥ 健やかな心とからだが育まれているか考えてみよう！

論点32： 文化や芸術を育むまちになっていますか？

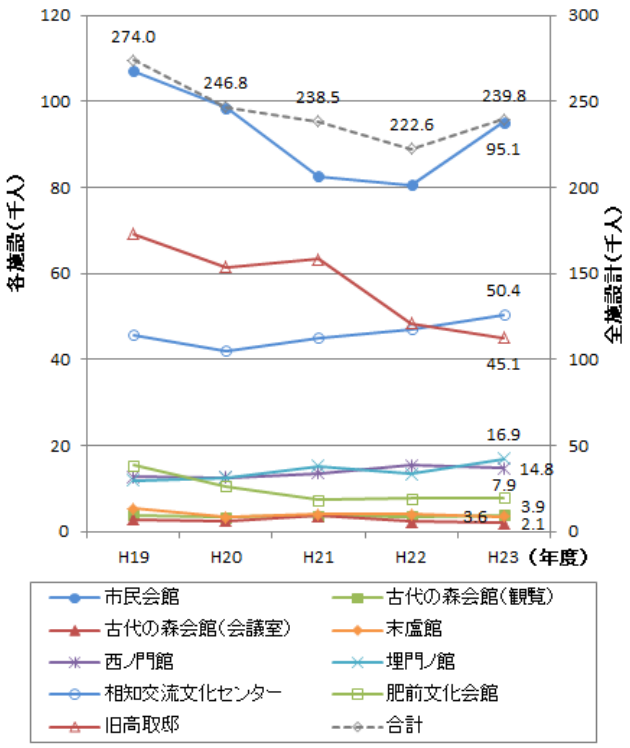
●論点を選んだ理由、背景

・ 市内には多くの文化的・歴史的な資源、施設があるが、文化・芸術に市民はどのようにふれあっているだろうか。

●唐津市のいま

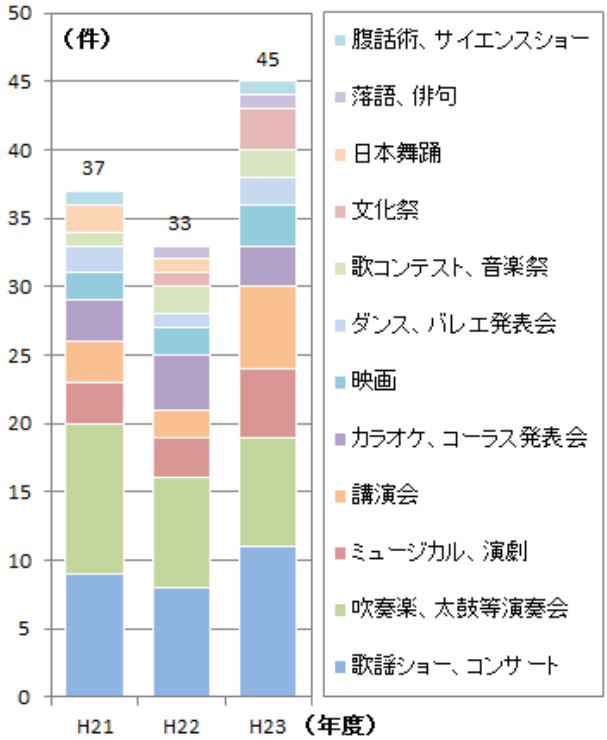
・ 市民会館など市内の文化施設の利用者数が、平成 23 年度に少し持ち直しをみせたものの、ここ数年減少傾向にある。 **（データ1）**
・ 市民会館大ホールの過去3年間の利用状況をみてみると、「歌謡ショー、コンサート」や「吹奏楽、太鼓等演奏会」の開催が上位を占めており、次いで「ミュージカル、演劇」、「講演会」、「カラオケ、コーラス発表会」が多く開催されている。 **（データ2）**
・ 近代図書館美術ホール展覧会の入場者数は、その年によって開催内容に違いはあるが、増加傾向にある。 **（データ3）**
・ 唐津市では、音楽を通して唐津を元気にしたいという願いを込めて、未来のアーティストを目指す若者を応援しようと、人気歌手の絢香やYUIを育てた本市出身の音楽プロデューサー西尾芳彦氏の全面協力を得て、毎年、唐津ジュニア音楽祭が開催されている。 **（データ4）**
・ 一方で、唐津市には、国の重要無形民俗文化財に指定されている唐津くんちの曳山行事を始めとして、各地に連綿と受け継がれてきた「くんち」がたくさんある。 **（データ5）**

（データ1） 文化施設利用者数の推移



※出典：唐津市の教育

（データ2） 唐津市民会館大ホール利用件数の推移



※出典：唐津市民会館大ホール予定表（(財)唐津市文化事業団ホームページ）

（データ3） 近代図書館美術ホール展覧会入場者数の推移

平成21年度			平成22年度			平成23年度		
主な展覧会名	開催日数	入場者数	主な展覧会名	開催日数	入場者数	主な展覧会名	開催日数	入場者数
唐津城築城400年記念福富太郎コレクション　女性の美－近代美人画名作展	27日間	2,716	図書館百周年記念事業・公立美術館巡回展支援事業 海を想う－海に魅せられた画家たち－	31日間	2,176	風の画家中島潔が描くまなざし	25日間	6,102
築山節生の世界展	39日間	1,765	図書館百周年記念事業・生誕100年記念　秋玲二の世界展	20日間	1,680	唐津市所蔵品展　没後10年森通展	31日間	2,528
第23回工芸美術知新会展唐津会場	11日間	1,738	大島小太郎とその時代展	22日間	1,529	第25回工芸美術知新会展唐津会場	12日間	1,241
他9回開催	79日間	6,778	他12回開催	97日間	10,551	他9回開催	70日間	7,056
合　　計	計12回 156日	12,997	合　　計	計15回 170日	15,936	合　　計	計12回 138日	16,927
	1日平均	84人		1日平均	94人		1日平均	123人

※出典：唐津市の教育

（データ4） 唐津ジュニア音楽祭出場者数等の推移

区　　分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
開　催　日	H20.2.16	H21.2.21	H22.2.21	H23.2.6	H24.2.5
会　　場	文化体育館	文化体育館	文化体育館	市民会館	市民会館
応募者数	計64組	計67組	計63組	計85組	計78組
ヴォーカルオーディション部門	53人	45人	41人	62人	47人
ミュージックコンテスト部門	11組	22組	22組	23組	31組
最終審査出場者	計28組	計29組	計31組	計31組	計32組
ヴォーカルオーディション部門	18人	19人	20人	20人	21人
ミュージックコンテスト部門	10組	10組	11組	11組	11組
入場者数	約500人	約500人	約500人	約500人	約500人

※唐津市文化事業団から聴取

（データ5） 唐津市内の「くんち」の一例

※「くんち」は、五穀豊穣を祈願した秋祭りで、旧暦の9月9日がなまった「九日」、収穫した作物を神に供える「供日」など起源には諸説ある。

行 事 名	地 区 等	概　　要	H24開催日
納所くんち	肥前町納所地区	肥前町納所地区に構える住吉神社の秋祭り。 約700年前に始まったとされ、毎年、滑稽な男女の顔を描いたござを若者がかぶり、囃子に合わせて踊る「ガメ踊り」が奉納される。 山笠巡行は人手や費用がかかるため、30年程前から数年に1回のペースで実施。	9月29日、30日
中島山笠祭	厳木町中島地区	厳木町中島の若宮神社の秋祭り。山笠祭が正式名称だが、「くんち」と呼ぶお年寄りもいる。 大正末期頃から始まり、1953年（昭和28年）の大水害で途絶えたが、1998年（平成10年）に住民らが地域おこしを目指して再興した。 平成24年、復活から15回目の節目を迎え、高さ7.5m、重さ3.5mの山笠を新調。	10月6日、7日
鏡くんち	鏡地区	鏡地区鏡神社の秋祭り。1771年に始まったとされ、しばらく間が空いたが、1989年（平成元年）から本格的に再開した。 高さ約6mの山笠2台が囃子に合わせて地区内を巡行する。	10月20日、21日
相知くんち	相知町	相知町熊野神社の秋祭り。江戸期の大名行列を模した羽熊行列は、かつて唐津くんちの巡行の一部だったが、1873年から熊野神社の行事に定着。見どころは羽熊行列。 男たちが掛け声を上げ、高さ約3.5m、重さ約20kgの毛槍を投げ渡す姿は圧巻。	10月19日～21日
唐津くんち	唐津地区	唐津神社の秋季例大祭。「エンヤ、エンヤ」の掛け声で曳山（やま）が通りを駆け抜ける勇壮な祭り。文政2年（1819年）、刀町の木彫家石崎嘉兵衛が、お伊勢参りの帰りに京都で見た祇園山笠にヒントを得て、仲間と「赤獅子」を作り奉納したのが曳山行事の始まり。 唐津くんちの曳山行事は、昭和55年に国指定重要無形民俗文化財となっている。	11月2日～4日

※出典：新聞記事等

カテゴリー⑦　市民協働のまちづくりについて考えてみよう！

論点33：市民の力が発揮できるまちですか？

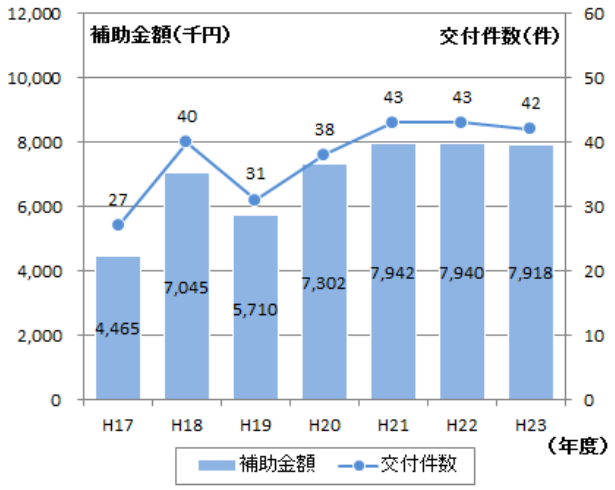
●論点を選んだ理由、背景

- まちづくりにおいて市民の力がどのように発揮され活かされているのか。
- 市民協働によりどのような活動が実施されているのか。

●唐津市のいま

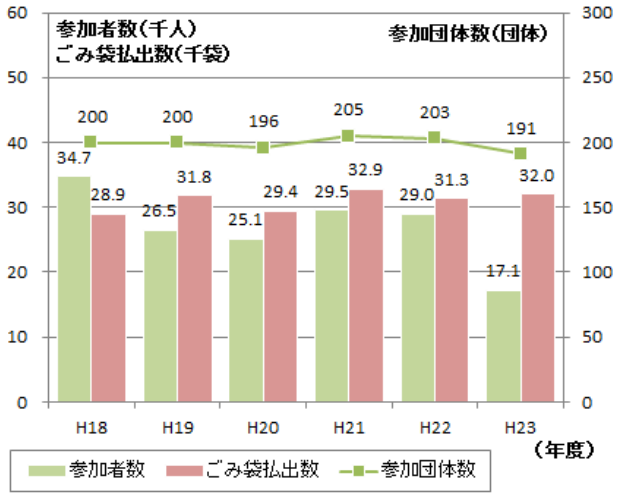
- がんばる地域応援補助金は、市民自らが元気ある暮らしやすいまちづくりの実現に向け実施する事業に対する補助である。この補助金により、多くの市民グループによって、市内各地でイベントや祭りが開催されている。（データ1）
- 市民の環境美化への関心は高く、清掃活動など地域におけるボランティア活動が定着してきている。（データ2）
- 唐津市のNPO法人は、保健・医療・福祉の増進や子どもの健全育成を目的とした団体が多い。また、市民参加型の環境保全活動も積極的に実施されている。（データ3）（データ4）

（データ1）　がんばる地域応援補助金（ソフト事業分）の交付件数等の推移



※平成 21 年度以前はわがまちの魅力づくり推進事業補助金、出典：男女共同参画・地域づくり課

（データ2）　環境美化ボランティア活動の参加者数等の推移



※平成 23 年度の落ち込みは、ラブアース・ふるさと美化活動の雨天中止によるもの、出典：生活環境対策課

（データ3）　唐津市のNPO法人の活動例

団体名	活動内容	活動実績
唐津環境防災推進機構　KANNE	虹の松原再生保全活動　市民による松葉かき、除草等の再生・保全活動のほかレクレーションや自然体験活動を実施	平成 23 年度は市民約 5,000 人が保全活動に参加
子育て支援情報センター	唐ワンくん徹底活用事業　市外・市内イベントへの参加、メディアへの出演、観光施設等でのおもてなし活動などを実施（事業開始平成 21 年度）	イベント等への出動回数（平成 23 年度）　427 回 ユーチューブ動画再生回数（平成 23 年度末現在）67,327 回 宣伝効果（平成 22 年度　テレビ出演）　15,705 千円 （※テレビ出演時間を TVCM 費用に換算した値）

※出典：企画政策課

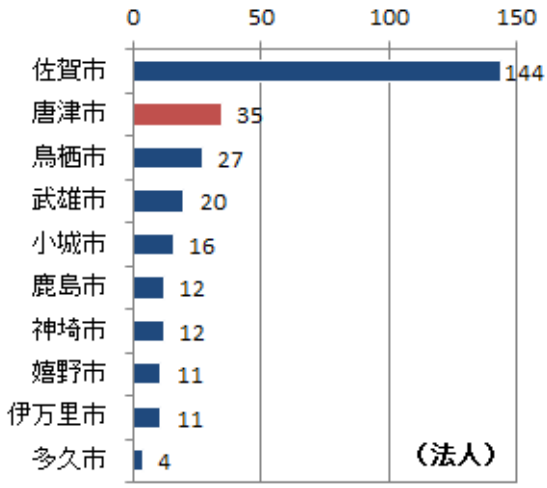
（データ4） 唐津市のNPO法人

	活動内容 / 団体名	1 保健、医療又は福祉の増進	2 社会教育の推進	3 まちづくりの推進	4 観光の振興	5 農山漁村又は中山間地域の振興	6 学術、文化、芸術又はスポーツの振興	7 環境の保全	8 災害救援	9 地域安全	10 人権の擁護又は平和の推進	11 国際協力	12 男女共同参画社会の形成の促進	13 子どもの健全育成	14 情報化社会の発展	15 科学技術の振興	16 経済活動の活性化	17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充の支援	18 消費者の保護	19 左記に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	20 左記に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動
	合計	19	11	15	1	1	10	9	4	3	0	3	1	18	1	1	2	3	1	6	0
1	唐津東松浦テレコム福祉協会	●							●	●											
2	レインボー七つの島連絡会議	●	●	●			●	●	●	●				●						●	
3	むかし話しで町おこそう会		●	●			●														
4	日本の伝統文化を守る会	●	●	●			●					●		●							
5	自然エネルギー実践ネットワーク			●				●								●					
6	幸の輪	●																			
7	NBA	●																			
8	武道塾	●	●				●							●							
9	ケアサポートまんねん	●												●							
10	あんど in おうち	●												●							
11	唐津市子育て支援情報センター	●		●										●							
12	アザメの会		●	●			●	●				●		●							
13	文化フォーラム・サライ		●	●			●					●	●	●	●						
14	NetworkStationまつろ			●													●			●	
15	福の会	●												●							
16	フレンドハウス	●	●															●			
17	唐津環境防災推進機構KANNE			●				●	●	●											
18	SCRUM呼子			●			●							●							
19	伝統漢方研究会	●					●														
20	ミニ授産施設・唐津	●																			
21	きらり	●												●							
22	浜一街交流ネット唐津													●			●		●		
23	西日本ほじょ犬協会	●	●						●					●							
24	どじょっこの会			●				●												●	
25	睦	●																●			
26	ファミリーサポートさくら	●		●										●				●			
27	天山・鎮守の森林をつくろう会		●					●													
28	ひまわり	●																			
29	蕨野の棚田を守ろう会		●	●				●						●						●	
30	唐津市民劇		●				●							●							
31	玄海灘を守り育てる会						●	●						●							
32	岸山社中	●												●							
33	唐津観光情報センター			●	●	●														●	
34	NPO活動支援・未来																			●	
35	Natural Life			●				●													

※団体番号 1～33 は事務所の所在が唐津市のみ、34 及び 35 は唐津市にも事務所を持つ。平成 24 年 8 月末現在、出典：男女共同参画・地域づくり課

●他のまちと比べてみると

・ NPO法人の数を、県内 10 市で比較すると、佐賀市に次いで2番目であるが、人口割合からすると多くはない。（データ5）



（データ5） 県内 10 市の NPO 法人数

※平成 24 年 8 月末現在、出典：佐賀県男女参画・県民協働課

カテゴリー⑦　市民協働のまちづくりについて考えてみよう！

論点34：市政に市民の声が活かされていますか？

●論点を選んだ理由、背景

- 市民参加のまちづくりや、多様化するニーズに対応するために、市民の意見を市政に生かす機会は整っているか。また、それらは活用されているか。
- 若者の政治意識は低下しているのか。

●唐津市のいま

- 旧市町村単位に9つの地域審議会が設置されており、年4回の会合が開催されている。委員は2年の任期だが、半数以上が再任されている。また、女性登用率は4割前後となっている。**（データ1）**
- ホームページに「意見箱」が設置されているが、利用が年々減少しており、平成 23 年度は 157 件となっている。**（データ2）**
- パブリックコメントは年によってばらつきがあるが、意見を提出する人数は総じて少ない。**（データ2）**
- 20～30 歳代で投票率が低い。**（データ3）**

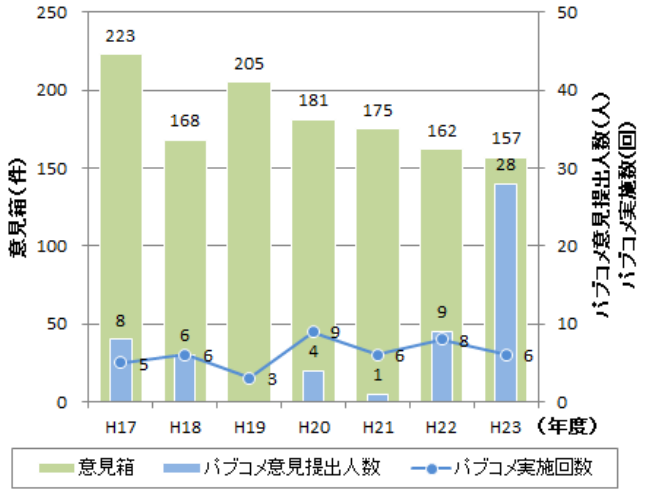
（データ1）　地域審議会委員構成の推移

任用年	委員数	再任率			年齢構成（人）					女性登用率	
		新任（人）	再任（人）	再任率	30代	40代	50代	60代	70代	うち女性（人）	登用率
平成17～18年度	90	90			（不明）					35	38.9%
平成19～20年度	90	42	48	53%	5	10	29	34	12	37	41.1%
平成21～22年度	90	31	59	66%	4	9	31	37	9	35	38.9%
平成23～24年度	90	41	49	54%	4	10	25	39	12	36	40.0%

- 地域審議会は「合併によって中心部と周辺部の格差が生じる」「住民の意見が行政施策に反映されにくくなるのではないか」などといった住民不安への対応や、それぞれの地域独自の振興策などについて意見を聴くことなどを目的に、旧市町村単位で設置したものである。
- 述べられた意見等は、地域代表の意見として、市の各分野の事業に反映されている。最近の議題としては、浜玉三本松キャンプ場廃止、北波多ちぐさの跡地利用、観光案内板の改善などがある。
- また、市の各種計画等へも意見を述べることで、地域の意見が反映されている。

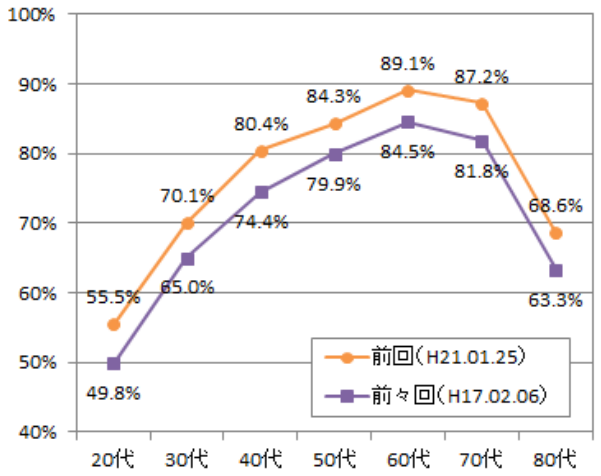
※出典：男女共同参画・地域づくり課

（データ2） 意見箱・パブコメの意見数等の推移



※平成 24 年 7 月末現在、出典：広報公聴課

（データ3） 市長・市議会議員選挙の年齢別投票率

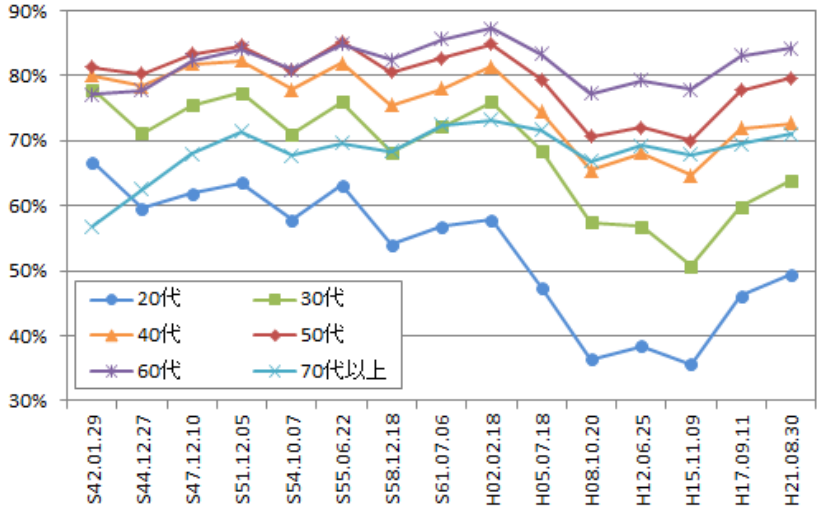


※出典：唐津市選挙管理委員会

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

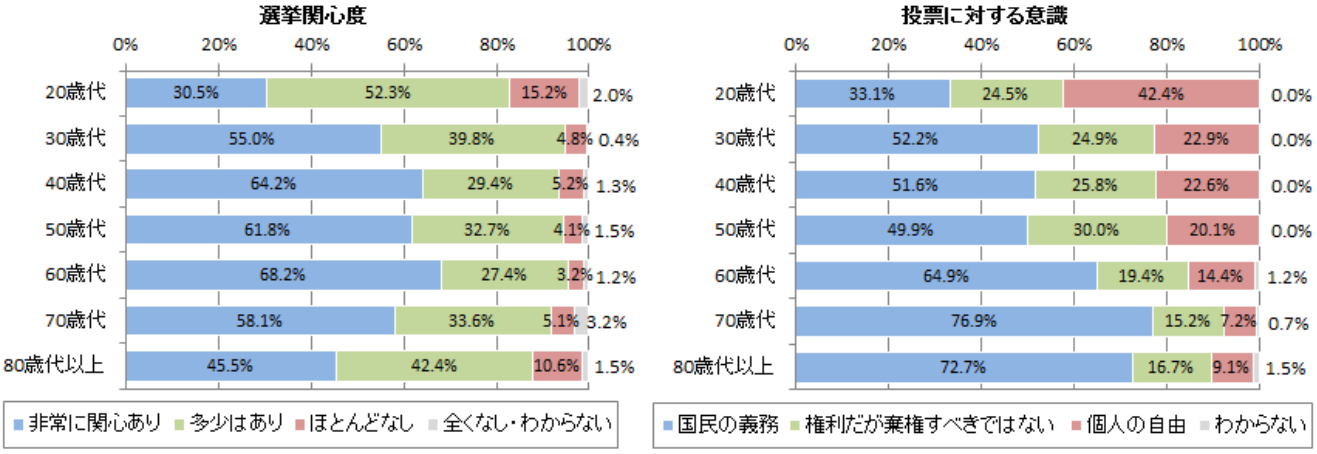
・ 20～30 歳代は、国政選挙でも投票率が低く、選挙への関心も薄い。（データ4）（データ5）

（データ4） 衆議院議員選挙の年齢別投票率の推移



※出典：財団法人明るい選挙推進協会ホームページ

（データ5） 年齢別選挙関心度



※平成 22 年 3 月、出典：第 45 回衆議院議員総選挙の実態（明るい選挙推進協会）

カテゴリー⑧　行政にムダがないか考えてみよう！

論点35：職員の能力は十分に活かされていますか？

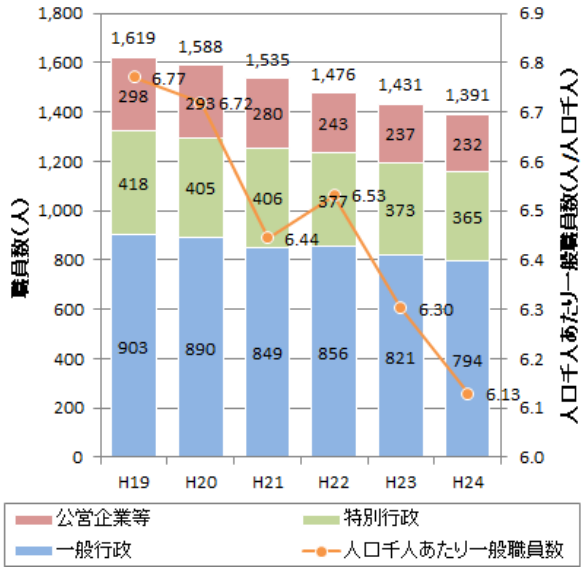
●論点を選んだ理由、背景

- 地方分権・権限委譲が進み業務量が増加するとともに、市民が求める行政サービスも多種多様となってきているが、合併・行革などにより職員数が減少しているため、職員１人あたりに対する業務負担が増大しつつある。
- このような状況下においては、個人の能力の高さや、職務に対し積極的に取組む意識などが求められるが、職員の能力が発揮できているのか。また、発揮させるためにはどうすればいいのか。

●唐津市のいま

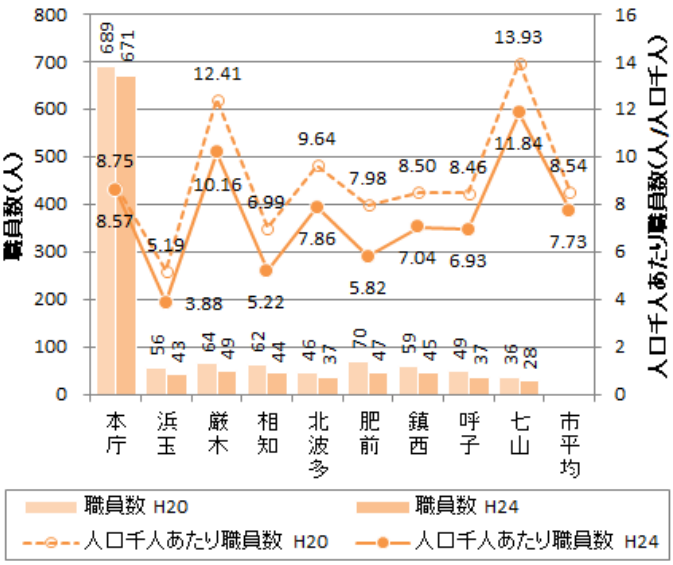
- 職員数は減少しているため、市民千人あたりの一般行政職員数は減少傾向にある。（データ1）
- 地区別の職員数は、人口が増加している浜玉地区が少なく、山間部で人口が少ない七山地区及び厳木地区が比較的に多い。（データ2）
- 市民課関係窓口の受付件数は全体として減少傾向にあるが、本庁より支所の減少率が高い。また、本庁の受付件数が支所の 2.3 倍程度となっている。（データ3）
- 平成 23 年度の本庁職員の時間外勤務の平均が 11.1 時間/人・月、支所職員の時間外勤務の平均が 5.7 時間/人・月と、倍近くの開きがある。（データ4）
- 職員数の減少に伴い不適切な事務処理の数は若干減少傾向にある。（データ5）

（データ1）　職員数の推移



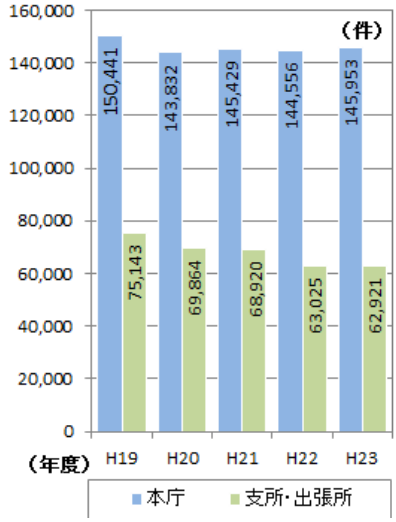
※各年 4 月 1 日現在

（データ2）　人口千人あたりの地区別職員数の推移

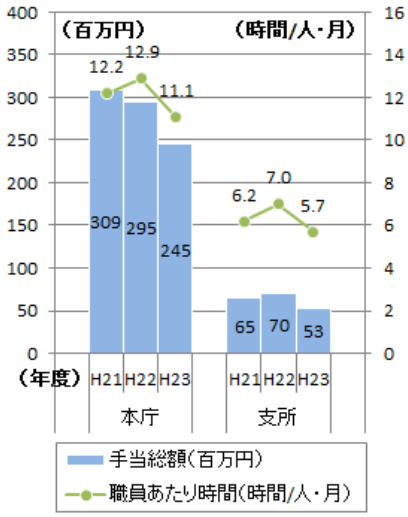


※各年 4 月 1 日現在、競艇・病院・消防・技能労務職を除く、出典：人口は住民基本台帳（平成 24 年 3 月 31 日現在及び平成 20 年 3 月 31 日現在）

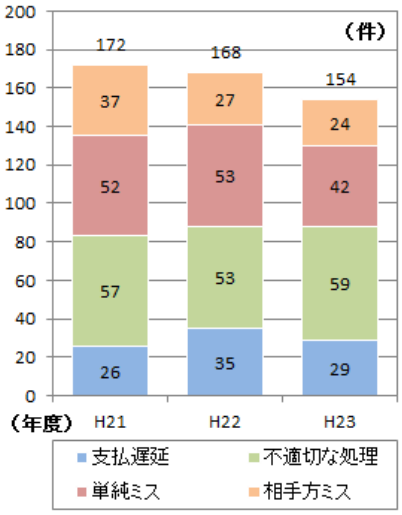
（データ3） 市民課事務関係窓口受付件数の推移



（データ4） 時間外勤務の推移



（データ5） 不適切な事務処理の推移

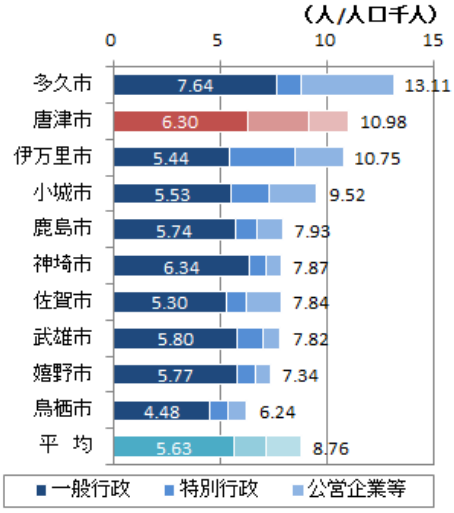


※出典：例月出納検査指摘事項数（監査委員事務局）

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

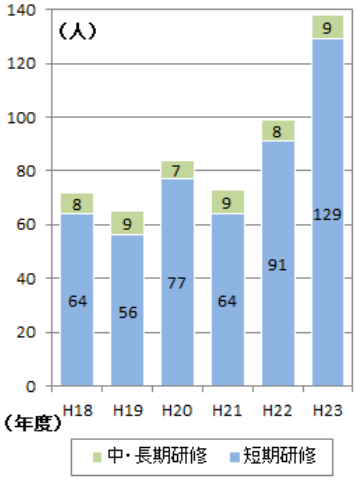
- 佐賀県内各市の職員数を比較してみると 10 市中2番目の多さとなっているが、広域合併に伴う市域の拡大によるもの考えられる。（データ6）
- 職員研修の実施は増加傾向にある。（データ7）
- 休職者数は5年前と比べて増加している。また、平成 19 年度から月2回メンタルヘルス相談を実施しているが、相談者数はその年度により若干の増減がある。（データ8）
- 平成 24 年度から各課における人材育成及び職場内研修を推進するため、人材育成チーフを選任して職員の能力向上に努めている。
- 新しい人事評価制度の導入が検討されており、新制度では上司と部下が業務内容を共有認識して、目標を達成したかどうかの目標管理を行い、上司と部下の面談で達成度を点数評価することにより、公正性と透明性を高めて職員の成長とモラルの向上を図る予定となっている。

（データ6） 県内 10 市の人口千人あたりの職員数



※職員数は平成 23 年 4 月 1 日現在、人口は平成 23 年 3 月 31 日現在（住民基本台帳）

（データ7） 職員研修受講者数の推移



（データ8） 病気休職者数とメンタルヘルス相談者数の推移

年度		H19	H20	H21	H22	H23
病気休職者数	合計	8	9	16	16	19
	うち病気	5	4	7	6	8
	うち傷病	0	0	0	2	1
	うち精神	3	5	9	8	10
メンタルヘルス相談	開催回数	18	10	6	7	12
	相談者数	6	10	6	7	13

カテゴリー⑧　行政にムダがないか考えてみよう！

論点36：身近な公共施設は活用されていますか？

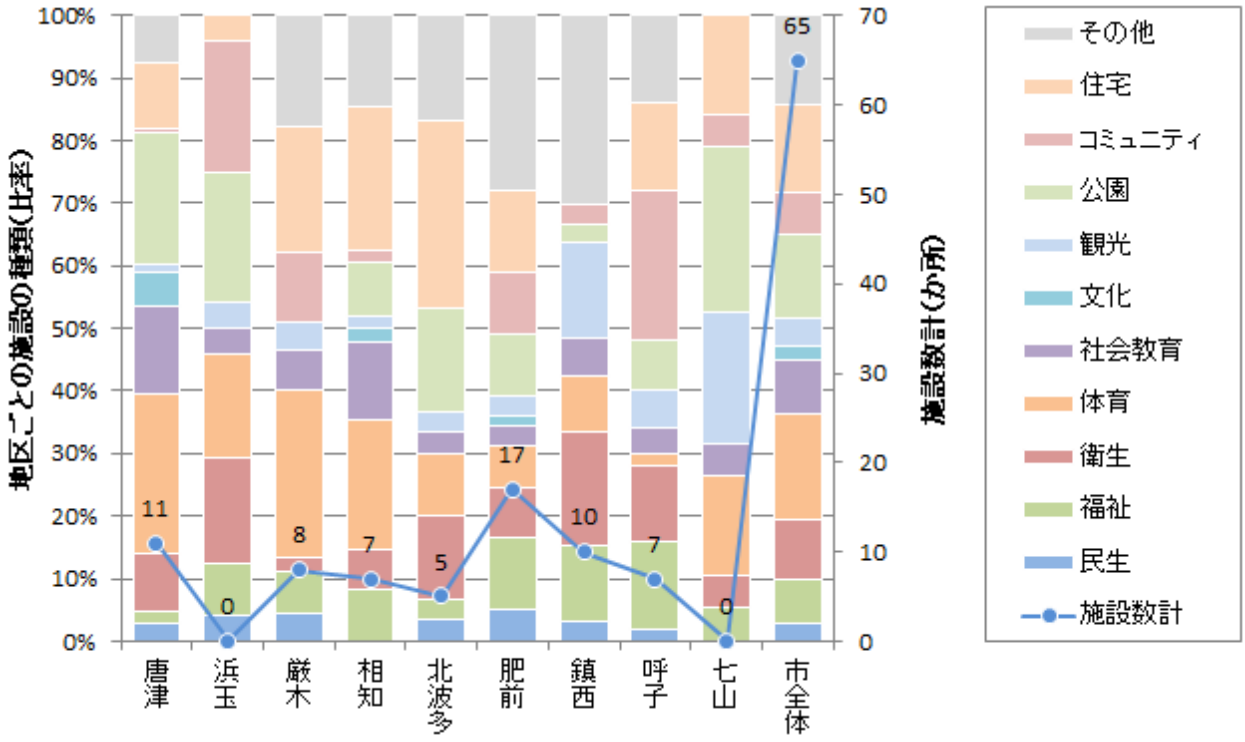
●論点を選んだ理由、背景

- 身近な公共施設にはどのような施設があるか。どのくらい利用されているか。
- 市民のニーズに合った公共施設の数、配置となっているか。

●唐津市のいま

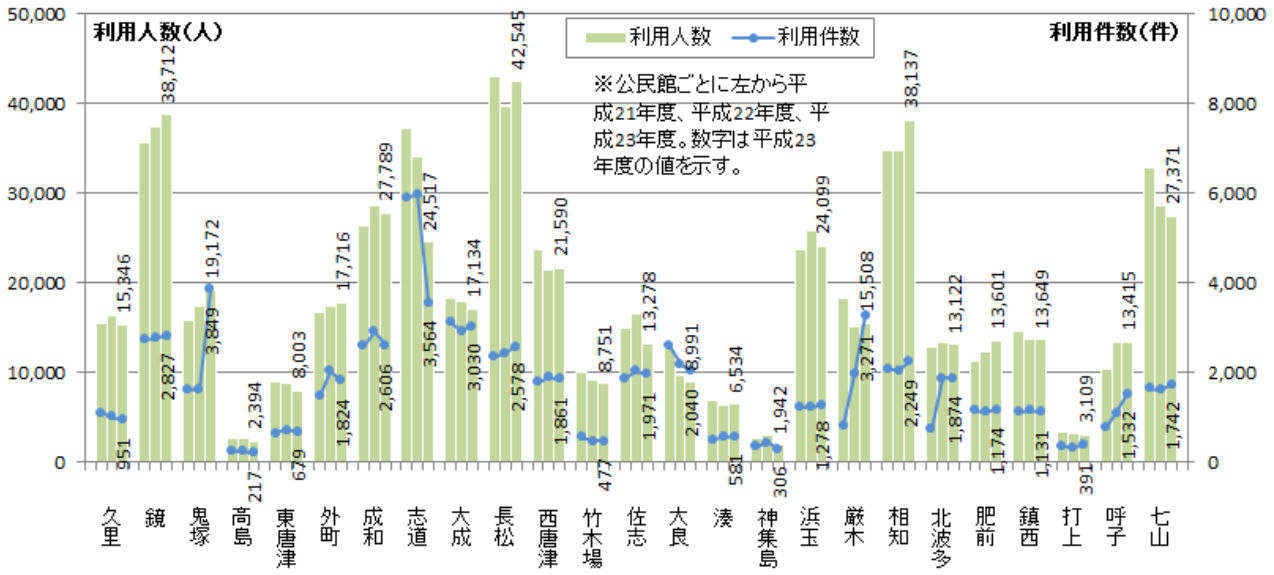
- 公共施設（公園、公民館、学校、庁舎、火葬場）の市内の分布状況をみると、唐津地区や、各地区の中心部に集中していることがわかる。**【基礎データ編 p.84】**
- 公の施設だけで、459 施設が存在している。**（データ1）**
- 公民館は市内に 25 か所あり、ほぼ安定的に利用されている。**（データ2）**
- 市が運営する火葬場は7施設あり、うち2施設が離島に存在している。施設が老朽化しており、葬祭ができる施設は3施設、その他の4施設は火葬のみの施設である。7施設のうち、常時開場しているのは大平山斎苑と浜玉斎場さくら苑の2施設で、あとの施設は申し込みがあったときだけの利用となっている。
- 火葬場の利用は、高齢化の影響もあり、年々増加している。**（データ3）**

（データ1）　公の施設　支所別数



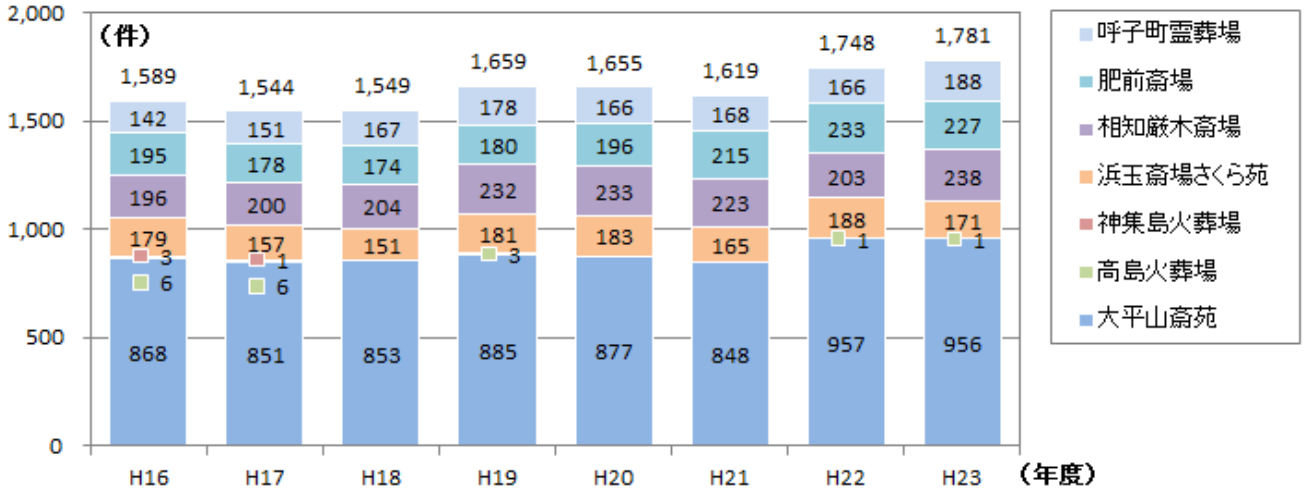
※平成 24 年 4 月 2 日現在、出典：企画政策課

（データ2） 公民館別年間利用者数の推移



※平成 24 年 3 月 31 日現在、出典：唐津市の教育

（データ3） 施設別火葬件数の推移

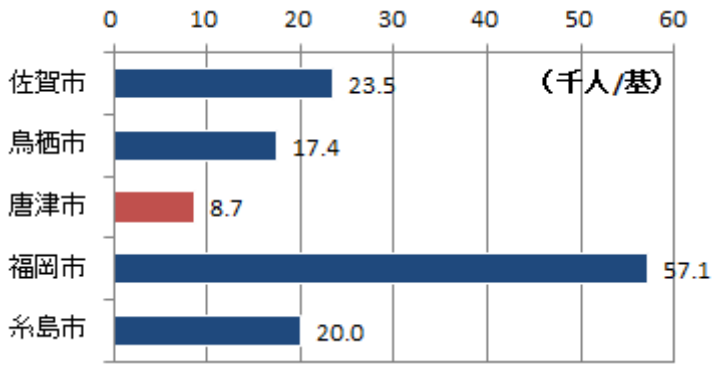


※出典：生活環境対策課

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

・ 他市と火葬炉1基あたりの利用者数を比較すると、唐津市の火葬炉は充分足りている状況であり、過剰であると考えられる。（データ4）

（データ4） 近隣市の火葬炉1基あたりの人口



※平成 24 年 3 月 31 日現在、出典：生活環境対策課

カテゴリー⑧　行政にムダがないか考えてみよう！

論点37：公共施設をどう維持していきますか？

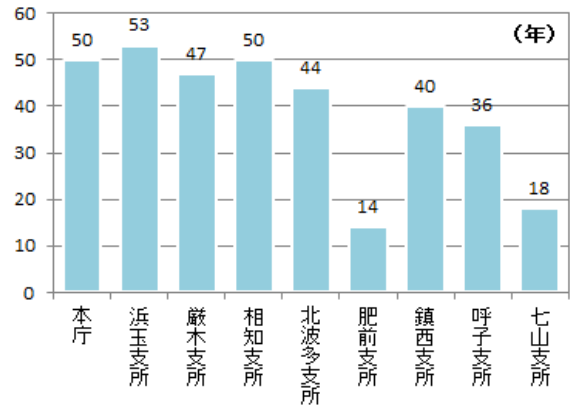
●論点を選んだ理由、背景

- 市町村合併により広域化した市域に数多くの公共施設があるが、財政状況が厳しいなか、施設の維持管理は、適切に行えるのか。
- 市役所本庁舎は建て替えが必要か。 支所はどうすべきか。

●唐津市のいま

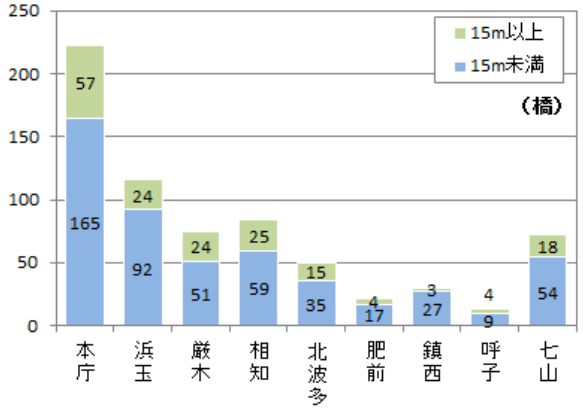
- 本庁舎は築年数 50 年以上が経過し、耐震の建物ではない。旧町村役場はすべて支所として存在している。（データ1）
- 橋梁の多くが建設後 30 年以上経過しており、補修等の対策が急務となっている。（データ2）（データ3）
- 公園に設置している遊具の経年劣化や破損等による修繕、メンテナンスなどの維持管理費は、年間1億4千万円を超えている。（データ4）（データ5）
  ※公園の利用状況については【論点9】参照。
- 公の施設の約7割が、今後も市が直営で運営するとの方針が出されている。（データ6）

（データ1） 本庁・支所の築年数



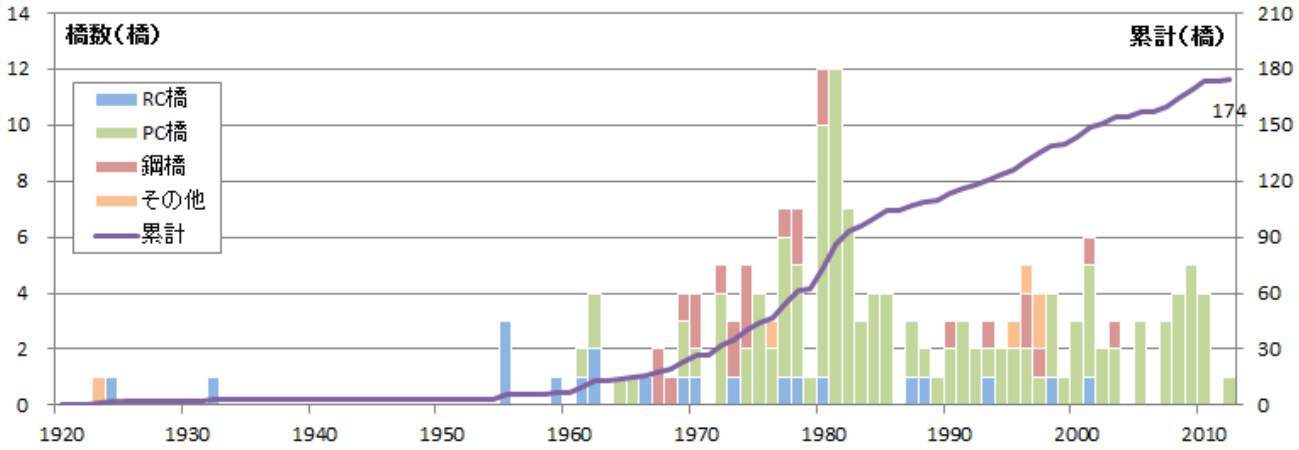
※平成 24 年 4 月現在

（データ2） 管理橋梁数



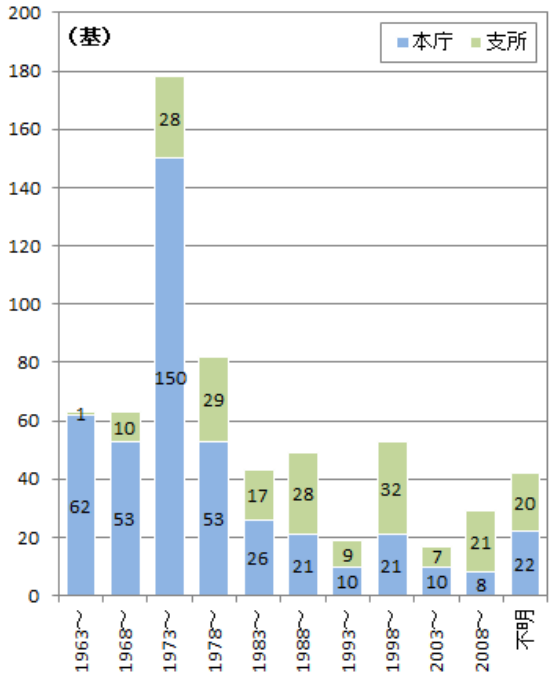
※平成 24 年 6 月現在

（データ3） 橋長 15m 以上の架設年分布



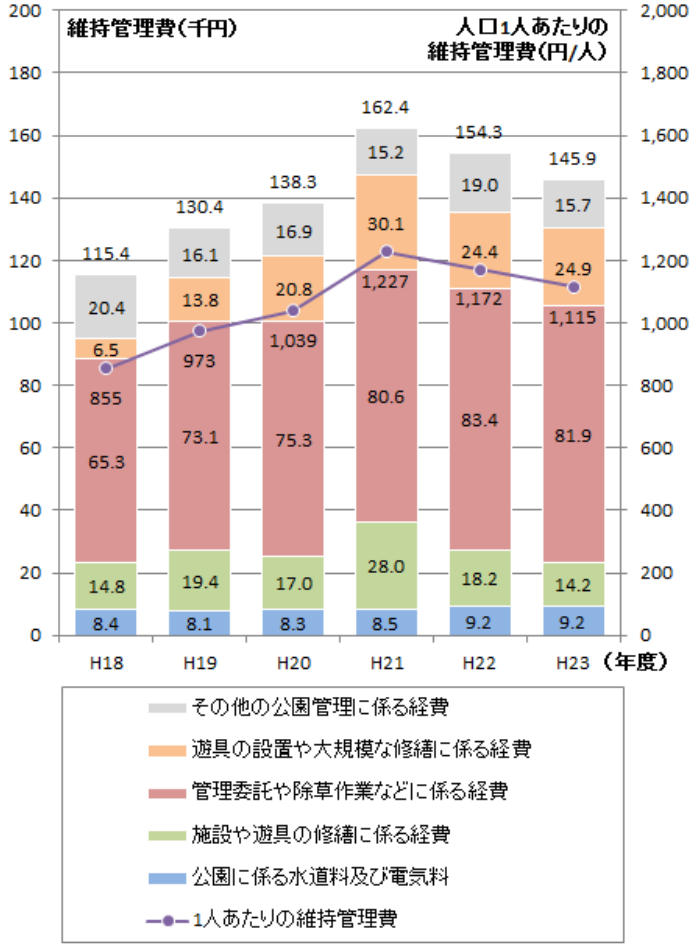
※出典：道路河川課

（データ4） 遊具設置経過年数



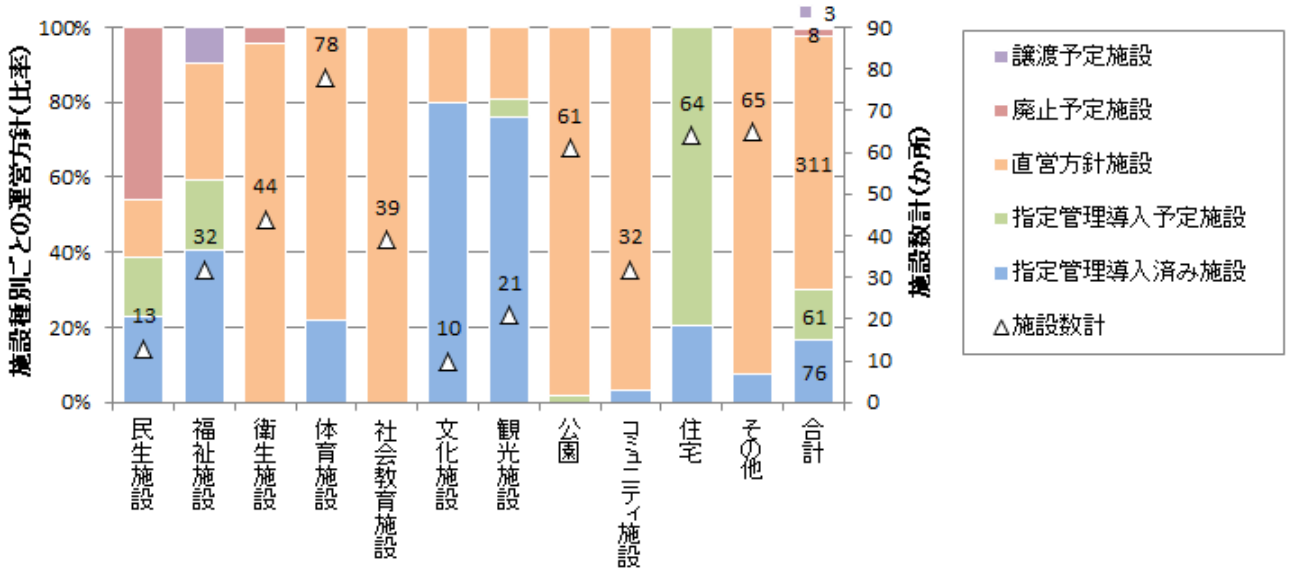
※出典：都市計画課公園係

（データ5） 公園・緑地の維持管理費の推移



※出典：都市計画課公園係

（データ6） 公の施設の管理運営方針



※出典：企画政策課

カテゴリー⑧　行政にムダがないか考えてみよう！

論点38：効率的な自治体運営は行われていますか？

●論点を選んだ理由、背景

- 本庁、８支所、３出張所体制で自治体運営を行っているが、人件費、施設維持管理費等もかかっていて、現在の体制がベストであるのか、検討が必要である。
- 唐津市と同規模の自治体の実態はどうであろうか。

●唐津市のいま

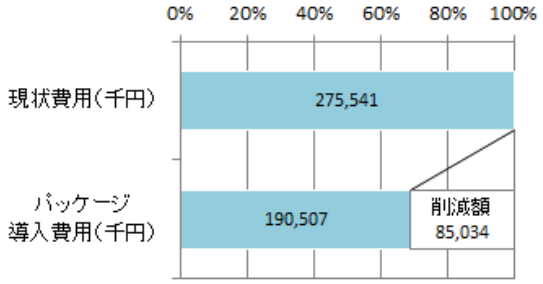
- 職員人件費は年間約 96.7 億円、庁舎維持管理費は約 2.3 億円である。**（データ1）**
- 現在、総務省の推薦するクラウドシステムの導入が検討されており、その費用検証結果によると、約 31%の経費削減が見込まれる。**（データ2）**
- 行政評価（事務事業評価）の項目別平均点は、内部の評価ではあるが、「効率性」と「達成度」指標が他の項目に比べて評価が低い。**（データ3）**
- 自治体運営に対する外部の評価である市民の意識調査の結果では、窓口手続きが早く終わるとは感じられておらず、サービスの満足度は高くない。**（データ4）**

（データ1）　本庁・支所・出張所に係る人件費及び維持管理費

	職員数	人件費	維持管理費
本庁	844 人	74.2 億円	1.4 億円
8 支所 3 出張所	416 人	22.5 億円	0.9 億円
計	1,260 人	99.0 億円	

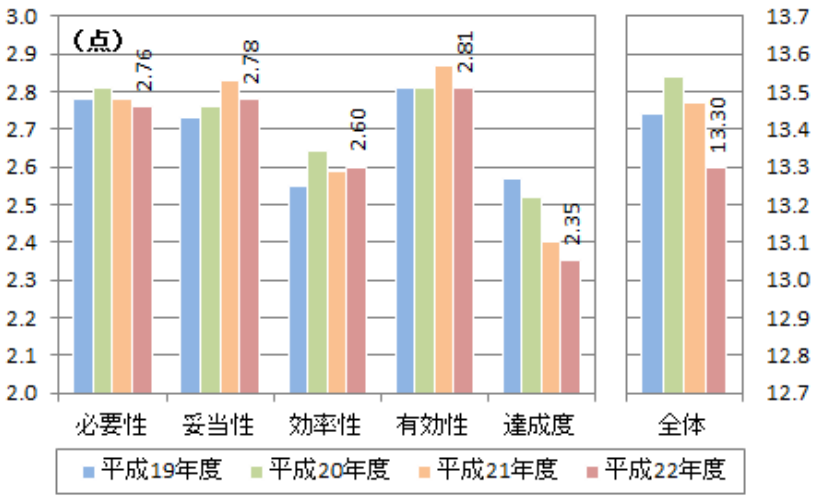
※平成 23 年度、職員数は消防職員を除く、出典：企画政策課

（データ2）　効率的見直しの一例（総務省の推進するパッケージシステムの導入の際の費用検証）



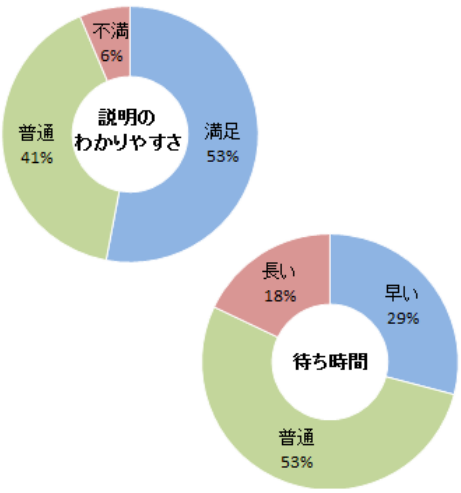
※平成 24 年度、平成 25 年度の並行運用費を含む。出典：総務課情報推進係

（データ3）　事務事業評価の項目別平均点の推移



※出典：企画政策課

（データ4）　窓口サービスに関する市民アンケート結果



※平成 21 年 9 月の 10 営業日に庁舎利用者 251 人が回答、出典：平成 21 年度行政経営改革プロジェクト

●他のまちと比べてみると ／ ちがう見方をしてみると

- 同人口規模の類似団体と比較すると、財政力指数が低く、歳出に占める人件費、公債費の割合が大きい。（データ5）
- 同面積規模の類似団体と比較すると、支所数や職員数が多く、予算規模は約 1.5 倍で、実質公債費比率が高い。（データ5）

（データ5） 職員数、財政規模、公債費比率等（類似団体との比較）

同人口規模の類似団体

市町村名 市町村類型	唐津市 Ⅲ－１		会津若松市（福島県） Ⅲ－１		延岡市（宮崎県） Ⅲ－１		八代市（熊本県） Ⅲ－１		大崎市（宮城県） Ⅲ－１	
合併の状況	17.1.1 唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町 18.1.1 七山村 （１市６町２村）		16.11.1 会津若松市、北会津村 17.11.1 河東町 （１市１町１村）		18.2.20 延岡市、北方町、北浦町 19.3.31 北川町 （１市３町）		17.8.1 八代市、鏡町、千丁町、泉村、坂本村、東陽村 （１市２町３村）		18.3.1 古川市、田尻町、三本木町、松山町、鹿屋台町、出山町、鳴子町 （１市６町）	
人口（人）	126,926		126,220		131,182		132,266		135,147	
面積（km2）	487.48		383.03		868.00		680.60		796.76	
職員数（人）	1,391		987		1,429		1,153		1,037	
支所 支所数	８支所		２支所		３支所		５支所		６支所	
支所 支所の業務	総合支所方式 （人事、財政などの管理部門を除く）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		総合支所方式 （人事、財政などの管理部門を除く）		総合支所方式だが、窓口業務だけに移行中		総合支所方式 （人事、財政などの管理部門を除く）	
出張所 出張所数	３出張所		１４行政センター		出張所なし		２出張所　※		１出張所 ※行政センターは廃止予定	
出張所 出張所の業務	証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）				証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）※その他８出張所は市民支援のみ		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）	
財政力指数	0.43		0.65		0.48		0.49		0.50	
歳出決算金額（百万円）	61,918	構成比	46,037	構成比	53,249	構成比	53,708	構成比	55,113	構成比
人件費（百万円）	11,503	18.6	7,738	16.8	10,654	18.9	8,237	15.3	9,097	16.5
扶助費（百万円）	11,843	19.1	9,357	20.3	12,220	21.7	11,661	21.7	8,943	16.2
公債費（百万円）	9,697	15.7	6,367	13.8	8,094	14.4	6,991	13.0	7,403	13.4
実質公債費比率（%）	18.0		17.4		12.4		16.0		15.0	

同面積規模の類似団体

市町村名 市町村類型	唐津市 Ⅲ－１		新発田市（新潟県） Ⅲ－１		鹿屋市（鹿児島県） Ⅲ－１		津山市（岡山県） Ⅲ－１		三原市（広島県） Ⅲ－１	
合併の状況	17.1.1 唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町 18.1.1 七山村 （１市６町２村）		15.7.7 新発田市、豊浦町 17.5.1 紫雲寺町、加治川村 （１市２町１村）		18.1.1 鹿屋市、五平町、串良町、輝北町 （１市３町）		17.2.28 津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町 （１市３町１村）		17.3.22 三原市、本郷町、久井町、大和町 （１市３町）	
人口（人）	126,926		101,202		105,070		106,788		100,509	
面積（km2）	487.48		532.82		447.33		506.36		471.13	
職員数（人）	1,391		902		849		884		940	
支所 支所数	８支所		３支所		３支所		４支所		３支所	
支所 支所の業務	総合支所方式 （人事、財政などの管理部門を除く）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		総合支所方式 （人事、財政などの管理部門を除く）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		総合支所方式 （人事、財政などの管理部門を除く）	
出張所 出張所数	３出張所		１出張所		８出張所		１分所		出張所なし	
出張所 出張所の業務	証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）		証明書発行 窓口業務（住民異動関係のみ）			
財政力指数	0.43		0.53		0.46		0.56		0.66	
歳出決算金額（百万円）	61,918	構成比	41,778	構成比	42,851	構成比	43,629	構成比	48,976	構成比
人件費（百万円）	11,503	18.6	7,027	16.8	7,049	16.5	7,482	17.1	8,266	16.9
扶助費（百万円）	11,843	19.1	5,741	13.7	9,832	22.9	8,915	20.4	7,326	15.0
公債費（百万円）	9,697	15.7	5,234	12.5	5,230	12.2	5,964	13.7	7,694	15.7
実質公債費比率（%）	18.0		11.8		12.1		15.6		10.7	

※出典：平成 22 年度決算カード（総務省）、ただし、職員数、支所数、出張所数は平成 24 年 4 月 1 日時点の電話聞き取り